

JFA news

11 NO.499
2025.
月情報号

特集

睡眠と コンディショニング

代表チームでの取り組み

大塚慶輔 U-18日本代表フィジカルコーチ

JFAアカデミー福島での取り組み

保坂太雅 フィジカルコーチ

選手に聞く

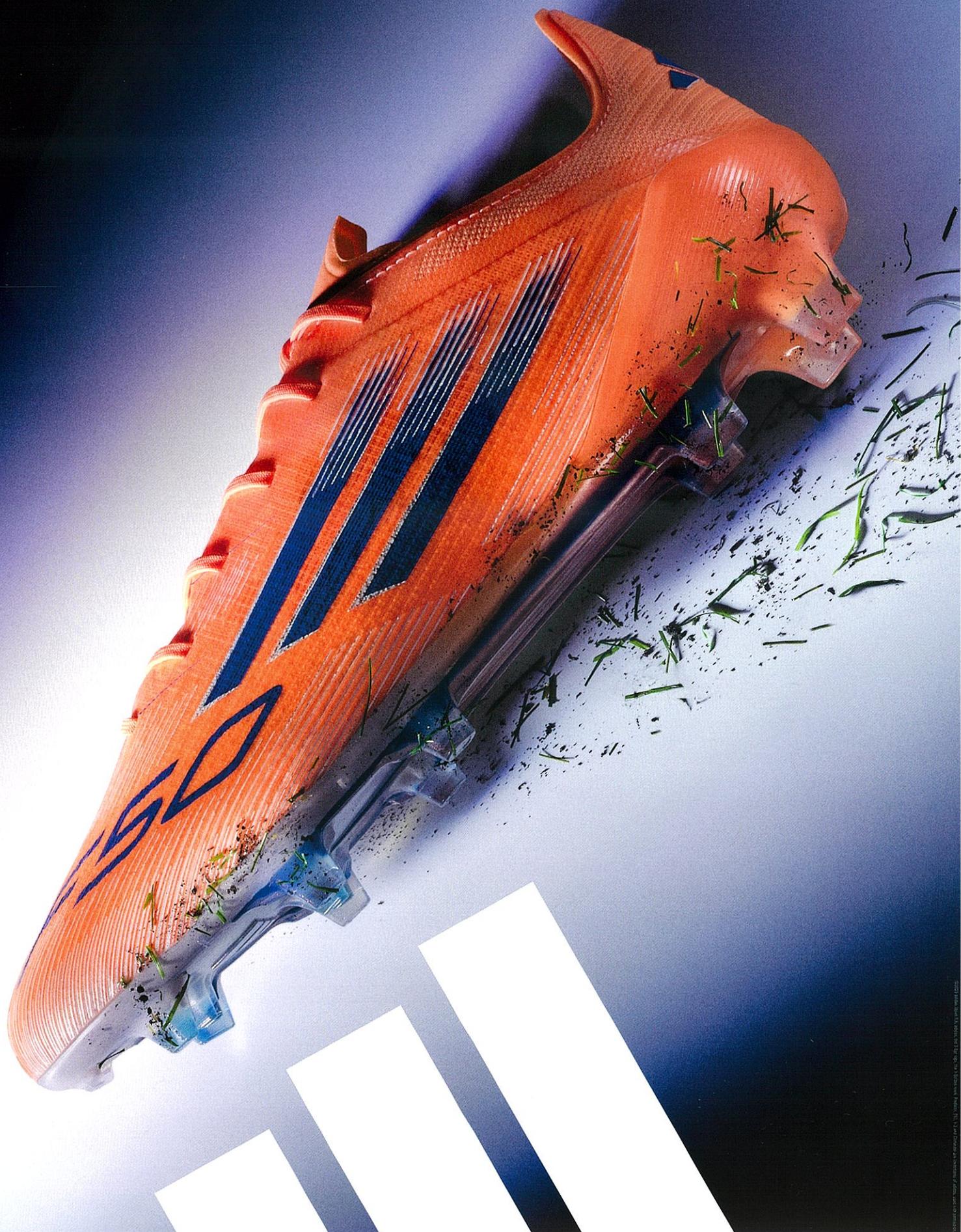
稲垣祥選手 (名古屋グランパス)

睡眠障害のリスク要因

～武田文教授 (筑波大学) インタビュー



F50



特集

睡眠と コンディショニング



CONTENTS

004 代表チームでの取り組み

大塚慶輔 U-18日本代表フィジカルコーチ

008 JFAアカデミー福島での取り組み

保坂太雅 フィジカルコーチ

011 選手に聞く

稲垣祥選手(名古屋グランパス)

014 睡眠障害のリスク要因

～武田文教授(筑波大学)インタビュー

日本代表

072 SAMURAI BLUE

キリンチャレンジカップ2025 vs パラグアイ代表、ブラジル代表

074 なでしこジャパン

国際親善試合 vs イタリア女子代表、ノルウェー女子代表

076 フットサル日本代表

国際親善試合 vs フットサルブラジル代表

078 ビーチサッカー日本代表

国際親善試合 vs ビーチサッカーポルトガル代表

大会・試合

017 2025/26 WEリーグ クラシエカップ開幕

018 2025プレナスなでしこリーグ1部・2部

066 第32回全国クラブチームサッカー選手権大会

067 第61回全国社会人サッカー選手権大会

068 文部科学大臣杯争奪 2025年度全国専門学校総合体育大会

第35回全国専門学校サッカー選手権大会

069 わたSHIGA輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会 サッカー競技(成年男子)

070 わたSHIGA輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会 サッカー競技(少年男子)

071 わたSHIGA輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会 サッカー競技(少年女子)

特別企画

021 サッカーと気候問題～Jリーグ気候アクション(後編)

連載

024 短期連載 フットボールがつなぐもの 「第4回:福井ユナイテッドFCの取り組み」

031 隔月連載

JFAの所蔵品からひもとく日本サッカーの歴史

「日本サッカー初のオフィシャルグッズ～ベルリンオリンピック～」

026 隔月連載 My Coaching

勝丸大輔

「『ここに来れば楽しいことがある』と思ってほしい」

028 日本全国FAコーチ巡り

千葉県サッカー協会

「熱を持った仲間をどんどん増やしていきたい」

030 いつも心にリスペクト

大住良之

「他国のサッカー文化にリスペクトを」

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

- エンジョイ●スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
- プレーヤーズファースト●選手にとっての最善を考えること
- フェア●オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
- チャレンジ●成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
- リスペクト●関わりのあるすべてを大切に思うこと

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真:
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、
©F.LEAGUE、©Walnix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス」に取り組んでいます。これは「地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。

032 JFA情報発信局

033 月刊レポート

040 蹴球通信

044 会議レポート

048 データボックス

064 サッカーファミリー広場

080 次号予告



molten®
feel the emotion



天皇杯



EMPEROR'S CUP JFA 105TH JAPAN FOOTBALL CHAMPIONSHIP

天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会

唯一の公式試合球

モルテン公式オンラインショップ販売中！

詳しくは→





特集 睡眠とコンディショニング 心身の健康も フットボールも、 全ては良い睡眠から

規則正しい生活は、健康にスポーツを楽しむ上で欠かせないものだ。しかし、スマホやパソコンなどのデジタル機器の普及が、健康、特に「睡眠」に大きな影響を与えている。そこで今号では育成年代における睡眠の重要性について特集する。育成年代の指導に携わる指導者のほか、トップカテゴリーで活躍する稲垣祥選手にインタビューを実施。筑波大学の武田文教授には睡眠障害のリスク要因について聞いた。





JAPAN
NATIONAL
TEAM

優先すべきものが分かれれば、 行動も決まる

睡眠(休養)は、アスリートが高いパフォーマンスを発揮するために不可欠なもので、トレーニングの一部ともいわれている。睡眠の重要性と質の高い睡眠を取るための方法について、U-18日本代表チームの大塚慶輔フィジカルコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日・2025年10月20日



大塚慶輔U-18日本代表フィジカルコーチ。昨年はなでしこジャパン(日本女子代表)のフィジカルコーチとしてパリオリンピックに参加した

INTERVIEW

大塚慶輔U-18日本代表フィジカルコーチ

1日8時間以上の睡眠を

——睡眠が選手のパフォーマンスに与える影響はどれくらい大きいのでしょうか。

大塚 皆さんが考えている以上に大きいと思います。特に身長が伸びる成長期に睡眠をしっかりと取らない、もしくは睡眠の質が低いと十分な成長が見込めなくなります。また、どれだけ良いトレーニングをして栄養バランスの良い食事をしたとしても、睡眠時間が短かったり、就寝時間が遅かったり、睡眠の質が低かったりすると、回復は著しく妨げられます。判断力が鈍るという研究結果もありますし、パフォーマンスに大きく影響します。

——睡眠は、量と質ではどちらが大切なのでしょうか。

大塚 基本的には両方とも必要です。睡眠時間が1日8時間未満の選手は、8時間以上寝ている選手に比べてけがのリスクが1.7倍、感染症の発症率が3倍になるというデータもあります。成長期は最低でも1日8時間、できれば9時間から10時間は取ってほしいと考えています。しかし、今の育成年代の選手たちは、学校が終わってから部活動やクラブチームで練習をし、選手によっては塾などにも通い、帰宅が21

時から22時、就寝が23時から24時になるケースも少なくないと思います。そこから9時間の睡眠を取るのには難しいので、その場合は質を高める工夫が必要になります。

——野球の大谷翔平選手が10時間から12時間寝ることを公言して話題になりましたが、寝すぎているわけではないのですか。

大塚 そう思います。Jリーグでも、意識の高い選手は9時間から10時間は寝ています。成長期の子どもも夏休みや冬休みには睡眠時間をしっかりと確保できますので、体が大きくなります。ですから、指導者は、子どもたちが十分な睡眠時間を確保できるように練習時間を設定してあげることが大切です。週末や休日は平日に比べてしっかりと寝る時間を取れると思いますので、土曜日は午後後に練習すれば、翌朝は少しゆっくり過ごせるでしょうし、日曜日は午前中に練習をして午後を休養に充てるようにすれば、ゆっくり休んで早く寝て、月曜日に備えることができますと思います。

睡眠の質を高める
三つの方法

——「質の高い睡眠」は、どのように定義されますか。

大塚 睡眠は深い睡眠からスタートし、ノンレム睡眠、レム睡眠と交互に繰り返していくのですが、睡眠の質が低いと深い睡眠の時間が短かったり、それがなかったりするの、最初にその深い睡眠をしっかりと取れるかどうかのポイントになります。また、夜中に目が覚めてしまう「中途覚醒」もないことが望ましいと言えます。

——深い睡眠というのは具体的にどのような状況を指すのでしょうか。

大塚 体が動かず、誰かが起こそうとしてもなかなか起きない状態です。通常は、最初の1時間から90分間ぐらいが深い睡眠の状態になります。この深い睡眠の間に最も体が休息し、記憶が定着するのですが、深い眠りが取れないと体を十分に休めることができなくなってしまいます。

——深い睡眠が取れない場合、その原因はどこにあるのでしょうか。

大塚 まずは、脳が活性化していることです。寝る直前までテレビやスマホを見ていると脳が興奮状態になり、深い睡眠がなくなりますし、昼寝をしすぎるとそこで深い睡眠をとることになり、夜に寝るときに浅い睡眠から始まって体がしっかりと休まらないことがあります。また、布団に入

って横になってから寝るまでの時間（入眠潜時）にも着目してほしいのですが、10分から15分程度で眠りに入るのが通常の状態です。寝落ちのような感じですぐに寝る人は寝つきが良さそうに思えますが、実は絶対に近く、疲労がかなりたまっている状態で、睡眠の質は高くありません。布団に入ってから徐々にリラックスし、15分程度かけて徐々に眠りについていけば深い眠りに入ることができますし、10分で深い眠りに入ればより理想的です。

——睡眠の質を高めるためにはどうすればよいのでしょうか。

大塚 主な方法としては三つあります。まず、就寝の3時間前までに食事を済ませることです。胃に固形物があると睡眠の質が下がってしまいますし、固形物が消化器官を通過するのに2時間15分かかるとされていますので、3時間前までに食事を済ませるのが良いでしょう。夜に試合や練習があるときは、終わってから家に帰るまでの間にある程度しっかりと食べて、家に帰ったら軽いものを食べるという「分食」を心がけ、胃の中が空っぽに近い状態で寝るようにしてください。

次に、入眠の2時間前にお風呂に入ることです。湯船に浸かると体温が上がると、それが下がっていくと



寝る時間から逆算して夕食の時間を決めることも、質の高い睡眠につながる

**最も体が成長するときほど
睡眠を取って骨を強くしたい**

ます。

—— 育成年代の選手は睡眠の重要性を十分に理解していると感じていますか。

イミングで眠くなるホルモンが出てきますので、それをうまく使えば寝つきが良くなります。疲労回復の効果もありますので、2時間前にお風呂に入っておくのを勧めます。そして三つ目がスマホカットです。明るい空間で興奮状態にあると体が覚醒してしまいますので、就寝前は間接照明の空間で過ごし、テレビやスマホを見ないようにすることが望ましい。この時に胸郭まわりを広げるストレッチをして呼吸しやすい状況にしておくことも推奨して

大塚 なかなか浸透していないのが現状ですが、選手だけでなく、指導者や保護者の方も関心を示してくださいますし、知ろうとする姿勢は強いです。全国各地でトレセンや指導者養成の活動をする、「何時間寝るようにすればいいですか」とか「学校に通っているときはどうすればいいですか」「食事と睡眠、どちらを優先させればいいですか」といった質問が毎回、寄せられます。大切なのは栄養をしっかり取ることで、もちろん睡眠もすごく大事です。寝られるときにはしっかりと寝るようにしてください。また、寝られないことにあまりストレスを感じないようにはほしい。練習などがあつて22時まで家に帰れないとなると9時間寝るのは物理的に不可能だと思いますので、そのことにストレスを感じず、寝られるときにしっかりと寝ましょう。そして栄養をしっかりと取って、睡眠の質を高める努力をしましょう。そういうことを選手や指導者、保護者に伝え

ています。

—— 睡眠の管理が特に必要な年代はありますか。

大塚 身長が一番伸びる中学生、女子の場合は少し早くて小学校高学年ぐらいの時期ですね。ですので、4種や3種の指導者が正しい知識を持つていないと適切なトレーニングの計画を立てられず、睡眠や食事の重要性を伝えられません。身長が伸びるときは、まず骨が伸び、さらに伸びた骨の密度が高くなり、そこから初めて筋肉がついていきます。この時期を過ぎてしまうと、あとからどれだけ栄養をとっても骨は伸びませんし、骨密度も高くなりません。最も伸びる時期に必要なエネルギーと睡眠を取らないと、本当はもっと伸びるはずだった身長が伸びなかつたり、もつと強くなつていたはずの骨が弱いままになってしまつたりします。筋肉は後からでもつけられますが、骨に関してはその時期にしか鍛えられませんので、これを逃してしまうのは大きな損失です。特に4種の女子選手は少人数が男子中心のチームに交じって活動しているケースが多いので、指導者や保護者が成長のメカニズムを理解していないと伸び盛りの時期に栄養や睡眠が不十分になり、本来の成長ができなくなる可能性があります

ます。寝ること、食べることの重要性を、選手本人が知っておくのはもちろん、保護者や指導者も理解しておく必要があります。

—— 「睡眠に適した環境」はどのようにつくればいいのか。

大塚 寝る前は照明が明るいところにならずといるよりは間接照明の少し薄暗いところにいるほうがいいでしょうし、音楽もヘッドホンをつけて激しいものを聞くよりは、リラックスできるような曲を流すほうがいいと思います。また、リラクゼーションできる香りのアロマを使用することで睡眠の質は上がります。今はスマホのアラームをかけて起きる人が多いと思いますが、寝室にスマホを持ち込むとどうしても寝る直前まで画面を見てしまいます。本当に睡眠の質を高めたのであれば、目覚まし時計を使うほうがいいでしょう。それから、夏はエアコンをかけるほうがいい、暑くても窓を開けて寝たほうがいい、という話も聞くと思いますが、近年の猛暑でエアコンをつけられないのは現実的ではありません。低すぎない室温、もしくは風が直接、当たらない場所で寝るようにしたほうがいいですし、夜中にエアコンが切れて暑くて起きてしまうようなケースも避けたほうがいいでしょう。遠征先でホテルに泊まると

きは、加湿器を使い、ない場合は浴槽にお湯をためて湿度を保つなどして乾燥対策をすることも大切です。

睡眠の質を 心拍数で管理

——代表チームの活動期間中に実際に取り組まれていることはありますか。

大塚 国際大会では中2日での連戦になることがありますので、その場合は試合翌日の練習開始時間を少し遅らせ、通常は7時起床のところを8時にするなどして、睡眠時間をしっかり確保できるように監督と話をしてスケジュールを立てています。夕食も寝てほしい時間の3時間前に取れるようなスケジュールを組んでいますし、入浴や胸郭を広げるストレッチの効果についても伝えるようにしています。また、サムライブルー（日本代表）となでしこジャパン（日本女子代表）の選手たちにはウェアラブル端末を装着してもらい、入眠時や深い睡眠が何分あったか、体温や心拍数などのデータを取っています。ただ、それで何かを評価するのではなく、睡眠の質を高めるためにできることを一つずつやってもらうよう啓蒙する手段として取り入れています。

——育成年代の代表選手については、睡眠の質を測る手段はあるのでしょうか。

大塚 参考にしていることの1つは起床時の心拍数です。代表活動期間中は、調子の良し悪しやよく寝られたか、疲労はないかといった自覚的なコンディション、睡眠時間などを各自で記入するシステムを使っていて、その記入項目の1つに起床時の心拍数があります。睡眠不足や疲労が残っているとき、少し体調が悪いとき、海外遠征で時差ボケを感じているときなどは心拍数が平常時より少し高くなるんですよ。その数値を見て、いつもと違う数値の選手に対してはケアするようにしています。

——中学生や高校生だと、練習帰りの公共交通機関や迎えの車の中で疲れて寝てしまうこともあると思いますが、これは避けたほうがよいのでしょうか。

大塚 まず、午前練習などの後の昼寝については、15時、遅くとも16時までに20分から30分程度の仮眠であれば問題ありません。むしろ推奨しています。40分以上寝てしまうと深い睡眠に入ってしまう、その日の夜に深い睡眠の時間が短くなったり、なくなったりします。20〜30分程度の短い昼寝は「パワーナップ」と呼ばれる方法で、リフレッシュの手段として勧められています。ですから、練習帰りの電車や車の中で寝てしまうことはできるだけ避けたいですね。瞬間的にうとうとしてしまうのは仕方ありませんが、帰宅までに1時間かかるとして、その間、ずっと寝ているのはお勧めできません。昼寝から起きたときには必ず日光を浴びて体を覚醒させたほうがよいですし、大人であれば昼寝の直前にコーヒーを飲んでから寝ると、血中に入ったカフェインが30分ぐらいたつてから効き始めるので寝覚めが良くなります。

——睡眠の大切さについて、選手や指導者、保護者の方々にあらためてメッセージをお願いします。

大塚 今はいろいろな情報があり、トレーニングや栄養補給、睡眠などの知識をお持ちの方もいらっしゃると思います。それを自分自身や自分の子どもに当てはめるのが難しい場合もありますので、できることを自分の予定表に書くことをお勧めします。トレーニングの後に何を食べ、そこから移動時間で何をすべきなのか、何時に就寝するのかなどを当てはめていって、1

日の最適なタイムスケジュールをつくる、ということですね。

バケツに石を入れていくイメージで考えると、トレーニングや食べることで、寝ることなど最も大切なことが「大きな石」で、その隙間を勉強や翌日の準備などの「小さな石」で埋めていきます。スマホを触る時間やゲームをする時間は、小さな石の隙間を埋める「砂利」のようなものだと思います。自分にとっての大きな石は何か、その次の小さな石は何かを見極め、優先順位をつけながら当てはめていけば理想的なタイムラインができ、おのずと自分の行動が決まるはずですよ。



成長期を迎える中学生年代は特に睡眠を意識し、骨太の体をつくりあげたい

JFAアカデミー福島での取り組み

睡眠を含めたコンディショニングも一貫性を重視

JFAアカデミー福島では、男子は中学3年間、女子は中学、高校の6年間を全寮制で生活する。睡眠の重要性や選手のコンディショニング管理について、男女共に指導している保坂太雅フィジカルコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日・2025年10月22日

プロセスに一貫性を
睡眠も規則正しく

——育成年代における「睡眠」の重要性についてお聞かせください。

保坂 睡眠は、体づくりとコンディショニングを整える上で必ず考えなければならぬことの1つです。特に育成年代では、プロセスに「一貫性」を持たせることが大事であると思っています。睡眠においては、何時に寝て、何時に起きるのか。さらには良い睡眠を取るために夜をどう過ごすかなど、選手たちには自分で考えて取り組めるようになってほしいと思っています。

——「一貫性」とは、目的を持って規則正しい生活を習慣化していく、といった考え方でしょ

保坂 そうです。選手には自身をオーガナイズ、つまり管理できるようにしてもらいたい。



そのためには睡眠、食事、入浴（交代浴）やストレッチなどのセルフケアも一貫性を持って取り組めるようになることが大切です。それが習慣化するとチームとしての文化になっていきますし、なにより一貫性を持たせて取り組むからこそ、あの選手は日常からこういう取り組みをしていたから代表選手になれたんだ、といったように後輩となる選手たちにもプロセスが見えやすくなります。

——睡眠について選手たちに伝えていくことはありますか。

保坂 毎シーズンの始まりに、良い睡眠を取るために就寝前の過ごし方を伝えています（表1）。ベッドに入った後には早く深い眠りに入ることが望ましいので、就

寝の1時間前には明るい光を遮断すること。その間にストレッチで胸郭周りを広げて呼吸をしやすくするといったことも勧めています。なかなか寝付けなくても、10分程度入浴して副交感神経を優位に働かせるような方法もあるといった話もします。

ちなみに、明るい光を遮断するというのは、スマホを利用するのを避けようという意図もあります。これは効果はなかったけど、これは自分には効果があった、という経験はたくさんすることです。自分にフィットした方法が見つかり、セルフコンディショニングにつながっていきます。

——寝るときにはスマホを部屋に持ち込まない、というルールもJFAアカデミーにはありますか。

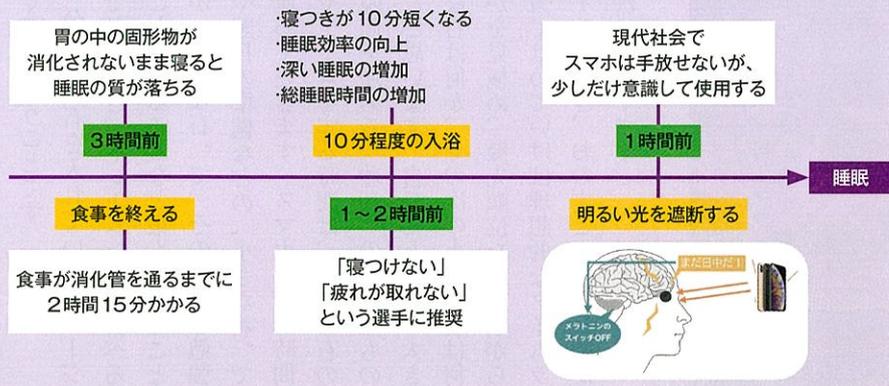
保坂 はい。基本的に就

ね。

保坂 選手にはいろいろなコンディショニングの方法を伝えていますが、その中で何に取り組んで何に取り組まないのか、今のうちからいろいろとトライしてもらいたいですね。これは効果がなかったけど、これは自分には効果があった、という経験はたくさんすることです。自分にフィットした方法が見つかり、セルフコンディショニングにつながっていきます。

——中学生は22時、高校生は22時、

■表1 JFAアカデミー福島 睡眠の質を高めるための取り組み



■表2 JFAアカデミー福島 就寝・起床時間

基本の 就寝時間	中学生(男子・女子)	22時
	高校生(女子)	22時半
基本の 起床時間	平日	6時15分
	土日祝	6時45分

時半が就寝時間です。これを見て結構早いと思う人もいるかもしれませんが。

保坂 そうかもしれませんね。中学生は8時間、高校生もそれと同じだけの睡眠時間を確保するようにしています。JFAアカデミーの強みは、学校から帰ってきて、すぐにトレーニングをし、トレーニングが終わったらすぐにお風呂に入ることができ、その後すぐに食事ができること。そして、その後は学習時間が確保されていて、毎日同様の時刻で就寝することができます。近年の研究でも、睡眠は量だけではなく同じパターンであることが生活の質を高めるためには大事であるということがいわれているので、寮生活で規則性のある生活を送れていることが僕らの強みだと感じています。

——親元を離れた生活では、精神的に不安定になったり、ストレスを抱えたりする選手もいると思います。睡眠にも影響はあるのでしょうか。

保坂 心理的なストレスもうまく寝付けないなど、睡眠の質が下がる要因になり得ます。福島女子では、基本的に中学生は、学年

——JFAアカデミーでは、

**日々の体調チェック
心拍数は重要な指標**

部屋になる選手を決めています。最初は慣れない空間でストレスを感じてしまう選手もいるかもしれませんが、学年が上の選手たちもみんな同じ経験をしてきていますので、下の選手たちを優しくフォローしてくれています。

睡眠環境においては、複数人よりも1人の方が睡眠の質が高いという研究結果もあるのですが、遠征時には逆に1人では不安で眠れないという選手もいるんですね。ホテルで部屋の人数が1人部屋か2人部屋かを選べるときは2人部屋にして心理的ストレスを軽減するなど、スタッフ間で情報共有しながら調整しています。

——パターンも、習慣ですね。

保坂 同じ時間に寝て、同じ時間に起きることが大事なんです。とはいえ、さまざまな生活環境によつて、日常的に規則性のある睡眠を取れない選手もいると思います。そういった選手には、朝食だけは毎日同じ時間に取ることをお勧めしたいですね。朝食の時間を決めると起きる時間が決まり、睡眠時間を確保するために寝る時間も決まってきますから。

良い睡眠を取り、良いコンディションを維持するからこそ、高強度のトレーニングも思い切ることができる。思い切ってトレーニングできることは楽しさにもつながっていく



を縦割りにして1年生から3年生が1人ずつで3人部屋、高校生は異なる学年の選手と2人部屋。福島男子では、2人部屋または4人部屋で、時期に応じて同学年か異なる学年で相

■表3 起床時心拍数と疲労度の推移



——疲労が蓄積しているということですか。

保坂 そうですね。それを疑った方がいいと

日々、選手たちのコンディションデータを取って管理しています。起床時の心拍数は、疲労の蓄積や睡眠の質と相関があり、心拍数を一つの指標にされていると聞いています(表3参照)。

保坂 起床時に毎日、体重と体温、起床時の心拍数(脈拍)を計測し、睡眠の質、食欲、疲労感、前日のトレーニング負荷、前日のパフォーマンス、女子は月経の有無に関して、各選手がアンケート形式で主観的に入力します。これらすべて数値化され、ダッシュボード機能で可視化できるようになっています。その日のコンディションも、日々の推移も確認でき、異常値が出たときはアラートも出るようになっていきますので、われわれスタッフもコンディション管理に役立てています。

また、心拍数は選手の疲労度をモニターすることにも役立てられます。起床時だけでなく、トレーニング中もハートレートモニターを着用し、GPSで連携して常にモニターングできるようにしています。例えば、2分間の高強度トレーニングをした後に1分休むとします。その1分で心拍数がちゃんと下がっていればコンディションに問題ないと判断できるのですが、心拍数がなかなか下がらない場合は、コンディションがあまり良くないのではないかと、その選手とコミュニケーションを図るのにつなげます。

トモモニターを着用し、GPSで連携して常にモニターングできるようにしています。例えば、2分間の高強度トレーニングをした後に1分休むとします。その1分で心拍数がちゃんと下がっていればコンディションに問題ないと判断できるのですが、心拍数がなかなか下がらない場合は、コンディションがあまり良くないのではないかと、その選手とコミュニケーションを図るのにつなげます。

なでしこリーグでは社会人チームと対戦するため、選手の負担も大きい。疲労を蓄積しないためにも休養を積極的に取れるようスケジュールを調整している



ングも、すぐにチーム練習に合流するのではなく、休養を優先してコンディションに応じて個別にトレーニングを組み、少しずつ適応してきたことを確認できれば、チーム練習に合流するという流れです。

――選手たちも自身のコンディションを把握していると感じられますか。

保坂 分かっていると思いますよ。昨年、海外遠征から戻ってきた選手で、それこそトレーニング直後から1分後の心拍数がなかなか下がらないことがありました。その際も、選手とコンディションがあまり良くないね、という話をして個別にトレーニングしながら徐々にコンディションを上げていきました。その選手自身が、自分のコンディションを誰よりも理解していたからこそ、トレーニングに取り組む意識も高かったですし、コンディションの重要性をしっかりと理解していました。選手の気持ちを思えば、少しでも早くみんなと一緒にトレーニングしたいはずですからね。

疲労を蓄積しないよう 思い切って休む

――女子U18は、なでしこリー

グにも参加し、アウェイへの遠征などでハードスケジュールを余儀なくされることもあります。

保坂 アウェイゲームのときは、深夜や朝方に福島に戻ってくることもあります。翌日が月曜であれば学校がありますので、数時間だけ寝て学校に行くこともあるわけですね。コンディションを考えたとき、これはとてもネガティブな要素です。そこで今シーズンからは、月曜日の練習は通常通りオフ、さらに火曜日もしっかりと休養を取って、水曜日からトレーニングをしましょう、という提案をさせてもらいました。監督もスタッフも同意してくれましたので、日曜日のゲームが終

わって帰りが遅かったときは、月・火曜日をオフにしてコンディションを調整するという、思い切ったトライをしています。

――変化はいかがですか。

保坂 今年は筋肉系のけがが少なく、代表活動やその他学校活動を除いた中で選手稼働率が90%を超えていることがほとんどだったので、功を奏していると思いますですね。

――そのほか、睡眠や休息について伝えていることはありますか。

保坂 あとは昼寝でしょうか。昼寝も重要な休息になりますので、できるのであれば取った方がいいと思います。ただ、2部練習のとき、練習と練習の間に寝るのであればトレーニング直前まで寝るのはやめてほしいと。トレーニングの開始時間を考えて、自分でしっかりとセルフケア、プレウォーミングアップをしてからピッチに出るよう伝えています。

――JFAアカデミーの選手たちは、卒業後こそ真価が問われると言われます。選手たちにはどのように育ててほしいですか。

保坂 寮生活のJFAアカデミーでは、日々のスケジュールがほぼ決まっています。それは、選

手たちの成長において大きなメリットでもあります。周りの選手についていけばある程度のが解決されてしまうという意味ではデメリットもあると思っています。生活が管理された今だからこそ、ピッチ内外で言われたことだけをやるのではなく、どうして今それに取り組む必要があるのか、どうして今それを犠牲にしないといけないのか。すべては自分がなりたいたいの、ぼんやりとした理想でもいいので、その目標に向けて自分自身で考えて自分自身をオーガナイズできるようにしてもらいたいと思っています。JFAアカデミーにいる間も、巣立った後も、自己管理できない選手にさらなる成長は望めません。逆に、自分自身で自分をオーガナイズできる選手は、けがのリスクを最低限に抑え、サッカー選手として長く活躍することができるのだと信じています。選手たちには、プロセスの中に一貫性を持たせて良い習慣、さらには良い文化を根付かせてもらいたいですね。そして卒業後も、JFAアカデミーで身に付けたことを実践してもらいたいと思っています。

スケジュールが管理された中で活動する選手たち。だからこそ保坂コーチは「それぞれのプロセスにも一貫性を持って、自分自身で管理できる選手になってほしい」と話す



選手に聞く

稲垣祥選手（名古屋グランパス）



日々の小さな積み重ねを どれだけ続けていけるか

毎シーズン多くの試合に出場し、名古屋グランパスの躍進を支える稲垣祥選手。育成年代からのコンディショニングとの向き合い方、睡眠やセルフケアなどについて話を聞いた。

オンライン取材日：2025年10月30日

食事を意識して
体を大きくしていった

——長年にわたってトップレベルで活躍されていますが、自身のコンディショニングにつ

いてはいつ頃から意識されていたのでしょうか。

稲垣 小学4年生くらいからですね。当時の所属チームの指導者に「プロでは体が硬い人はいない」と言われ、それから

毎晩お風呂に入った後にストレッチをするようになり、今も

習慣として続けています。そのほか、炭酸ジュースは飲まな

——中学時代はFC東京U-15むさしに所属されていました。が、専門的な知識を学ぶ機会もあつたのでしょうか。

稲垣 栄養士の方が栄養補給について教えてくれたり、クラブが保護者を対象にした栄養講習を開いてくれたりしたのでいろいろと学ぶことがありました。何より親のサポートが大きかったですね。小学生の頃からサッカーに関しては惜しみなく援助してくれましたが、中学時代は練習後すぐに補食が取れるようにおにぎりを作った持たせてくれたり、ほうれん草が良いと聞けば、頻繁に食卓に出してくれたり、たくさん協力してくれました。

——当時、体のケアで特に意識されていたことは？

稲垣 学校が終わってすぐに練習場に移動して、練習後も帰宅するまでに約1時間半かかったもので、家に帰ったらご飯を食べてお風呂に入つてすぐ寝て、また朝起きたら学校に行つて、その後に練習するといった繰り返しでした。何かを意識するといった余裕はあ

りませんでした。回復のための睡眠と、練習が終わったらすぐにおにぎりを食べて、家に帰ったらしっかり夕飯を食べるなど、食事の量は確保するようにはしていました。

——その後、進学した帝京高校も学校からグラウンドまでが遠くて大変だったと思います。

稲垣 学校から電車で移動して、最寄り駅から自転車で20分かけてグラウンドに向かう毎日だったので、余裕のある生活ではなかったですね。ちなみに昼は毎日お弁当持参だったので、親はさらに大変だったと思います。

——コンディショニング面で高校時代に意識していたことがあれば教えてください。

稲垣 食事ですね。中学時代もそうだったんですが、チームで一番、体が小さかったんですよ。だからなるべくたくさん食べることを意識してましたし、高校時代のお弁当は、栄養バランスを重視し、さらにご飯もおかずも量を増やしてかなり大きな容器に詰めても

らっていました。高校時代には身長も伸びて体が大きくなり、それに伴って能力も一気に伸びていきました。

——休養についてはいかがでしたか。

稲垣 今振り返ると、高校時代は「休む」という意識は薄かったかもしれないですね。どちらかというと、体を大きくして、トレーニングをして強くして、さらにトレーニングをひたすら走り続けたり、筋トレをし続けたりといった練習もあったので。もちろん睡眠時

間は確保していましたが、休める時は休むようにはしていませんが、疲労を考慮するところまでは目が向いていなかった気がします。

——大学は日本体育大学の体育学部に進まれました。アスリートに必要な知識を学べる環境だったのでしょうか。

稲垣 そうですね。一人暮らしをしていましたが、授業の中で体組成を測ったり、栄養士の方が栄養指導をしてくれたり、いろいろな学びを競技に生かせる環境ではありました。中学や高校に比べて体のケアも大事にするようになりました。

睡眠不足が体に悪影響 しっかりと睡眠を取る

——育年代を振り返って、睡眠やコンディショニングに関してターニングポイントや大きく考え方が変わるような出来事はありましたか。

稲垣 いくつかありますね。睡眠に関しては、中学生くらいに気付いたのですが、睡眠不足

の時は体への悪影響が顕著に出るなど。母親もそういうタイプで、普段は体力があるのですが、睡眠不足の時はわりと体調不良になっていったんです。自分にとっても十分な睡眠が不可欠だということに気付けたのは大きかったと思います。

体のケアに関しては、高校時代に疲労骨折をして2、3カ月間離脱したことがあって、その時に自分の体のどこが硬いのか、どの部位に張りが出るのか、どのようなケアが必要なのかなどを再確認できました。そうやって自分の体と向き合っている感じができたからこそ、ベースをつくれた気がするのです。けがをしていた期間もそれはそれで重要な時間だったと思っています。

——睡眠不足にならないように心掛けていることは？

稲垣 例えば、夜遅くまでゲームをして寝不足になると、翌日は体調が悪くなるが多かった。そういう行動は避けるようになりました。今は基本的に毎日、昼寝をするよう



稲垣選手は「睡眠不足だと、分かりやすく体に反応が出るタイプ」と語る。「8時間程度が最適な睡眠時間」とし、睡眠不足にならないように心掛けている

かなと。

——睡眠の質を高めるために実践されていることはありますか。

稲垣 寝具やパジャマ、部屋の明るさ、温度設定には気をつけていますし、寝る前にはスマホを見ないようにしています。僕の場合、読書が入眠の儀式のようになっているので、寝る前には必ず本を読むようにしています。一つ一つ試して「これをやっている時は寝つきが良いな」というものがあれば取り入れ、逆に排除もして、調整しながら今の形にたどり着きました。これも自分を知ることにつながりますね。

——睡眠は何時間くらい取っていますか。

稲垣 8時間以上は寝るようになっていて、だいたい8時間から9時間、少なくとも7時間といった感じですね。睡眠時間は、自分にとって最適な時間を見つけていることが大切だと思います。6時間の睡眠で良いパフォーマンスを出せるのであれば、それがその人にとって最適解で、最終的には自分自身を知ることが最も大切な

——プロになってから取り組むようになったことでもあると思いますが、30代になった今、特に意識されていることは何でしょうか。

稲垣 年齢によって取り組むことが変わっていますが、最近



「自分自身の課題に目を向けながらやっていたのが、高校時代で一気に芽が開いた感じ」と稲垣選手は話す

いるのは、休むことよりも、トレーニングで負荷をかけることです。その方が、コンディショニングが落ちないですよ。年齢が上がってきた中で、体のケアとして取り組んでいます。

——休養の割合を増やしているのがセオリーだと思っていました。逆なんですね。

稲垣 僕も最初はそう考えていたのですが、これは逆だな、と感覚的に思うようになりました。もちろん疲労を回復し、コンディショニングを整えるための休養はしっかり取り取りますが、年齢を重ねるにつれて、それだけだとパフォーマンスが落ちるようになってしまっています。監督やトレーナーにも相談してアドバイスをもらいながら、刺激を入れてトレーニングした方がコンディショニングは上がると実感するようになって、2年前くらいからその方向にシフトチェンジしています。

自分の体の違和感を自分で気付けるように

——試合当日はどういった流れで過ごすのでしょうか。

稲垣 試合に向けて、可能な限り睡眠を取るようになります。寝すぎたら動けないとか、体が重くなるという説もあります。僕が、僕はそれを感じたことが全くないので、他の選手よりも寝ていると思います。ナイトゲームの時は2時間くらい昼寝をしますし、デーゲームの時も朝起きてから途中でもう1回寝るようにしています。基本的に試合の3時間半前にチームで軽食を取る時間があって、そこから会場に移動して、試合の準備やウォーミングアップを始めます。

——海外での試合も経験されていますが、どのように対応されているのでしょうか。

稲垣 どんな場所に行っても、たとえ所属チームが変わったとしても、環境などに左右されず、自分でできることだけをやるようにしています。コンディショニングもトレーナーのマッサージやケアを受けすぎないようにすることを若い頃から心掛けていました。他人に委ねすぎると、自分の体をしっかり

り把握できなくなりますが、所属チームが変わった時や日本代表に呼ばれた時に「あのトレーナーがいなかったらこのケアができない、コンディショニングが落ちる」となってしまうので、セルフケアを最優先し、自分の体の違和感を自分で気付けるようにしています。

——コンディショニングやセルフケアの部分で参考にされていることはありますか。

稲垣 他の選手がやっているのを見たり聞いたりしますが、いろいろ試してトライする部分

と、自分の軸を定めていく部分の両方を大事にしています。

——休養やリカバリーの面で、オフの日に意識していることはありますか。

稲垣 休むことに全振りしないように意識しています。例えば、少しウォーキングをしたり、軽めのトレーニングを入れたりして血流を良くする、といったことですね。今は子どもと公園に行ったり一緒に遊ぶのが運動にもなり、リフレッシュにもなるので、自分にとって大切な時間です。

——30代になってなお第一線で戦い続けられる秘訣とは？

稲垣 試合に向けてコンディショニングを整えるのはもちろんですが、僕は日常生活をどう過ごすかの方が大事だと思っています。時間やエネルギー、お金をどれだけ自分にかけて自分の体にフォーカスしているかにかかわっていますし、そういう意識を持たなければ、他の選手に

差をつけられないと思います。何かに取り組んだから大きく改善するといったことはありませんし、それを1日やったから全てが解決することもありません。日々の小さな積み重ねをどれだけ続けていけるかが大きな差になると思いますので、そこは意識しています。

——最後に、育成年代の選手たちに向けてメッセージをお願いします。

稲垣 子どもたちにはいつも、「成長の種まきをしよう」と伝えていきます。種まきなので、ぐには芽が出ませんし、芽が出るタイミングも人によって違います。僕の場合は遅かったですが、種をまくことをまずは大切にして、種をまき続けていることへの肯定感を持ちながら日々を過ごしてほしいと思います。その結果が今の僕でもありますし、同じような成長過程を描いたアスリートは他にも大勢います。いつか芽が出て花が咲くことを信じてやり続けてほしいですね。



「自分のことは自分でできるように、セルフケアにはとことんこだわってきた」と稲垣選手は振り返る

睡眠障害のリスク要因

武田文教授(筑波大学)インタビュー

リスクを知ることが 質の良い睡眠を取るための第一歩

日常的にハードなトレーニングをするアスリートにとって、心身のコンディションを整える睡眠はとて重要になってくる。では、睡眠障害につながるリスクはどこにあるのか。アスリートの睡眠コンディショニングなどを研究している筑波大学体育系の武田文教授に聞いた。

○オンライン取材日・2025年10月23日

就寝時間と起床時間など
習慣に潜むリスク

——2018年に五つの大学の運動部に所属する906名の学生アスリートを対象に睡眠の状態とそのリスク要因に関する研究結果を発表されました。どのような研究をされたのでしょうか。

武田 睡眠の状態を主観的に測定評価する方法はいくつかありますが、私たちの研究では、信頼性や妥当性が高く世界的に用いられている「ピッツバーグ睡眠質問票(Pittsburgh Sleep Quality Index/PSQI)」を使用しました。過去1カ月の睡眠の状態をアンケート形式で回答し、睡眠の質、入眠時間、睡眠時間、睡眠効率、睡眠困難、睡眠薬の使用、日中覚醒困難の7項目における得点を算出します。その総合得点で睡眠状態を判定するというものです。日本人の場合はカットオフ値(※)が5.5、つまり6点以上で睡眠障害があるとされていますが、これに該当する学生は46.5%いることが分かりました。

※カットオフ値…定量的検査で、検査の陽性、陰性を分ける値。あるいは異常があるかないかを分ける境界値のこと。

●ピッツバーグ睡眠質問票(PSQI)とは？

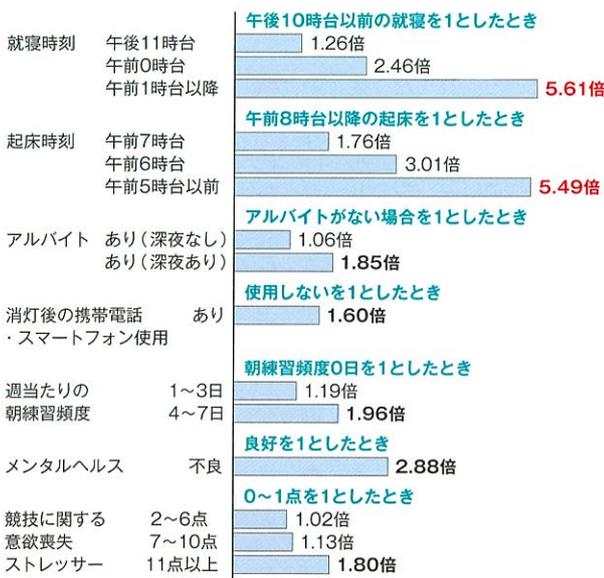
過去1カ月における睡眠の質、入眠時間、睡眠時間、睡眠効率、睡眠困難、睡眠薬の使用有無、日中覚醒困難の7項目について、主観的な評価をアンケート形式で回答する。各項目に0~3点が配分され、合計得点で評価。日本人のカットオフ値は5.5点、6点以上の場合に睡眠障害があるとされる。合計得点が高いほど睡眠障害は重度となる。

▶▶▶ [ピッツバーグ睡眠質問票]または [PSQI]で検索

——学生アスリートのほぼ半数が睡眠障害の状態だったということです。

武田 学生アスリートを対象とした調査では、そうだったということですね。他にPSQIを用いた研究ですと、アジア大会に出場した20歳以上のトップアスリートでは該当者が28.0%でしたし、全日本柔道連盟で東京オリンピックに出場する選手たちの合宿で調査した際は40.7%という結果が出ています。競技種目、環境の変化によっても睡

図1 学生アスリートの睡眠障害のリスク要因(2018年)



5大学の運動部に所属する学生906人(大学1,2年生/平均年齢19歳)を対象に調査した結果から見た睡眠障害のリスクとその倍率。各項目で睡眠障害のリスクとなる基準の確率を1とした場合、それ以外の条件における確率が何倍になるかを示したもの。

※参考文献 武田文:アスリートの睡眠コンディショニング, 体育の科学, 68(11), 798-804, 2018.

眠の状態は変わってきますので、アスリートといっても一概には言えないところです。

——例えば、指導者がPSQIを使って選手たちの睡眠状態を調べることもできますか。

武田 もちろんです。質問票と得点の算出方法はウェブ上でも公開されていますので、どなたでも使うことができます。ご自身でも選手たちに対しても、ぜひやっていただきたいですね。

——睡眠障害のリスクとして考えられることはどんなことがあ

るのでしょうか。

武田 大きく影響するものとして、生活習慣と心理社会的要因の二つが挙げられます。ですので、学生たちには生活習慣、競技活動、メンタルヘルス(心の健康状態)、競技ストレス(心の健康状態)に関わるストレス要因)についてもアンケートを実施し、睡眠状態との関連性を調べました。

一般的によく言われることとして、夜更かしはもちろん、夜遅くまでテレビを見ていたり、暗い中でスマホを見たり、寝る前に食事や飲酒、カフェインを取った



りといった行動は睡眠障害のリスクを高めます。また、深夜のアルバイトをしている場合は寝る時間も遅くなります。

適度な運動には睡眠の質を高める効果があるとされていますが、逆に負荷が高いトレーニングは疲れすぎて睡眠障害を招くこともあります。朝起きてから夜寝るまで、こうしたいろいろな生活習慣が睡眠の状態に関わってきます。

—— 調査結果によると就寝時間も大きく影響するのですね(図1)。

武田 22時台以前に就寝した場合を「1」としたとき、0時を過ぎて就寝すると睡眠障害のリスクは高まります。午前1時台以降ではリスクがおよそ5・6倍になるという結果が出ています。そして、起床時間も関係します。午前8時台以降に起きる場合を「1」とすると、5時台以前に起きた場合のリスクはおおよそ5・5倍になります。

朝練もリスクの一つ
心の健康と睡眠の相互関係

—— ということは、朝早い時間

帯に行う朝練もリスクになると。

武田 そうですね。1週間の朝練の回数を調査したところ、朝練が1回もない選手に比べて週4日以上している選手の方が睡眠状態が良くないことが分かりました。夜遅く寝るのも、朝早く起きるのも睡眠障害を起こすリスクになるんです。

そして、メンタルヘルスが不良である場合も睡眠状態が悪いくちが分かりました。

—— メンタルヘルスはどうのよう
にチェックされるのですか。

武田 K6と呼ばれる、世界保健機関(WHO)や厚生労働省での調査に用いられている心理的スクリーニングツールでメンタルヘルスの程度を測ります。アンケート形式で6つの質問に答え、その合計点数で判定するというものです。PSQIと同様にカットオフ値が決まっています。5点以上ですとメンタルヘルスが不良という指標になります。こちらも公開されていますので、誰でも測定することができます。

—— 学生アスリートの心理的

●K6尺度とは？
米国のKesslerらによって、うつ病や不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。6つの質問について5段階で点数化し、合計点数が高いほど精神的な問題が重いとされている。カットオフ値は5点以上で心理的ストレス相当、10点以上で気分・不安障害相当、13点以上で重傷精神障害相当の可能性があるとされる。
▶▶▶ [K6尺度]または [K6 日本語版]などで検索

ストレスの要因は何でしょう
か。

武田 学生には、学校での勉強や成績、人間関係などいろいろなストレス要因がありますが、学生アスリートにとっては、競技のパフォーマンスが上がらない、思ったような成績が出せない、自信が持てない、さらには、部活動やクラブの人間関係や何かしらの理由によって競技を楽しめない、といった競技に関わるストレス要因が大きいと考えられます。

—— 睡眠がおろそかになると

自律神経が乱れるといわれています。そして、自律神経が乱れるとメンタルも不安定になつて良い睡眠が取れない。悪循環ですね。

武田 その通りです。メンタルヘルスと睡眠は相互に関係があるんですね。ですから、睡眠を改善することも、メンタルヘルスを回復することも大切です。どちらから改善するのがいいか、という点においても、相互関係があるのでどちらからでもいいんです。一番大事なことは、悪い状態のまま放置しないということ、悪循環を長く続けない



試合で最大限のパフォーマンスを発揮するためにも、睡眠障害のリスクを知って対策したい(写真は第56回全国中学校サッカー大会より)



メンタルヘルスを良好に維持するためにも、フットボールを心身ともに楽しめる環境が必要となる(写真はBLUE DREAMみらいスクールin高知より)

ようにすることです。

——PSQIもK6も定期的にチェックすると良いですね。

武田 日常的なコンディショニングという意味でも測定するといいいと思います。自分自身で使うのもいいですし、部活動やクラブ単位などで組織的にやることもお勧めします。定期的にアセスメントをすることで睡眠やメンタルヘルスの状態を知ることができまますから。

——それを機に生活習慣を見直すことも大事ですね。

武田 人間はきつかけがないと、なかなか習慣を変えられま

せんよね。アスリートであれば、パフォーマンスを上げたいと思わなければ、日々のセルフケアになかなか取り組めないと思います。ですから組織やチーム全体で意識を高め、環境を整えて、みんなでやっつけようという雰囲気をつくる必要があるなってくるでしょう。現在は、健康増進に取り組む会社なども増えていますが、強制するのではなく、自分の体と心の健康のためにも前向きに、みんなで楽しく取り組めるよう工夫してもらえたらと思います。

そのほか、アスリートは夜間の睡眠だけでは疲れが取れずオーバートレーニングになりがちということで、夜間睡眠と昼間の仮眠の関係性についても調査をしています。

仮眠は疲労回復に効果 チームみんなで環境改善を

——疲労回復には仮眠も効果的ですか。

武田 私たちが学生アスリートを対象に調べたところ、約90%が仮眠を取っていました。アスリートにとってはオーバートレーニングにならないよう、コ

ンディショニングのためにも仮眠はとても大事ですし、一般的にも昼に仮眠すると午後のパフォーマンスが上がるとされています。労働生産性向上の観点から、勤務時間内に仮眠を推奨している企業もあります。

ただ、仮眠する場合は時間に気を付けなければなりません。仮眠を全く取らない場合と17時以降に仮眠した場合を比較すると、後者の方が夜間の睡眠の質が低下するリスクが高まります。17時以降の仮眠は避けること、そして長時間の仮眠は避けて30分程度に抑えることが大切です。

——適切に休養をとって体と心の回復に努めることが大切なのですね。

武田 アスリートである前に、人間が健康に生きていく上で、栄養と運動、睡眠は欠かせない三要素です。それらが欠けると、さまざまな生活習慣病のもとになったり、心身に悪影響が出てきます。睡眠障害は循環器疾患、糖尿病、うつ病を引き起こすことが多くの研究で分かっています。アスリートに特化すると、集中力や認知力が低

下してけがをしやすくなったり、持久力や瞬発力といった身体的パフォーマンスが低下するリスクになることも示されています。

——心身の健康のためにも、そしてスポーツを健康に楽しむためにも、みんなで睡眠を大切にしていきたいところです。

武田 厚生労働省では「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)〔第三次〕」を実施しており、「健康づくりのための睡眠ガイド2023」も公開されていますので、ぜひ参考にしてください。

仕事やト

レーニングの関係で夕食を取るのが遅くなったり、帰宅が遅くなって睡眠時間が不足したり、通勤時間が長くて疲れてしまったりと、われわれの生活習慣やそれに伴う健康問題は社会的要因に左

右されやすく、自分の意思だけで変えようと思っても難しいものがあります。仕事の時間も職場の環境も、アスリートであればトレーニングや試合などのスケジュールも決まっていますから。だからこそ、みんなで健康を支援する環境づくりが必要になってきます。睡眠状態の確認や生活習慣の見直し、練習のタイムスケジュールの調整、競技活動に関わるストレス要因の軽減やメンタルヘルス保持のサポートなど、チームのみんなで環境を整えることを考えていた

●健康づくりのための睡眠ガイド 2023(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/suimin/index.html



・健康づくりのための睡眠ガイドリーフレット [608KB]

<https://www.mhlw.go.jp/content/001298243.pdf>



・Good Sleepガイド(ぐっすりガイド)成人版 [1009KB]

<https://www.mhlw.go.jp/content/001288005.pdf>



・Good Sleepガイド(ぐっすりガイド)子ども版 [1.1MB]

<https://www.mhlw.go.jp/content/001288006.pdf>



・Good Sleepガイド(ぐっすりガイド)高齢者版 [991KB]

<https://www.mhlw.go.jp/content/001288007.pdf>





3連覇を目指すS広島Rはアウェイでの第1戦、神戸を3-1で破って白星を挙げる

2025/26 WEリーグクラシエカップが10月25日に開幕した。グループステージはWEリーグの12チームを三つのグループに分けて行い、90分で勝敗がつかない場合は大会史上初のPK戦を実施。各グループ1位の3チーム、2位のうち成績上位1チームがノックアウトステージに進出する。

グループAはWEリーグ首位（10月25日時点）のINAC神戸レオネッサと、クラシエカップ連覇中のサンフレッチェ広島レジーナが顔を合わせるなど強豪揃いとなり、第1戦で両者が激突した。先制したのはS広島R、10分に中嶋淑乃がドリブルで駆け上がり、そのままゴールを奪う。後半には途中出場した古賀花野が2得点を決め、3-1としたS広島Rが3連覇に向けて

2025/26 WEリーグクラシエカップ サンフレッチェ広島レジーナの 3連覇なるか グループステージで大会初の PK戦導入

WE Kracie CUP

■グループステージ組み合わせ (グループA)
RB大宮アルディージャWOMEN
ちふれASエルフェン埼玉
INAC神戸レオネッサ
サンフレッチェ広島レジーナ

(グループB)
マイナビ仙台
ジェフ千葉レディース
日テレ・東京ヴェルディベレーザ
AC長野パルセイロ・レディース

(グループC)
三菱重工浦和レッズレディース
ノジマステラ神奈川相模原
アルビレックス新潟レディース
セレッソ大阪ヤンマーレディース

■大会概要
主催：公益財団法人日本サッカー協会／公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ
タイトルパートナー：クラシエ株式会社
表彰：優勝10,000,000円・WEリーグカップ、2位5,000,000円
大会方式・開催期間：
●グループステージ
2025年10月25日(土)～2026年3月22日(日)全6節
WEリーグ12チームを3グループに分けてホーム&アウェイ方式の2回戦総当たりリーグを行う(勝ち点：90分勝利3点、PK戦勝利2点、PK戦敗戦1点、敗戦0点)。各グループ1位と2位のうち成績上位1チームの計4チームが準決勝に進出する。

●ノックアウトステージ
準決勝 第1戦 2026年4月11日(土) or 12日(日)
第2戦 2026年4月18日(土) or 19日(日)
決勝 2026年4月29日(水・祝)
準決勝はホーム&アウェイ方式で行い、決勝は1試合を行う。準決勝の組み合わせはグループステージ終了後に抽選により決定する。

【大会特設サイト】
<https://weleague.jp/kraciecup/2025-26/>

好発進した。古賀は「前半からみんなが良いプレーをし、レジーナの流れになっていた」と勝因を挙げた。また、「雨天で行われたRB大宮アルディージャWOMENとちふれASエルフェン埼玉の一戦は、19本のシュートを放った大宮が3-0で制した。」

グループBの第1戦は昨季のWEリーグ王者である日テレ・東京ヴェルディベレーザがジェフ千葉レディースと対戦。東京NBが90分間で16本のシュートを放ったのに対し、千葉Lは0本だったがゴールは割らせず、スコアレスでPK戦へ。先行の東京NBは1人目・菅野奏音のシュートを千葉Lの17歳GK足立楓にセーブされ、6人目・小林里歌子のシュートはゴールを外れる。PKは5-4で千葉Lに軍配が上がった。AC長野パルセイロ・レディースはホーム

に過去最多4264人の観衆を集めたが、1-2でマイナビ仙台に敗れた。

グループCではアルビレックス新潟レディースと三菱重工浦和レッズレディースが第1戦で対峙



東京NBと千葉Lの第1戦は、粘り強く守った千葉LがPK戦に持ち込んで勝利

し、共にベテラン勢が活躍。1-1で迎えた25分、新潟Lは37歳の有吉佐織の得点で勝ち越すと、対する浦和は35歳・菅澤優衣香がアディショナルタイムに1年7カ月ぶりとなるゴールを挙げ、2-2でPK戦に突入する。浦和が4-2でPK戦を制し、勝ち点2を獲得した。セレッソ大阪ヤンマーレディースは田子夏海が2得点を決める活躍もあり、ノジマステラ神奈川相模原を2-1で退けて好スタートを切った。

グループステージは来年3月まで全36試合が行われる。各グループを勝ち上がるのはどのチームか、また4月29日の決勝に名乗りを上げるのはどこか。S広島Rの3連覇を懸けた戦い、そしてリーグ戦で好調を維持するチームの躍進など、4大会目のカップ戦王者の行方に注目だ。

プレナス リーグ

2025プレナスなでしこリーグは1部が10月12日、2部が同18日に全22節を終え、1部は朝日インテック・ラブリッジ名古屋、2部はVONDS市原FCレディースがそれぞれ初優勝を飾った。 ※戦績表などは62～63ページに掲載



クラブ発足から30年、朝日インテック・ラブリッジ名古屋が初優勝

なでしこリーグ1部は3月15日に開幕し、12チームが全22節を戦った。過去2シーズンで上位に食い込んでいた朝日インテック・ラブリッジ名古屋が、今シーズンは独走。第12節まで負けなし、さらに8試合無失点というスタートダッシュで優勝争いの主導権を握る。夏の中断期間にキャプテンのGK垣内愛菜と最多得点を決めていたエー

スの江崎杏那がWEリーグクラブに移籍したが、中断明けの7試合を3試合無失点で乗り切り、2位に勝ち点差10をつけて優勝を遂げた。相手陣内ですつとボールを握るという理想の試合運びを目指し、シーズンを通してパスサッカーの完成度を高めた。クラブのルーツは、1995年に名古屋グランパスジュニアレディースとして発足したジュニアチーム。過去には、NGU名古屋FCレディース時代のアカデミーに谷川萌々子(バイエルン・ミュンヘン/ドイツ)、朝日インテック・ラブリッジ名古屋スタースでは津田愛乃音(マイナビ仙台)がサッカーを学んだ。昨年6月に廃校を転用したトレーニング施設、朝日インテックWOMEN FIELDをオープンするなど、選手をバックアップしてきたクラブの総合力が初の栄冠に

結びついた。2位で終えたのは古豪の伊賀FC<ノーマン>。敗戦は名古屋と同じく3試合だが、引き分けは8試合と勝ち多かった。日テレ・東京ヴェルディベレーザでのプレー経験がある神谷千菜を軸にした迫力ある攻撃は、ファン・サポーターを魅了した。

静岡ボニータの横山(右)は最優秀選手賞と得点王の2冠。昨年2部での得点王に続き、存在感を示した



2位の伊賀FCは22試合で黒星はわずか三つと健闘。引き分けが多く悔しいシーズンとなった

2位の伊賀FCは22試合で黒星はわずか三つと健闘。引き分けが多く悔しいシーズンとなった

昨季初優勝したヴィアマテラス宮崎は4位で終えたが、試合の平均入場者数は1400人を超え、リーグ最多を記録。昨年2部を制して9年ぶ

3位となった静岡SSUボニータは、本田美登里監督が「静岡県のファン・サポーターが納得する攻撃的なサッカーを目指す」と開幕前に宣言。得点王に輝いた横山久美を筆頭にリーグ最多48得点を記録し、有言実行となった。下馬評の高さから開幕直後は硬さが目立ち連敗スタートとなるなどラレッシュャーに苦しんだが、昇格3年目となる1部で最高順位の成績を残した。

りに1部に参戦した岡山湯郷Belleは6位で終えた。なお、最下位のスベランツァ大阪は2部に自動降格。11位の日体大SMG横浜は、ディオッサ出雲FC(2部2位)との入替戦に進み、1勝1敗で合計スコア3-2として1部残留を決めた。

■なでしこリーグ1部 順位

順位	チーム名	勝ち点	得点	失点	得失点
1	朝日インテック・ラブリッジ名古屋	51	35	12	23
2	伊賀FC<ノーマン>	41	36	21	15
3	静岡SSUボニータ	38	48	29	19
4	ヴィアマテラス宮崎	34	30	27	3
5	ASハリマアルビオン	33	29	24	5
6	岡山湯郷Belle	28	25	32	-7
7	愛媛FCレディース	27	26	38	-12
8	ニッパツ横浜FCシーガルズ	25	21	27	-6
9	オルカ鴨川FC	25	15	21	-6
10	スフィーダ世田谷FC	24	32	33	-1
11	日体大SMG横浜 *1	19	27	40	-13
12	スベランツァ大阪 *2	12	14	34	-20

(*1) 11位日体大SMG横浜は、2部2位ディオッサ出雲FCとの1部・2部入替戦へ(土日体の残留決定)

(*2) 12位スベランツァ大阪は2部自動降格



なでしこリーグ
2部



VONDS市原FC レディースがリーグ参入 1年目で初優勝

なでしこリーグ2部も3月15日に開幕し、12チームが参加して全22節を戦った。混戦を抜け出して優勝したのは、なでしこリーグ参入1年目のVONDS市原FCレディースだった。VONDS市原は開幕直後の2カ月でわずか2勝と早々になでしこリーグの壁に直面する。しかし、5月、6月には8勝1分け

1敗と快進撃を見せて躍進。夏の中断期間に主力選手2人がWEリーグのクラブに移籍するも、再開直後の9月27日に行われた第19節、勝ち点1差で首位を争う吉備国際大学Charme岡山高梁との一戦では、79分に同点に追いつき、終盤に逆転する劇的な勝利を挙げる。パスワークとインテンシティの高さを駆使し、ここから3連勝を飾って優勝を決めた。川本峻輔監督は「選手たちの頑張りには胸を張って『なでしこリーグ2部で一番だ』と言えるレベル」と称賛。選手育成も充実しており、アカデミー出身の佐藤寿音は15歳でU-17日本女子代表候補に招集されるなど、期待の新星も育っている。

1部との入替戦出場権が与えられる2位争いは、し烈を極めた。最終節まで4チームが可能性を残す混戦必至の中、JFAアカデミー福島を5-0で破ったディオッサ出雲FCが勝ち点41で2位に。出雲FCは3月と4月には1勝のみだったが、第16節から最終節まで6勝1敗と破竹の勢いで順位を上げ、入替戦の出場権を手にした。

昨季はac福島と勝ち点1差で入替戦に進めなかったFCふじざくら山梨は、最終節でヴィアティン三重レディースに0-1で敗れて涙をのんだ。開幕4連勝でリーグ序盤をリードした吉備国大は、VONDS市原に敗れた第19節から3連敗を喫して失速。最終節に白星を挙げたが2位には届かなかった。パニーズ群馬FCホワイトスターは終盤の第21節と第22節で計8失点と連敗し、2位が遠のいた。激しい昇格争いの裏では残留争いも繰り広げられ、上位の常連だったac福島は得失点差で8位になるなど苦戦するシーズンとなった。



大躍進を見せて2部を制したVONDS市原L。15歳の佐藤寿音は2部の新人賞を受賞

順位	チーム名	勝点	得点	失点	得失点
1	VONDS市原FCレディース *3	49	51	18	33
2	ディオッサ出雲FC *4	41	33	20	13
3	吉備国際大学Charme岡山高梁	39	49	27	22
4	パニーズ群馬FCホワイトスター	37	29	26	3
5	FCふじざくら山梨	36	30	18	12
6	ヴィアティン三重レディース	31	22	19	3
7	SEISA OSALレイア湘南FC	27	27	25	2
8	JFAアカデミー福島	22	20	34	-14
9	大和シルフィード	22	31	46	-15
10	ディアヴォロッソ広島	22	17	32	-15
11	南葛SC WINGS *5	21	23	40	-17
12	FC今治レディース *5	13	12	39	-27

(*)3) 1位VONDS市原FCレディースは1部自動昇格
 (*)4) 2位ディオッサ出雲FCは1部・2部入替戦へ(SJ体大の残留決定)
 (*)5) 11位南葛SC WINGS、12位FC今治レディースは2025プレナスなでしこリーグ2部入替戦へ(南葛SCの残留が決定、レノファ山口FCレディースが2部参入の権利を獲得/来季の加盟チームは12月の理事会で正式承認)



JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



© JFA / 2024年11月 日本代表先発メンバー

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM PARTNER



一人一人の気候アクションは
微力であるでも、無力ではない

Jリーグ執行役員(サステナビリティ担当)

辻井隆行さん(後編)

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)は、2040年のカーボンニュートラル(二酸化炭素など温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を均衡させ、排出量を実質ゼロにすること)を目標に、地球温暖化に対する取り組みである「Jリーグ気候アクション」を行っている。辻井隆行執行役員(サステナビリティ担当)のインタビュー後編では、Jリーグの今後の展望を聞いた。

○取材日・2025年9月5日

周囲の声に勇気づけられ
SPL参画を決意

——Jリーグは2026年1月から、サッカークラブの気候アクションを数値化し、その進捗や目指すべき方向性を分かりやすく把握できる仕組み「Sport Positive League(SPL)」に参画します。どのようなきっかけがあったのでしょうか。

辻井 24年2月に日本財団さんが主催したサステナビリティに関するイギリスでのスタディツアーに参加し、リバプールFCやトットナム・ホットスパー、イングリッドサッカー協会、ラグビー・フットボール・ユニオン、ウインブルドンなどで各団体が取り組んでいる気候アクションについて学びました。その際にSport Positiveという団体の創業者でCEOを務められているクレア・プールさんという女性と会食する機会があり、そこでSPLの話が聞きました。プレミアリーグで気候アクションの取り組みを12の領域に分けて数値化し、可視化していることを聞いて驚いたのですが、資料を見たらフランスのリーグ1やドイツ・ブンデスリーガも参画していました。スタディツアーの同行者であるスポーツ環境団体の方から「Jリーグも参画したらどうですか」と言われたのですが、何も整理されていない

状態で各クラブの取り組みを数値化していいものかと思ひ、手順を踏んで考えたいという話をして帰国しました。

——即決というわけではなかったんですね。

辻井 その後、同年7月に「サステナビリティカンファレンス」を開催した際の懇親会でSPLの話題になった際、数クラブの実行委員から「早くやったほうがいい」という声が出てきました。「気候変動対策ははずれやらなければならぬ」とだし、それでJリーグ全体の価値が上がるのは良いこと。最初は痛みを伴うかもしれないが、みんなやればいいんじゃないか」という声を勇気づけられたのとタイミングを同じくして、日本財団さんからJリーグの気候アクションに対する助成金を得られる可能性も出てきて、年末に向けて、助成金の申請とSPL参画の準備を並行して行いました。25年はSPL参画のための助走期間とし、各クラブに12項目の中から重点的に取り組みたいアクションプランを選んでもらい、リーグは日本財団さんの助成金を原資として各クラブを支援することにしたんです。そうした準備期間を経て、26年1月から本格始動することになりました。

短期連載

サッカーを通して地域と人々をUniteする存在に

地域に根差したクラブの活動を紹介する短期連載。第4回は、2019年に創設された福井ユナイテッドFCの取り組みを紹介する。ホームタウンでは核となる5つのアシスト活動を展開。そこにあるクラブの思いや取り組みについて、服部順一代表取締役社長兼ゼネラルマネージャーに聞いた。

○オンライン取材日・2025年10月24日



福井県を一つにする 地域貢献はクラブの力に

——福井ユナイテッドFCは福井県と17基幹自治体をホームタウンとしています。その理由を教えてください。

服部 福井はかつて越前と若狭という二つの国からなり、現在は木ノ芽峠を境に嶺北(旧越前)と嶺南(旧若狭)に分けられています。歴史的にも地理的にも、県が一体になりにくい土地柄でした。そんな背景もあってか、クラブを立ち上げるときに「県全体をつなぐ存在になってほしい」という声をたくさんいただきました。福井という地でクラブの存在意義を高めるためにも全ての自治体にアプローチできるような活動しています。

——クラブ名の「ユナイテッド」にも「福井県をより強固に一つに」という意味が込められています。

服部 経済団体の関係者の方とお話をした際、北陸新幹線が敦賀駅まで開通してから「町がどんどん分かれていっているのを感じる」とおっしゃっていました。だから福井ユナイテッドというチーム、そしてサッカーというスポーツを介して福井県を一つにしてもらいたいんだと。その言葉はとても印象的でした。

——クラブにとってホームタウン活動はどのような意義がありますか。

服部 日常的にクラブやサッカーに触れてもらいたいと考え、高い頻度でいろいろな場所に足を運び、その地域の人々とのタツ

チポイントを増やすことが重要です。福井でサッカーをしている人はもちろんいますが、まだそこまで盛んというわけではありません。約70万人いる県民一人一人と接点を持つ、というくらいの覚悟が必要です。

私自身はいくつかのJクラブで運営に携わった経験があり(※)、地域貢献活動も最終的にチームを後押ししてくれる力になるのだとその重要性を感じてきました。過去に経験してきたことを今は地域リーグに所属する福井ユナイテッドでも丁寧に行っていくことが大切だと考えています。

※日本フットボールリーグ時代の東京ガス(現、FC東京)でプレーした後、同クラブでコーチやフロントスタッフなどを務める。その後はJリーグのFC岐阜やV・ファーレン長崎などでGMを歴任。

——ホームタウン活動では「核となる5つのアシスト活動」を展開されています。「アシスト」という言葉にも意味が込められているのでしょうか。

服部 地域にクラブが存在し続けるための大前提として、サッカーという競技の魅力を伝えることはもちろん、地域に貢献するクラブであるということが求められます。そして、ホームタウン活動もわれわれが主導して一方的に提供するのではなく、各地の企業・団体、自治体の既存の取り組みや人々の中にわれわれが入っていったその活動を支えたり、活性化したりしていくことが大事だと考えています。その意味を込めて「アシスト」と表現しています。

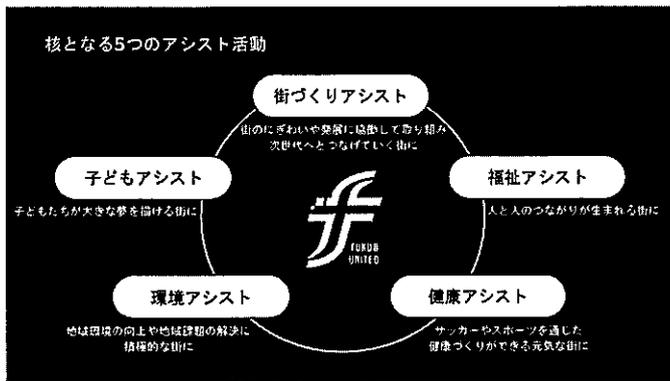
——昨年は年間312回、今年も9月時点で246回と一日一回ほどのペースで活動されていますね。



服部 スタッフの情熱と努力のためです。クラブの前身であるサウルコス福井は2018年末にクラブが消滅しました。その苦しみを経験したスタッフが今のクラブにもいます。それぞれ福井にスポーツクラブを根付かせたいという熱い思いを持って、ホームタウン活動にも力を注いでくれています。

——トップチームは他県出身の選手も多くいます。ホームタウン活動で共有している思いなどはありますか。

服部 選手と契約する際は、サッカー選手としてのキャリアや貢献度を参考にしますが、人となりも重視しています。ですので、クラブの理念や活動方針に共感できる選手たちが、今のチームには集っています。シー



ズン前のミーティングでも、福井の人々の応援があつてサッカー活動ができています。と、そして、サッカーのプレーだけでなく日常の触れ合いの中でも恩返しをしようという文化が生まれています。地域のみなさんとの関係性は相乗効果を生み、選手たちはより応援してもらえようになり、その思いを受けてピッチ上で躍動することが出来ます。応援のパワーは大きいですからね。それを選手たちも実感しているからこそ、ホームタウン活動にも意欲的に参加してくれるんです。サッカースクールでは、選手がスクールコーチを務め、子どもたちを指導していただきますし、イベントにも多く参加しているの

地元の人々と触れ合う機会が多いですよ。

——福井ユナイテッドならではのホームタウン活動はありますか。

服部 たくさんあります。例えば「子どもアシスト」では、各団体の訪問サッカー教室や小学校体育授業巡回、自然体験教室などを行っています。今年から少しアカデミックな分野にも取り組んでいて、福井の自然や文化などを題材に町全体を理科の学び場とする「まちの理科室」というプロジェクトと共同し、試合会場のテクノポート福井スタジアムでペットボトルロケットを作って飛ばすイベントを開催しました。「環境アシスト」は清掃活動が中心ですが、ペットボトルロケットは子どもたちがプラスチックなどの資材がどう活用されるかを考えるきっかけにもなっています。今後も子どもたちが学べる場をつくっていきけるよう考えています。

最近では自治体の事業とも連携し、防災関連のイベントにも力を入れています。専門家の協力を得て防災関連のイベントを主催し、消化体験やAED講習などを行うほか、福井県庁の防災課の方に来ていただいて福井の防災計画について説明してもらいなど、みんなで防災について学び、考えるきっかけづくりもしています。

**地域から頼りにされること
人をつなぎ、育てていく**

——7年目を迎え、地域に福井ユナイテッドは浸透してきていると感じられますか。
服部 浸透してきていると思います。私が

想定していたよりも速いと感じますね。自身、サッカークラブやサッカーの価値を企業にもっと分かってもらうためには何が出来るだろう、という思いでこの仕事を始めました。そして、サッカークラブがあることで町に貢献できることがあるということ、私たちが一緒に取り組むことで企業が実現できることがあるのだと地域に説明して回ってきました。

最近、いろいろな方面から声を掛けていただく機会が増えています。今年も、衆議院議員通常選挙で県民に投票を促すPR活動に選手が参加しましたし、福井県警察本部とは連携協定を結んでいますので、交通安全やSNSでのトラブル防止などといった啓発活動にも参加しています。数年前はまだクラブの認知度は低かったのですが、そうした依頼は少なかったのですが、子どもから大人まで情報を届けるための方法として福井ユナイテッドを選んでもらえるという実感が増してきました。

——ホームタウン活動の今後の展望は？

服部 高齢者の施設や学童などでは運営に苦労されているところもありますし、障がいのある方は社会的なサポートを必要とされています。クラブとしてのビジョンは「福井創生とスポーツ文化による県民幸福度のさらなる向上」を実現することです。地域が抱える課題や問題を一緒に解決していけたらと思っています。福井は自然豊かで食べ物が美味しい所ですが、一次産業の担い手不足という社会課題もありますので、そうしたことも目を向けていきたいですね。

——クラブを通して実現したい夢や目標などをお聞かせください。

服部 マーケティングでいま確信していることは、SNSやAIの需要が増している時代だからこそ、人と人がリアルに関わる機会がより重要になっていく、ということです。デジタルを駆使しながらも人々と触れ合う機会を大切にしてクラブの存在価値を高め、新たな可能性を見いだしていきたいと思っています。また、いつの時代も未来を担う子どもたちは大切な存在です。われわれの活動を通じて、スポーツが好きで人間性豊かな人を育てていきたいとも思っています。



大人向けのサッカー教室も開催。「表にあまり出さないけれど福井の人たちは内に熱い思いを持って」と服部社長（写真左）。だからこそ試合観戦やイベントなどで感情を爆発させている姿にもクラブの存在意義を感じ取ることができる

©2019 FUKUI UNITED

My Coaching

勝丸大輔さん
(郡山フットボールクラブ代表)

1980年代半ばに創設された郡山フットボールクラブは奈良県大和郡山市で約40年、活動を続けている。クラブの代表を務める勝丸大輔さんに指導ポリシーなどを聞いた。
○オンライン取材日・2025年10月26日

試合は子どもたちの自主性に任せる

——郡山フットボールクラブの設立経緯について教えてください。

勝丸 私が小学3、4年生の頃に設立されたクラブです。当時は奈良県内にサッカーチームが増えていた時期で、初代の代表はサッカー経験者ではな

「ここに来れば楽しいことがある」と思っていてほしい



今夏、JFAバーモントカップ第35回全日本U-12フットサル選手権大会出場を果たした郡山フットボールクラブの選手たち

勝丸 郡山FCでサッカーを続け、高校卒業後は大学に通いながら社会人連盟のチームに入ってプレーしていました。郡山FCのコーチ陣も同じチームにいて、「時間があるときに手伝いに来てよ」と声をかけてもらったことが指導を始めたきっかけです。クラブの代表は

別の人が引き継いでいたのですが、私が指導するようになって3、4年たった頃にその人が単身赴任で別の地域に行くことになり、チームを見られなくなってしまう。コーチ会議を開いて代表と監督を誰が引き継ぐか話し合っ

——現在の活動状況について教えてください。

勝丸 対象は幼稚園の年中から小学6年生までで、人数は35人程度ですね。ピーク時は小学1年生から6年生まで130人を超えていたのですが、少子化の影響もあり、だいぶ少なくなりました。コーチングスタッフは10人程度です。私も含めてみんな仕事をしながら指導に携わっていますので週末の活動が高い比重になっているのですが、定年を迎えたスタッフもいますので、その人たちを中心に平日も活動しています。

——ご自身の指導のポリシーを教えてください。

勝丸 スポーツ少年団として設立されたクラブですので、貪欲に勝利を目指すのではなく、まずは地元の子どもたちにサッカーを始める場を提供し、楽しくボールを蹴ってほしいと考えています。とはいえ、ある程度、知名度が高めないとい人が集まらず、活動がままな

かったのですが、職場の近辺にサッカーをしている大学生が何人かいたので、その人たちをコーチに招いてスタートしました。私自身もこのクラブが設立されたタイミングで加入し、そこでサッカーを始めました。

——指導者になられたきっかけを教えてください。

らなくなってしまうので、関西大会や全国大会への出場も視野に入れていきます。高学年になると県外に出て、普段はしないような相手と試合をする機会を増やしていますし、今年は6年生が頑張ってくれて、JFAバーモントカップ第35回全日本U-12フットサル選手権大会に出場することができました。

——バーモントカップでは、監督を務めていた植田健太さんが選手たちのプレーを褒めたり、ポジティブな声かけをしたり、また試合以外の場面で他のチームの選手たちとコミュニケーションを取ったりしている様子が印象的でした。

勝丸 私自身がそういうスタイルというか、大会やトレーニングマッチに行くとき他のチームの指導者と積極的にコミュニケーションを取り、試合は子どもたちの自主性に任せることが多いんですよ。植田監督もこのクラブのOBで、そういったスタイルの中で育ってきた一人ですので、同じようなやり方なのだと思います。試合は、選手が一生懸命頑張るところで、トレーニングしてきたものを出す場所だという考えです。で、コーチングをする場面は少ないんです。今回、バーモントカップに出場する

までは選手を鼓舞し、奮起させる部分が多かったので、本大会では褒めて伸び伸びとやらせてくれたと思います。

次の世代を育て 未来へとつなぐ

——長年にわたって指導に携わる中で、意外な指導論や考え方に触れた経験はありますか。

勝丸 C級コーチライセンス(現、Cライセンス)の指導者養成講習会を受講したときに最初に「キヤッチボールをやってください」と言われたんですよ。いろいろなスポーツの良いところを取り入れてサッカーにつなげていく、ということを教わりました。確かにキヤッチボールをすればボールの落下地点が読めるようになり、それができればトラップやヘディングの上達にもつながります。サッカーの指導法を習いにいったつもりが、サッカー以外のことを教わったので、衝撃的でした。

——実際に郡山FCでもキヤッチボールを取り入れられているのですか。

勝丸 キヤッチボールをすることもあります。練習はなるべく小学校の校庭でやるようにしているのですが、校庭の遊具を使って遊ぶ時間を設け、筋力

や運動神経を養うように心掛けています。小学校によくあるタイヤの遊具を使ってジグザグドリブルをしたり、タイヤの間にボールを通したりといったメニューなどを取り入れて、子どもたちが飽きずに楽しくボールを蹴れるようにしています。特にサッカーを始めれば楽しい子たちには、「ここに来れば楽しいことがある」と思ってもらいたいですし、楽しければどんだんのめり込んでいるいろいろなことを覚え、たくさんボールに触れてうまくなっていきます。

——指導する際に、意識して選手たちに伝えていくことはありますか。

勝丸 年代を問わず、「礼儀」を重んじています。練習に来たら「おはようございます」、帰る時には「今日も一日ありがとうございました」といったあいさつは、どの年代でもしっかりするようにしています。また、自分の荷物の管理は自分でできるように言っています。それは幼稚園児であつても6年生であつても同じ。物を大切にすることも常々、伝えていきます。小さい子どもは自分のリュックやボール、スパイクなどを管理できず、親に預けてしまいますし、保護者もどうしても手を貸してしまいます。ですから、保護者には、できるだけ手助けせず、自分でやるように促して

ください、と伝えていきます。

——サッカー以外の領域で伝えていることが多いのですか。

勝丸 自分のことを自分でできるようなにならないと、将来、困るのはその子自身です。サッカーの試合でもボールを受けてドリブルをするのかパスをするのか、シュートをするのかという選択肢がたくさん出てきたときにどう処理すればいいのか判断できず、選択できない子になってしまいます。できるだけ自分で考え、自分で行動する、ということも選手にも言いますし、保護者にもお願いしています。

——指導者としての今後の目標や夢を教えてください。

勝丸 毎年、卒団式のときは、子どもたちにも「つらくならいつでも帰ってきていい。チームはずっとあるんだから相談しに帰ってくればいい」と話して送り出すようにしています。卒団生の中には、親になって子どもを入団させるために戻ってきてくれるOBもいます。近隣の小学校では子ども数が減っていて統廃合の話も出ているので難しい部分がありますが、次の世代をしっかりと育ててクラブの未来をつないでいきたいと思っています。

熱を持った仲間を どんどん増やしていきたい

各都道府県サッカー協会(FA)で配置が進む「FAコーチ」。その活動にスポットを当てた連載企画第26回は、岩手県サッカー協会の出口忠一FAコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日・2025年10月23日

指導者養成を含めた 人材育成を進める

——岩手県サッカー協会(FA)との関わり、またFAコーチに就任された経緯を教えてください。

出口 1994年からジェフユナイテッド市原(現、ジェフユナイテッド千葉)・育成部の仙台スクールでコーチを務めていて、2000年から指導者養成インストラクター(現、チューター)として岩手県FAに關わるようになりました。02年には国民体育大会(現、国民スポーツ大会)の成年女子チームのコーチ、03年にはキッズ委員会を立ち上げ、その後はキッズ委員長として活動しました。05年からチーフインストラクター(現、シニアチューター)も務めています。

現在は、岩手県FAの副会長を務める傍ら、FAコーチとして活動しています。前任の鳴尾直軌さん(富士大学)が辞められてから空白期間

が続いていたのですが、私自身も誰かがやらなければならないと思っ
ている中、県全体のサッカーを把握しているというところでオフアワーをいただき、会社を退職して専任で活動する決心をし、22年9月から活動をスタートしました。

——FAコーチに就任されてから重視されたことは？

出口 FAコーチの役割は多岐にわたりますが、シニアチューターを務めていることもあって、指導者の養成を含めた人材育成、トレンセン活動への関わり、女子サッカー、普及などキッズ活動のサポートをしています。とはいえ、全ての活動に注力するのは現実的ではありませんので、技術委員長やユースダイレクター、また協会役員ともコミュニケーションをとりながら役割分担をして進めています。

——専任で活動することのメリットをどのよう
に捉えられているのでしょうか。

出口 以前はどうしても仕事の合間での活動になってしまい、繁忙期はサッカーにまで手が回らず、それが悩みでした。専任だと日中も活動でき

るなど、より多くの時間が取れるので、関わる皆さんのサポートをしつつ、FA全体の事業を俯瞰で見ることができるようになりました。また年間を通じて計画を立てられますし、途中で修正もしやすい。専務理事や役員とも話ができますし、現場との意見交換を含め、多くの方とコミュニケーションを取りながら調整役として活動できています。

——指導者養成の現状はいかがですか。

出口 数値目標として1年間で100人の指導者ライセンス保持者を輩出しようとしています。現在は、Bライセンスを1コース、Cライセンスを2コース、Dライセンスを5コース開催するほか、GKレベル1ライセンスとフィジカルフィットネスCライセンスなどのFAコースも開催しています。特にC・Dライセンスは定員を上回る申し込みがある状況です。

岩手県FAでは、各地区に出向いてさまざまな要望に耳を傾けるタウンミーティングを開催しているのですが、県土が広くて移動が大変なため、地区で指導者養成講習会を開催してほしいとの声がありました。そこでC・Dライセンスは数年前から各地区でも開催しています。要

望があれば、冬場でも室内での開催や雪が少ない沿岸地域で開催するようにしています。また女性指導者を増やしていこうと、女性が参加しやすい女性コースも創設しました。

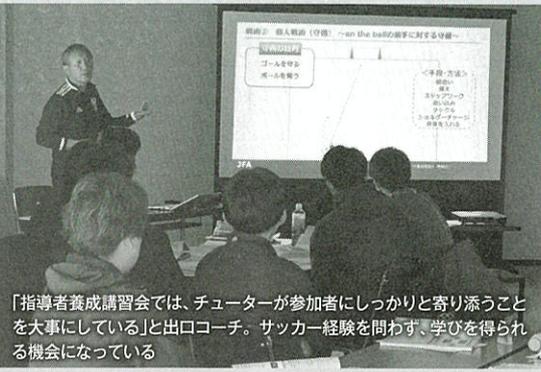
——指導者養成で今後進めたいか
れたことは何でしょうか。

出口 女性1名を含めてチューターは9名いますが、チューター自身も自チームの活動がある中で、スケジュール調整の難しさがあります。また、若い指導者にチューターとして活躍してもらうことも大事ですので、チューターの増員や入れ替えも随時検討していきたいと思っています。

また、全ての方に指導者ライセンス



岩手県FAで副会長を務める傍ら、シニアチューター兼FAコーチとして活動する出口コーチ



「指導者養成講習会では、チューターが参加者にしっかりと寄り添うことを大事にしている」と出口コーチ。サッカー経験を問わず、学びを得られる機会になっている

スを取得していただき、指導現場に立ってほしいと思っていて、各指導者や地区のニーズに応じて講習会を拡大していければと考えています。加えて、若い人にも指導者養成講習会にどんどん参加してもらえ、よりよい工夫もしていきたい。そしてわれわれの仲間としてトレセンなどの場でも活躍してもらいたいと考えています。

サッカーで岩手県民を元気にしたい

——トレセン活動についても現状を教えてください。

出口 4月から12月の毎週水曜・木曜に岩手県フットボールセンターで平日トレセンを開催しています。U-10～15の県トレセン、国民スポーツ大会に臨むU-16年代の活動のほか、GKや女子のトレセンも実施しています。そこではメンターという立場でトレセンスタッフの悩みやトレーニングの進め方などの相談を受けています。平日トレセンは5年目を迎え、同じ方向性で進められていると思いますが、質の向上も図っていかなければならないと感じています。

——トレセンで目指している姿はありますか。

出口 岩手県FAのトレセンの指導方針で示している通り、「関わった全ての選手を次のステージへ送り出すこと」そして選手像として「自分の武器(個性)を持ち、さまざまな状況でもチームのために生かすことのできる選手」を目標にしています。春先には各種別のトレセンスタッフに集まってもらい、トレセンスタッフ研修会を開催して情報共有の機会を設けました。次年度以降も継続していきたいと考えています。

——地区トレセンに関してはいかがでしょうか。

出口 各種別の地区トレセンにも足を運んでいます。開催日程が不定期だったり、地区割りが異なったりするところもあります。少子化で選手数が少なくなってきたり、現状もありますが、しっかりと体系化できるように整備したいですね。トレセンスタッフも不足している状況ですので、先ほど挙げた指導者養成講習会の参加からトレセンスタッフの発掘にもつなげていきたい。そしてトレセンスタッフ研修会のような情報共有と質の向上を目指した場を、今後は地区でも設けていければと思います。

——中学校部活動の地域移行も行われているのでしょうか。

出口 少子化によって学校単位での部活動ができなくなっている中、岩手県では地域のクラブが増え、新たに15チームが創設されました。今年の第56回全国中学校サッカー大会に出場した千厩FCは、一関市の千厩地区にある五つの中学校が合同で活動するチームです。これまでは一関市立千厩中学校として単独で活動していましたが、今年初めて千厩FCとして県大会に出場し、東北大会を突破して全国の舞台に進みました。

——FAコーチとしてどう関わられているのでしょうか。

出口 FAコーチ就任2年目からチームへの巡回指導を始めているのですが、そこで現状を聞いたり、情報交換をしたりしています。そうした有益な情報を伝達するのがメインです。「巡回指導に」ぜひ来てください」と言ってくたさる指導者が多いので、大変ありがたく思っています。

——女子やキッズの活動についても教えてください。

出口 女子に関しては、女子委員会や女子サッカー普及コーディネーターの松本剛史さんと連携を図っており、可能な限りJFAなどで活躍の場を確保したいと考えています。

活動に参加しています。普及の観点で女子選手を増やしていきたいのはもちろんですが、そうした取り組みに関わる女性指導者も増やしたいと考え、指導者養成講習会を通じて働き掛けています。女性指導者がロールモデルとして活動することで、指導者を目指す女性も増えてくるのではないかと。FCゼブラレディース岩手という女子の社会人チームで監督を務めている菅野博子さんが女性チューターに就いていいますので、より連携を深めていきたいと思っています。

岩手県は全国的に見てもキッズの活動が盛んだと思いますが、もっと活発化させていきたいですね。併せて、安心安全な環境で子どもたちがサッカーを楽しめるように、セーフティネットの取り組みも進めていきたいと思っています。

——今後、普及はより重要になってきます。

出口 日本代表選手やJリーガーを岩手県から輩出したいという思いはありますが、サッカーを楽しむ人を増やすこと、関わる仲間を増やすことも大事です。岩手県FAの方針として、サッカーを通じてスポーツ文化を向上させ、サッカーで岩手県民を元気にしたいと考えています。そのためにもより多くの人

たちにサッカーを好きになつてもらい、サッカーファミリーを増やし、生涯にわたってサッカーを楽しむ、また継続的にサッカーに携わってもらいたいと思っています。

——最後に今後に向けた意気込みをお願いします。

出口 私が一番大事にしているのは、情熱と誠意、そしてポジティブ精神です。誠実に向き合いながら、しっかりと熱を伝え、何事にもポジティブに取り組めば、関わる皆さんの熱量も上がり、広がりが見られると考えています。指導者養成が鍵を握ると思っていますので、熱を持った仲間をどんどん増やし、サッカーの楽しさを伝えられるように活動を続けていきます。



岩手県フットボールセンターで開催する平日トレセン。「さまざまなカテゴリーが一堂に会することで刺激し合い、また種別間の交流も図られている」と出口コーチは話す

マイアミでのスペインリーグは中止——。10月21日、スペインのリーグ当局がそう発表しました。

リーグ1部に属するビジャレアルとFCバルセロナから出されていた試合のアメリカ開催の申請は、8月にスペインサッカー協会が承認し、10月には欧州サッカー連盟(Uefa)がこの試合とともにイタリアから出されていた「ACミラン×コモ」のオーストラリアでの開催も認めました。

12月の「ビジャレアル×バルセロナ」の試合会場をアメリカのマイアミに移すという計画が明らかになって以来、各方面から激しい反発が起きていました。

中でも、楽しみにしていた「ホームゲーム」のひとつを奪われるビジャレアルのサポーターは、「危険な前例をつくり、クラブのルーツを奪う」と、絶対反対を表明しました。これに応じて、スペインや欧州のサポーターズクラブ連合は、「スポーツをクラブの伝統やコミュニティから切り離された娯楽商品に成り下がらせる」と厳しい意見を発表しました。

サポーターだけではありません。他のクラブや監督、選手たちも、一斉に反対であることを表明しました。Uefa承認後の10月中旬には、スペイン1部の全試

いつも心に

連載 Vol.151

大住良之
(サッカージャーナリスト)

リスペクト



他国のサッカー文化にリスペクトを

合で抗議行動が行われました。主審のキックオフの笛が吹かれてから15秒間、すべての選手が動くことをやめ、立ち続けたのです。

こうした反応を見て、スペインリーグはアメリカ側のプロモーターと話し合い、試合を本来の日程通り、12月21日にビジャレアルで行うことを発表したのです。

世界のサッカーを統括する国際サッカー連盟(FIFA)には、「国内リーグの試合は自国のサッカー協会の管轄区域内で開催するという規則があります。しかし今回のマイアミでの試合を企画したプロモーターがその規則に対して訴訟を起こし、昨年4月に和解に達したことから、規則をタテに外国での試合を禁止することは難しくなっているといわれています。

ではなぜ、このような試合が計画されるのでしょうか。それは、スペインやイタリアのリーグが、イングランドのプレミアリーグのような収益を挙げることを目指しているからです。

プレミアリーグは世界中からトップスターを集め、その力で世界中に放映権を売り、そこから生まれる収益でまたスターを集めるといって「循環」の中で、圧倒的な資金力を持っています。それに対抗するには、スペインやイタ

リアのリーグ戦を他地域で開催し、人気を高めて収益を増やさなければならぬという意図なのです。

欧州の「サッカー市場」はすでに飽和状態にあり、成長のためには、北米、オーストラリア、そしてアジアといった、購買力のある「新市場」を開拓するしかありません。

今回のスペインの計画はサポーターや選手たちの激しい反対で撤回されました。しかし「新市場開拓」の動きが止まるはずがなく、今後数年間のうちに欧州の主要リーグの試合がアメリカや中国、そして日本といった国々で定期的に開催される可能性は十分あります。

それを喜ぶファンもいるかもしれません。しかしその結果、各国のサッカー文化の最も重要な牽引車である地元の「プロリーグ」は苦境に立たされるでしょう。

この状況は、19世紀後半から20世紀初頭にかけて欧米の列強が自国の利益だけを求めて世界を植民地支配した「帝国主義」と非常によく似ています。植民地は搾取されるだけで、住民やその文化へのリスペクトなどない状態でした。アメリカのサッカー界には、ア

アメリカのプロリーグを育て、サッカー文化を根づかせ豊かにする活動目標があるはずですが、アメリカのサッカーファンを搾取の対象とする欧州サッカーの進出を許すことは、「自由な経済活動」とはいえ、その目標達成を妨げます。許されるべきではないと、私



は思います。サッカーは世界のスポーツであり、世界的な交流はその重要な要素です。しかしそこに他国のサッカー文化をリスペクトして保護するという基本的な姿勢がなければ、それが人々の幸福につながると思えないのです。



JFAの所蔵品から ひもとく 日本サッカーの歴史

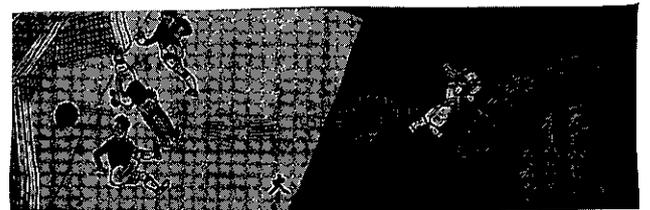
■ベルリンオリンピック 参加に向けて

第10回大会を最後に消滅した極東選手権の後、大日本蹴球協会が目指したのは1932年のロサンゼルスオリンピックだった。ところがアマチュア規定をめぐって国際オリンピック委員会(IOC)と国際サッカー連盟(FIFA)との見解が合わず、サッカーが競技種目から除外されてしまう。大日本蹴球協会は35年3月の理事会で次のベルリン大会への参加を決定。同年7月の理事会で決議された「選手選考綱要」に従って選手を選考することとした。

最終メンバーは、早稲田大学の学生6人とOB3人、東京帝国大学から2人とOB1人、慶應義塾大学から1人、東京文理

日本サッカー初のオフィシャルグッズ ～ベルリンオリンピック～

文・JFAコミュニケーション部 藤ノ木 恵



1936年ベルリンオリンピックに向けて大日本蹴球協会が制作した手ぬぐい

科大学(現、筑波大学)から1人、全日本選手権で優勝した朝鮮の京城蹴球団から1人が選出された。監督は鈴木重義、竹腰重丸と工藤孝一がコーチに就いた。

鈴木は早稲田高等学院時代に、竹腰も旧制山口高校時代にチヨードインの指導を受けた。チヨードインはビルマ(現、ミャンマー)出身の留学生で、早稲田高等学院で指導を始め、その後、全国の学校を回って理論と実技を教えた。また、サッカーの技術書『How to play association football』を執筆。彼の教え子らが翻訳して出版した。彼の理論と指導によって

日本サッカーは国際舞台での活躍の基盤を整えていったのだ。

■遠征費用の捻出

ところで、コミカルなタッチのイラストが描かれた上の写真、これは手ぬぐいのだが、大日本蹴球協会が制作・販売した初の「オフィシャルグッズ」である。

オリンピック出場にかかるチームの遠征費はおよそ8万4800円(※)で、大日本体育協会(現、日本スポーツ協会)の補助金と極東大会の余剰金が充てられることになってい

た。しかし、それらを差し引いても3万円ほど足りなかったため、大日本蹴球協会の理事で財務を担っていた新田純興が遠征費の捻出に奔走。写真の手ぬぐいはその不足分の一部を補うために作られたもので、このほかに浴衣の生地も販売された。

不足分の多くは寄付で賄われた。出発の約1カ月前には、収益金を遠征費に充てるため「蹴球選手送別音楽会」を東京の日比谷公会堂で開催。楽団の出演料は新田が私費を当てた。そのほか、大学時代に第5回極東選手権に出場した医師の野津謙(第4代会長)と日本サッカーの先覚者とも言える実

業家の田辺五兵衛、選手の竹内梯三がそれぞれ多額の寄付をした。

※当時と現在の貨幣価値の比較は難しいが、現在の数千円程度

■戦いの地、ベルリンへ

36年6月20日、チームは東京を出発して下関へと移動し、そこから船で当時日本の統治下にあった朝鮮の釜山に渡り、「満州国」を経てソビエト連邦に入り、シベリア鉄道でユーラシア大陸を横断。モスクワ経由で7月3日、ベルリンに到着した。14日間にわたる長旅である。

本番前、現地でドイツのクラブチームと2試合の練習試合を計画していた。ワッカーとの初戦は1-3で敗れたが、この試合を経て日本はフォーメーションを2バックから、25年のオフサイドルール改正後にヨーロッパで主流になっていた3バックに変更した。次のミネルバ戦も敗れはしたが、「一試合ごとにメキメキと進境を示してきた」「蹴球」36年12月、工藤孝一(チームはドイツサッカー連盟と交渉し、ブラウウヴァイスとのマッチアップを実現させた。

これら3連戦を経て手応えを得た日本代表は8月4日、優勝候補の一角とされるスウェーデンとの初戦を迎える。

■優勝候補のスウェーデンを 破る

ヘルタブラツスタジアムで行われた試合は、日本にとって前半に2点を奪われる苦しい展開になった。しかし、チャンスがなかったわけではない。鈴木監督から指示を受けたチームは後半、チヨードインが指導した速いショートパスを駆使して反撃に出る。そして49分、川本泰三がゴール。62分に右近徳太郎が同点弾を突き刺すと、85分には松永行が3点目を決めて逆転に成功する。

永遠とも思えるような残り時間を耐え、タイムアップのホイッスル。日本の勝利が決まった。試合後には興奮したドイツ人の観客らがピッチにだれだれ込み、日本の勝利を喜んだ。粘り強いプレーで強豪を下した日本に世界中が驚き、称賛した。今なお語り継がれる「ベルリンの奇跡」である。

この試合の後、中2日、満身創痍の状態で臨んだ次戦では、この大会で優勝したイタリアに0-8で敗れ、ベスト8で大会を後にした。スコアは大差だったが、初の国際舞台で日本は確実にその実力を示したのだ。

●出典：『日本サッカー協会百年史(日本サッカー協会)』、『ベルリンの奇跡(東京新聞)』

サッカー活動中の落雷に注意しましょう!

温暖化や環境変化の影響に伴い、全国での落雷件数が増加しています。屋外でサッカー活動をする際は、落雷による事故防止対策に努めましょう。

原則①: 危険・兆候が確認されたら公式戦・練習にかかわらず躊躇なく中止すること。

原則②: 周辺で雷注意報・兆候がある場合、専門的なウェブサイトで常時天候情報を確認すること。

●サッカー活動中における落雷事故防止対策について
https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20240523_02.pdf



2025 Jリーグレフェリングスタンダードの映像を公開

JFA審判委員会は、Jリーグと共に「2025 Jリーグレフェリングスタンダード」の映像を作成した。映像には、選手に求めるプレー、昨シーズンの事例にFIFAの競技規則に基づく解説などが加えられている。

- ①選手生命を脅かすチャレンジ ②ハンドの反則
③オフサイド“インパクト” ④競技者の安全への対応

●2025 Jリーグレフェリングスタンダード
https://youtu.be/JaZIOJOfiwo?si=3z_v7e8-GfMDI3UJ

▼ルールに関する情報はこちら
競技規則 <https://www.jfa.jp/laws/>



栄養ガイドライン～選手における食事の重要性

JFAは2017年11月、医学委員会に栄養サポート部会を発足し、2018年8月にJFAとして統一した栄養に関する栄養ガイドラインを策定した。同ガイドラインでは、基礎的な食事や栄養の知識をベースに、サッカーをする選手、それを支える指導者や保護者にとって分かりやすく、より実践的な情報を伝えている。

●JFA栄養ガイドライン
<https://www.jfa.jp/medical/a08.html>



スモールサイドゲームガイドライン

JFA技術委員会は、小学校4年生以下の年代に応じたゲーム形式を明確に示すため、「JFAスモールサイドゲームガイドライン」を作成。「小学校1～4年生のゲーム環境整備」の一環としてガイドラインの普及に取り組んでいる。

●内容

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1. はじめに | 5. 8人制との比較 |
| 2. ガイドラインの基本的な考え方 | 6. スモールサイドゲームガイドラインに基づいた事業開催 |
| 3. 各年代での心身の特性とゲーム | 7. 指導者の関与の重要性 |
| 4. ピッチマネージャーの配置・役割 | |
- https://www.jfa.jp/coach/guidelines_smallsidegame.html



JFA育成年代でのヘディング習得のためのガイドライン (幼児期～U-15)

JFAは、ヘディングを「禁止」するのではなく、正しく恐れることによって適切な方法によるヘディングの習得を目指している。そこで幼児期において段階的にヘディングを習得するためのガイドラインを作成。子どもの安全を守るために、全ての指導者がこのガイドラインを理解しておきたい。なお、ヘディングに関わるリスクについては医・科学研究の報告を十分にフォローし、本ガイドラインも随時アップデートしていく。

https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading_guidelines.pdf



選手・指導者・審判登録証の表示は JFA公式アプリ「JFA Passport」へ

2018年から運用してきた「JFA KICKOFF」アプリ(iOS/Android)を、2024年12月をもって終了しました(PC版のKICKOFFシステムに仕様変更はありません)。これまで「JFA KICKOFF」アプリで提供していたJFA登録証(選手証/監督証、指導者証、審判証)やチーム登録選手一覧の表示機能等はJFA公式アプリ「JFA Passport」で利用できるようになっています。

「JFA KICKOFF」アプリで提供していた以下サービスは、JFA公式アプリ「JFA Passport」で利用できません。

- ・登録証の表示(選手証、監督証、審判証、指導者ライセンス証)
- ・登録選手一覧の表示 ※チーム登録責任者および責任者代理のみ使用可
- ・お知らせ(あなたへのメッセージ)の表示
- ・その他(顔写真登録、パスワード設定、プッシュ通知など)



詳細はこちら▶

小学校体育サポート

JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT

～教員向けのオンラインレッスンサイトを公開!講師派遣も受け付け中

JFAとKDDIは、「小学校体育サポート JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT」の一環として、教員向けに動画でサッカーの授業を学ぶことのできるオンラインレッスンサイトを公開している。

教員の体育授業の準備における負担を軽減するため、これまでJFAが対面でのみ実施していた小学校体育サポート研修会を初めて動画としてまとめたもので小学校の全学年に対応している。参加費は無料。

また、小学校体育サポート研修会の開催および講師の派遣も引き続き、申し込みを受け付けている。



●JFA学校体育サッカー指導のオンラインレッスン
<https://soccerlesson.jfa.jp/>



■JFA小学校体育サポート研修会 2025年度実施校の募集を開始!
<https://www.jfa.jp/news/00034935/>



ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「ありたき姿」から逆算してそこに至る道筋を示した。Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

●構成

1. プロローグ～なぜJapan's Wayなのか
2. フットボール・カルチャーの創造
3. 望まれる選手像とは
4. プレービジョン
5. 将来に向けた日本のコース育成
6. フィジカルフィットネスの未来
7. 将来のサッカーコーチとは?
8. フットボール・ファミリーの拡大



●デジタルブック (PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>
※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される

●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>



日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>



技術委員長に山本昌邦氏が就任

JFA技術委員会の委員長に山本昌邦氏が就任した。山本氏はナショナルチームダイレクターと技術委員長として業務にあたる(10月20日発表)。

【プロフィール】

名前 : 山本昌邦(やまもと まさくに)
生年月日: 1958年4月4日(67歳)
選手歴 : 1974~1977年 日本大学三島高校
1977~1981年 国士舘大学
1981~1987年 ヤマハ発動機サッカー部(現、ジュビロ磐田)

指導歴 : 1987~1992年 ヤマハ発動機サッカー部(現、ジュビロ磐田)
1992~1994年 U-20日本代表コーチ
1993~1996年 U-23日本代表コーチ
1995~1997年 U-20日本代表監督
1997~1998年 ジュビロ磐田コーチ
1998~2002年 日本代表コーチ
2002~2004年 U-23日本代表監督
2004~2006年 ジュビロ磐田監督
2023年~ JFAナショナルチームダイレクター
資格 : 1996年 S級コーチライセンス(現、Proライセンス)

AFCアワード2025~高橋はな選手が年間最優秀選手賞、 浜野まいか選手が年間最優秀アジアインターナショナルプレーヤー賞を受賞

「AFCアワード2025」が10月16日、サウジアラビアのリヤドで開催され、高橋はな選手が年間最優秀選手賞(女子)、浜野まいか選手が年間最優秀アジアインターナショナルプレーヤー賞(女子)を受賞した。

【AFCアワード2025受賞一覧】

ダイヤモンドオブアジア: Timothy Fok Tsun Ting(ホンコン・チャイナFA会長)
AFC President's Recognition Award for Outstanding Achievement : 朝鮮民主主義人民共和国サッカー協会
年間最優秀協会賞(ブラチナム): サウジアラビアサッカー連盟
年間最優秀協会賞(ダイヤモンド): タイサッカー協会
年間最優秀協会賞(ゴールド): ホンコン・チャイナサッカー協会
年間最優秀協会賞(ルビー): ラオスサッカー連盟
年間最優秀地域協会賞: 東南アジアサッカー連盟

会長表彰ガラスルーツ賞(ゴールド): アラブ首長国連邦サッカー協会
会長表彰ガラスルーツ賞(シルバー): マレーシアサッカー協会
会長表彰ガラスルーツ賞(ブロンズ): バングラデシュサッカー連盟
年間最優秀監督(女子): Marziyeh Jafari(イラン)
年間最優秀監督(男子): Ri Song Ho(朝鮮民主主義人民共和国)
年間最優秀フットサル選手: Salar Aghapour(イラン)
年間最優秀選手(女子): 高橋はな(日本)
年間最優秀選手(男子): Salem Al Dawsari(サウジアラビア)
年間最優秀アジアインターナショナルプレーヤー(女子): 浜野まいか(日本)
年間最優秀アジアインターナショナルプレーヤー(男子): Lee Kang-in(韓国)
年間最優秀ユースプレーヤー(女子): Choe Il Son(朝鮮民主主義人民共和国)
年間最優秀ユースプレーヤー(男子): Alex Badolato(オーストラリア)
審判特別賞: Alireza Faghani, Anton Shchetinin, Ashley Beecham(いずれもオーストラリア)

育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD 2025年度の短期留学、リバープレート(アルゼンチン)に4選手が短期留学

JFAとJFAオフィシャルサプライヤーのアディダス ジャパン株式会社が行う「育成年代応援プロジェクト JFA アディダスDREAM ROAD(ドリームロード)」の2025年度の短期留学を、アルゼンチンの名門クラブ、リバープレートで行う。4人の選手が10月31日から11月17日まで短期留学する。

DREAM ROADでは、2023年度にスペインのレアル・ソシエダード、ドイツのバイエルン・ミュンヘン、イングランドのフラムFCに総勢15選手(延べ19選手)を、2024年度はアルゼンチンのリバープレート、アメリカのロサンゼルス・ギャラクシー、ドイツのバイエルン・ミュンヘン、メキシコのUANLティグレス、そしてイタリアのコモ1907に総勢21選手を送り出してきた。リバープレートへの短期留学は2024年度に続き、2度目となる。参加選手は下記の通り。

【2025年度 第1弾: リバープレートへの留学選手】

内田 煌生(ウチダ コウセイ)
所属: 流通経済大学附属柏高校

ポジション: MF
学年: 高校2年生
コメント: 海外の選手と一緒にプレーできる機会を与えていただき、ありがとうございます。自分のストロングポイントを生かし、通用する部分と課題となる部分を知り、これからのサッカー人生に生かせるように全力で頑張ります。

中辻 晴大(ナカツジ ハルト)

所属: セレッソ大阪U-18

ポジション: DF

学年: 高校1年生

コメント: このような機会を与えてくださったことに感謝し、アルゼンチンでは自分の特長を最大限に発揮して頑張ります。

藤澤 斗亜(フジサワ トア)

所属: 横浜F・マリノスジュニアユース

JFAリリースインフォメーション&活動報告

■Jリーグ気候アクションアンバサダーについて

- ・ホームタウンで環境教育の推進役となり、気候アクションの重要性を伝えるアイコンとして活動。「Jリーグ環境教育授業」の先生役をつとめ、クラブが地域で実施する気候アクション、環境問題対策活動などに参加する。
- ・認定制度とし、Jリーグが定める所定の認定フローを経て認定。

2025年10月14日現在(★現役選手)

所属	名前	所属	名前
Jリーグ特任理事	小野伸二	アスクラロ沼津	齋藤学★
Jリーグ特任理事	中村憲剛	名古屋グランパス	阿部翔平
Jリーグ特任理事	内田篤人	ガンバ大阪	加地亮
ベガルタ仙台	富田晋伍	セレッソ大阪	丸橋祐介
ベガルタ仙台	梁勇基	FC大阪	岩本知幸
モンテディオ山形	岡崎建哉	ガイナレ鳥取	長谷川アリアジャスール
福島ユナイテッドFC	田中雄大★	サンフレッチェ広島	森崎浩司
水戸ホーリーホック	本間幸司	カマタマーレ讃岐	竹内彬
栃木SC	廣瀬浩二	徳島ヴォルティス	石井秀典
栃木SC	赤井秀行	アビスパ福岡	中村北斗
ザスパ草津	清水慶記	ロアッソ熊本	飯星明良★
RB大宮アルディージャ	下口雅葉★	ロアッソ熊本	小林慶太★
ジェフユナイテッド千葉	齋藤大輔	ロアッソ熊本	長嶋志歩★
FC東京	石川直宏	ロアッソ熊本	根岸憲汰★
川崎フロンターレ	森谷賢太郎	ロアッソ熊本	半代将都★
横浜F・マリノス	金井寛史	ロアッソ熊本	李泰河★
横浜FC	内田智也	ロアッソ熊本	渡邊怜歩★
清水エスパルス	伊東輝悦	大分トリニータ	松本怜
ジュビロ磐田	山田大記	テゲバジャーロ宮崎	西岡大志

●野々村芳和Jリーグチェアマン コメント

このたび、環境教育授業の開始にあたって、Jリーグ気候アクションアンバサダーに手を挙げてくれた選手・選手OBには、感謝と同時に期待を寄せています。スポーツと同じように、子どもたちが楽しみながら、大切な事を身につけていく機会を、この活動を通じて届けてほしいと思います。この活動を通じてより多くの方に気候変動、そして気候アクションに対する興味・関心を持っていただくこと。そしてサッカー・スポーツを未来世代につなぎ、活力あるホームタウンの持続可能性を高め、Jリーグのサステナビリティが掲げる「未来の地球に、いいパスを。」渡せることを目指し、一緒に取り組んでまいりたいと思います。

●辻井隆行Jリーグ執行役員(サステナビリティ領域担当) コメント

このたび、Jリーグ環境教育授業を始められることをとても楽しみにしています。また、それにあたって大勢の選手OBおよび現役選手が気候アクションアンバサダー制度に手を挙げてくれたことを心から嬉しく思います。

フットボールの未来を左右する気候変動問題を解決する上で、一人ひとりの意識・行動変容は非常に大切です。同時に、エネルギーや交通網を含めた社会インフラが持続可能な仕組みに変わることは、個人の変容と同じくらい、もしくは、それ以上に重要です。その時に欠かせないのが、その移行を「応援する」という大勢の意思表示(声)です。

Jリーグ環境教育授業が、気候変動について科学的に学びきっかけと

なり、そこから将来の気候アクションを担う人材はもちろん、たくさんの「応援団」が生まれることを願っています。

Jリーグ特任理事(Jリーグ気候アクションアンバサダー) コメント

●小野伸二氏

僕自身、Jリーグが取り組む気候アクションを学び始めたことをきっかけに、地球の現状を知り、地球の未来を変えるために何が出来るかを考え行動を始めました。今回のプロジェクトをきっかけにして、たくさんの子どもたち、そして一人でも多くの方が僕と同じように地球の今を知り、学び、行動を起こしてくれることを願っています。これからの子どもがサッカーを、スポーツを思いっきり楽しめるような未来であるように共にアクションを起こしていきましょう。

●中村憲剛氏

未来の主役となる子どもたちが、この授業を通して地球の現状を知り、自分たちの生きていく地球環境の未来を守るために何が出来るかを「自分ごと」として捉え、できることを考えて行動するきっかけにこの授業がなるように、僕自身も共に学び・発信していきたいと思えます。

●内田篤人氏

気候変動問題への取り組みや行動が当たり前前の日常になるためには、皆さんも毎年感じられているこれまでは違う異常な夏の暑さを、なぜこんなに暑くなっているのか?これからどうなっていくのか?と疑問を持っていただき、地球の今を知り、今のままでは訪れてしまう遠くない未来を知ることがとても大切だと思います。僕自身もJリーグ特任理事として気候アクションについて知り、学んだことがきっかけで、考え、行動を起こすようになりました。今回スタートするJリーグ環境教育授業がきっかけとなり、一人でも多くの方が自分の為に、そして未来のためにできることを知ってもらえるとうれしいです。サッカーファミリー一丸となって取り組んでいきましょう。

※環境教育教材ショートアニメ「FUTURE KID TAKARA」:NHKエンタープライズと世界的なアニメーションスタジオのSTUDIO4°Cがタッグを組んで実施する「『FUTURE KID TAKARA』プロジェクト」として、地球沸騰化時代を生きる子どもたちが楽しみながら気候変動に関する理解を深めることのできる教育コンテンツとして企画され、環境教育教材として全国の学校現場で活用される。1話約5分間、全11話。そのうちの第6話ではスポーツと気候変動がテーマとなり、Jリーグ選手OBでJリーグ特任理事の小野伸二氏、中村憲剛氏、内田篤人氏が実写でアニメーションに出演。各話に学びの復習ができるワークシートがあり、ホームページからアニメ視聴とワークシートのダウンロードができ、誰でも無料で学ぶことができる(11月7日 全話およびワークシート公開予定)。

■2025 J1昇格プレーオフ準決勝でのVAR導入を決定

Jリーグは、2025 J1昇格プレーオフ準決勝の2試合でビデオアシスタントレフェリー(VAR)を導入することを決定した(10月16日発表)。J1昇格プレーオフ決勝でのVAR導入は2022シーズンから行っており、J1昇格

プレーオフ準決勝でのVAR導入は今回が初めて(※)。

※2022シーズンはJ1昇格プレーオフの開催なし、2022 J1参入プレーオフ決定戦にて導入

Jリーグ入会審査 (J3) 結果

Jリーグは、10月28日の理事会で、Jリーグ入会申請のあったラインメール青森、レイラック滋賀、ヴェルスバ大分の3クラブについて、Jリーグ (J3) への入会を条件付きで承認した。

本審査結果により、上記3クラブにおいては、11月23日 (日) 開催の日本

フットボールリーグ (JFL) 最終節における最終順位、平均入場者数および年間入場料収入の要件を満たすことを条件に、JFL最終順位1位のクラブは自動で入会が確定し、JFL最終順位2位のクラブはJ3・JFL入れ替え戦に勝利することで入会が確定する。

2026/27シーズン 明治安田Jリーグの開催期間を決定

Jリーグは、2026/27シーズンの明治安田Jリーグの開催期間およびJ1昇格プレーオフ、J2昇格プレーオフ、J3・JFL入れ替え戦の開催日を下記の通り決定した (10月28日発表)。

●第1節

明治安田J1・J2・J3リーグ：2026年8月8日 (土)・9日 (日)
*7日 (金) の開催可能性あり

●最終節 (第38節)

明治安田J1リーグ：2027年6月5日 (土)・6日 (日)
明治安田J2・J3リーグ：2027年5月22日 (土)・23日 (日)

●昇格プレーオフ、J3・JFL入れ替え戦

J1昇格プレーオフ：

準決勝 2027年5月29日 (土)・30日 (日)

決勝 2027年6月5日 (土)・6日 (日)

J2昇格プレーオフ：

準決勝 2027年5月29日 (土)・30日 (日)

決勝 2027年6月5日 (土)・6日 (日)

J3・JFL入れ替え戦：

第1戦 2027年5月29日 (土)・30日 (日)

第2戦 2027年6月5日 (土)・6日 (日)

※日程の詳細は決定次第発表

※上記日程は週末での開催を指しているもの。土日の両日開催、土曜または日曜のみの開催を決定しているものではない

日本女子プロサッカーリーグ (WEリーグ)

<https://weleague.jp/>



2025/26 WEリーグ クラシエカップ「WEリーグ クラシエカップTV powered by Easy Sports」で全試合ライブ配信決定

WEリーグは「2025/26 WEリーグ クラシエカップ」の全試合を公式配信サービス「WEリーグ クラシエカップTV powered by Easy Sports」でライブ配信することを決定した (10月15日発表)。グループステージ各節の最終日には、WEリーグ公式YouTubeにて無料ハイライトを配信する。

【WEリーグ クラシエカップTV powered by Easy Sports】

対象試合：2025/26 WEリーグ クラシエカップ
グループステージ、ノックアウトステージを含む全41試合
料金：1,500円 (税別) ※一度の支払いで全41試合を視聴可

ハイライト配信：WEリーグ公式YouTubeで各節最終日に無料で配信

- ・第1節 10月27日 (月) 18時配信
- ・第2節 11月30日 (日) 21時配信予定

※グループステージ第3節、ノックアウトステージ以降の詳細は決定次第発表。

視聴方法：下記URLより詳細を確認および登録
<https://weleague-cup.stores.play.jp/>



その他：試合ライブ配信における実況、解説はしない

日本フットサルトップリーグ

Acqua Panna (アクアパナ) が「メットライフ生命 Fリーグ2025-26」「メットライフ生命女子Fリーグ2025-26」ファイナルシーズンのオフィシャル飲料に決定

一般社団法人日本フットサルトップリーグが主催する「メットライフ生命Fリーグ2025-26 ファイナルシーズン」および「メットライフ生命女子Fリーグ2025-26 ファイナルシーズン」において、イタリアを代表するナチュラルミネラルウォーター「Acqua Panna (アクアパナ)」が、オフィシャル飲料に決定した (10月24日発表)。両リーグファイナルシーズンの全

節・全会場において、選手およびレフェリーの試合中の水分補給等をサポートする。

オフィシャル飲料Acqua Pannaのサポートは、10月18日に開幕したメットライフ生命女子Fリーグ2025-26ファイナルシーズン第12節 (山口県宇部市) を皮切りに、各節で順次開始する。



日本フットボールリーグ (JFL) 便り

地域に愛されるクラブ

ラインメール青森FC 広報担当 油川聖菜


<https://reinmeer-aomori.jp/>

ラインメール青森FCは、1995年に青森市社会人選抜チームとして発足し、16人のメンバーで青森県社会人リーグ2部に参戦しました。2008年に青森県1部リーグ優勝、2009年から東北社会人サッカーリーグ2部へ。2013年に東北社会人サッカーリーグ2部で優勝し、1部に昇格。2015年には東北社会人サッカーリーグ1部で2位、NHK杯青森県サッカー選手権大会で優勝して初の天皇杯出場を決めました。全国社会人サッカー選手権大会には2014年から出場しており、2015年に4強入りして全国地域サッカーリーグ決勝大会の出場権を獲得。同大会では決勝ラウンドで全勝優勝を遂げ、JFL昇格を果たしました。

ラインメール青森FCは、「サッカーを通じて もっと健やかに もっと幸せに もっと豊かな地域づくりを目指します」を理念に掲げ、Jリーグ参入を目指して日々戦っています。今シーズンは、5年ぶりに天皇杯出場を決めて3回戦まで勝ち進み、全国の皆さまにラインメール青森FCの名を知っていただくことができました。天皇杯での躍進の反響は大きく、スタジアムに来場いただくお客さまの数も増え、その応援の力を選手・スタッフ一同、強く感じています。皆さまの思いを背負って、今シーズンこそ悲願のJ3昇格を達成し、サポーターやホームタウンの皆さまと喜びを分かち合いたいと思っています。

結果はもちろんですが、地域の皆さまと触れ合う活動にも力を入

れています。今シーズンから始めた取り組みの一つが、小学校でのあいさつ運動です。朝の登校時間に選手たちが校門前に立ち、児童をあいさつとハイタッチで出迎える活動を市内の小学校で実施しました。地域の子どもたちと触れ合うことで選手たちもパワーをもらい、試合会場に足を運んでくれるきっかけにもなっています。他にも、試合後の小学生を対象としたサッカー教室の開催、老人ホーム等への訪問、地域イベントへの参加も積極的に行っています。地域の皆さまと直接触れ合える活動をさらに増やし、地域に愛される・応援していただけるクラブを目指して活動していきます。



地元小学校で児童を出迎える選手たち

なでしこリーグ便り

“スフィダ(挑戦)”を通じて、世田谷をもっと楽しくすること

スフィダ世田谷FC 広報担当 小林舜


<http://www.sfida.or.jp/>

スフィダ世田谷FCは、「スフィダ(挑戦)を通じて、世田谷をもっと楽しくする」というビジョンの下、地域貢献活動に力を入れています。

“世田谷のクラブ”として取り組む地域貢献活動は、地域におけるクラブの存在価値を高め、なでしこリーグの社会的価値を揺るぎないものにしていくと考えています。その中でクラブが力を入れている活動の一つに「スフィダ大蔵まつり」があります。今シーズンも開催いたしました。

会場はクラブの拠点となる世田谷区祖師ヶ谷大蔵の「世田谷区立大蔵総合運動場陸上競技場」。グラウンド内では、トップチームと世田谷区0-50選抜チームによるスペシャルマッチを行いました。さらにブラインドサッカーやウオーキングフットボール、トップチームの選手とサッカーで交流できる体験型プログラムも用意しました。また、ハーフタイムショーでは世田谷区のチアリーディングクラブの皆さまに協力いただき、祭りを盛り上げてもらいました。

グラウンドの外には、日頃からホームゲームでの出店や地域イベントなどで交流のある世田谷区の商店街の人々の協力で、20店舗以上の飲食や体験ブースが並び、地域の皆さまと共につくる祭りを実施しました。約3,000人のお客さまに来場いただき、「今度試合を見に行くね!」「お祭りでは選手と関わって楽しかった!」といった

声が聞けたこと、そして共に祭りをつくっていただいた皆さまからも「来年も楽しみにしています!」「ホームゲームも協力します!」など、次につながる声が多く寄せられました。こういった地道な活動こそが世田谷区の皆さまに「スフィダ世田谷FC」を知ってもらう場だと考えています。

「スフィダ大蔵まつり」も今年で3回目、世田谷の夏の風物詩として定着してきたと実感しています。祭りを楽しんでいただきながら、地域の皆さまから応援してもらえる・愛されるクラブ「地域のシンボル」になれるように、常に前進してまいります。



今年で3回目を迎えた「スフィダ大蔵まつり」



FCふじざくら山梨のあるべき姿

FCふじざくら山梨 広報担当 高橋玲花

<https://www.fujizakura-sc.jp/>

FCふじざくら山梨は「GO WITH YOU」という言葉を胸に、クラブを支えてくださる全ての人々、応援して下さる地域の皆さまと共に歩んでいます。「プレイングワーカー」の理念にのっとり、選手は競技の場で一流を追求し、「オフザピッチ」にも主体性を持って臨みます。

「地域の子どもたちとサッカーを楽しむ・FCふじざくら山梨を好きになってもらう」をテーマに、保育園や幼稚園、特別支援学校、放課後等デイサービスに通う子どもたちを対象にサッカー教室を行っています。包括協定を結ぶ鳴沢村では、定期的なサッカー教室や18歳以上を対象とした「オトナの軽運動レッスン」を開催しています。運動初心者や普段あまり体を動かさない人も気軽に参加でき、村民の健康意識やクラブへの親近感が少しずつ高まっています。

ほかにも、地域の農家さんの協力の下、選手が果物や野菜を育て、ホームゲームやオンラインストアで販売する「ふじざくらファーム」、ある選手は地元・富士川町にある鮎沢警察署で「一日警察署長」、また、ある選手はアスリートフードマイスターの資格を生かしてSNSでの食育発信やパートナー企業とのコラボ弁当の販売を行うなど、多彩な活動に挑戦しています。X(旧Twitter)で「#源メシ」「#AOIキッチン」「#もかのgowithdog計画」などを検索すると、選手それぞれの取り組みをご覧いただけます。

さらに夏休みには、地域のイオンモールでPRイベントを実施。選

手によるチラシ配布、サイン会、地域店舗との抽選会などを行い、多くのご家族や買い物中のお客さまと触れ合いました。直接顔を合わせて交流できる場をつくることで、クラブと地域との距離がさらに縮まったと感じています。

こうした活動は全て、サポーター、パートナー企業、地域の方々、そしてホームゲームを共につくり上げてくださるボランティアの皆さまのご協力があって成り立っています。これからもFCふじざくら山梨は、支えてくださる人々に、私たちだからこそ生み出せる価値を届け続けます。

最後に、FCふじざくら山梨はクラブに関わるすべての人々と共に未来を創りたいという思いを込めて、「GO WITH YOU」を掲げ続けてまいります。



応援して下さる地域の人々と共に



女子フットサルの普及活動

東海フットサル連盟副理事長／愛知県フットサル連盟 小坂博章

<https://www.jff-futsal.or.jp/>

愛知県では、女子フットサルのチーム数と選手数が減少傾向にあります。愛知県女子フットサルリーグは、チームの解散や脱退によって6チームとなり、県リーグの継続に不安が残る中で2025年を迎えました。新たに募集して3チームが加わったことで2025年度はリーグを開催できましたが、来年以降も課題となる事案であることから、女子フットサルの普及、育成を目標に2025年度の取り組みを強化することとしました。

新規参加チームが出てくるよう既存の取り組みを継続。まずは高校生以下の若い年代にフットサルを普及し、選手を育てることで、フットサルを継続的にプレーしてくれる選手の増加を目指しています。

施策として、高校生以下の愛知県女子フットサルU-18選抜、トレセンを実施し、愛知県選抜活動を通して、チームとして活動する自覚を高めること。また、中学生年代も対象とし、選抜活動の中でフットサルが上達することを楽しいと思ってもらえるような活動を行うこと。中学生年代は、愛知県唯一の女子U-15フットサルチームを中心に、愛知県女子フットサルリーグ、東海女子フットサルリーグ、また男子のU-15に所属している選手を募集しました。

そんな中、今年3月に兵庫県神戸市のグリーンアリーナ神戸で「FUTSAL KOBE FESTA 2025 U-18女子フットサル選抜トーナメ

ント」が開催されるとの情報を得て、参加しました。活動を始めたばかりですので、他県のチームと対戦して選手が得るものがあればよいと、結果は重視せずに参加しました。予選グループ2位で3位決定戦に進みましたが、残念ながら敗れて4位という結果になりました。しかし、選手たちは楽しかったようで、良い経験の場になったと思います。今後も選抜活動、トレセン活動を継続するとともに、女子サッカーチームへのフットサルの普及を推進し、愛知県の女子フットサルチーム、選手の増加につながるよう活動していきたいと考えます。



愛知県U-18女子選抜として参加したFUTSAL KOBE FESTA 2025 U-18女子フットサル選抜トーナメント



日本ビーチサッカー連盟便り



挑戦し続けることで開く女子ビーチサッカーの未来

LAZO APEGO(ラソ・アペゴ)北九州レディース 西村望

https://jbsf.or.jp/

ビーチサッカーを始めて6年目のシーズンを迎えました。始めた頃はコロナ禍でなかなか試合ができず、全国大会も中止となっていました。そんな中で、「Thetisツアー」という女子のビーチサッカー大会を開催していただきました。その大会のおかげでビーチサッカーに魅了され、全国のビーチサッカーファミリーと出会うことができました。そして、チームのみならず試合ができる喜びを感じ、「もっとうまくなりたい」という思いが強くなり、今も私は砂の上でボールを蹴り続けることができている。本当に感謝しています。

ビーチサッカーと出会い、「海外挑戦」という私の夢の一つをかなえることもできました。海外ではさまざまなハプニングに遭遇しながらも、その地でしか味わうことのできない貴重な経験をたくさんさせてもらいました。言葉の壁やフィジカルの差など、うまくいくことばかりではありませんが、そこで出会った選手やスタッフのサッカーに対する情熱、プレーのスピード、パワー、そして勝利への執念。その一つ一つに刺激を受け、自分にとってプラスになることばかりでした。

また、たくさんの方にサポートや応援をしていただき、所属チームで世界大会への挑戦もしています。毎回、目指している結果には届かず悔しい思いをしていますが、各国の代表選手との試合を通じて、とても学びの多いチャレンジをさせていただいています。

一方で、日本のビーチサッカーの現状を見ると、競技人口はまだまだ少なく、環境面でも恵まれているとは言い難い状況です。チーム、競技者が全国的に増えていないのが現実ですが、やり続けなければこの火は消えてしまいます。私は近い未来、女子の日本代表ができることを心から望んでいます。そして、世界のビーチサッカー女子選手もそれを待ち望んでいます。これからビーチサッカーが若い子たちの「目指す場所(日本代表)」となるように、ビーチサッカーの魅力を発信し、プレーし続けることが未来につながると思っています。1人でも多くの人にビーチサッカーの楽しさや魅力を届けられるように、そして、チームや日本のビーチサッカー界の発展に少しでも貢献していけるようにこれからも挑戦し続けたいと思います。



共にチャレンジし続けるLAZO APEGO北九州の多くの刺激を受けた海外挑戦チームメイト(前列中央が筆者)

日本障がい者サッカー連盟便り



ASIA PACIFIC OCEANIA ZONE 2025 Powerchair Football Championship

結果報告

一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会 事務局長 荻野芳貴

https://www.jiff.football/

10月15日から17日、オーストラリア・ブリスベンで「ASIA PACIFIC OCEANIA ZONE 2025 Powerchair Football Championship (APOカップ)」が開催されました。同大会は、2026年に開催される「FIPFA Powerchair Football World Cup」のアジア・オセアニアゾーン予選も兼ねており、日本のほかオーストラリア、ニュージーランド、韓国が参加。日本代表チームは準優勝し、ワールドカップ出場権を獲得しました。さらに、平西一斗選手が大会MVP(最優秀選手賞)およびプレイヤーズ プレイヤー賞のダブル受賞という快挙を達成しました。皆さまの温かいご声援に心より感謝申し上げます。三上勇輝キャプテンのコメントを紹介します。

●三上勇輝選手コメント

約半年、名合宿を重ね、APOカップに向けて準備をしてきました。名越直監督は困難な状況でも常に選手を信じ、言葉をかけてくださり、その信頼関係をチーム全体で築き上げてきました。当初の目標「APOカップ優勝によるワールドカップ出場」には届きませんでしたが、代表選手8名をはじめ、スタッフの皆さんが選手のコンディションを最優先に考え、翌日の準備やサポートに尽力してくださいました。名越監督やコーチ陣は夜遅くまで映像を分析し、翌日の戦術を練って選手に伝えてくれました。優勝という結果を届けられなかつ

たことに、キャプテンとして責任を感じています。また、ピッチに立てなかった選手もいる中で、その選手たちにも申し訳ない気持ちがあります。それでも、第二の目標である2026年アルゼンチンワールドカップ出場権の獲得を果たせたことは大きな一歩です。今大会は、新たなメンバーの加入や世代交代の側面もあり、未来につながる大会だったと感じています。来年に向けて再び「名越JAPAN」で戦える環境を築けたことは、非常に意義深いことです。

日本から応援してくださったサポーターの皆さま、本当にありがとうございました。応援旗や「頑張って」「勇輝ならできる」「勝てこい」といった温かいメッセージの数々は、私たちの大きな励みとなりました。心から感謝しています。来年に向けて、日本全体で「ワンチーム」となり、さらに強くなっていきたいと思います。今後とも、変わらぬご支援と応援をどうぞよろしくお願いいたします。



オーストラリアとの決勝を終えて

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。
彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていききっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組めます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンブティサッカー協会

アンブティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

支援団体



日本サッカー後援会

JIFFパートナー



Johnson & Johnson

住友ベークライト



東京海上日動

Nabtesco

Bewith

三菱商事

会議レポート



公益財団法人日本サッカー協会 2025年度第11回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会（JFA）は2025年10月7日、2025年度第11回理事会をJFAハウスで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- 1 2025年度スポーツ団体ガバナンスコード 自己説明の公表…………… P44
- 2 臨時評議員会 開催…………… P44
- 3 釜本邦茂氏お別れの会開催…………… P44

2025年度スポーツ団体ガバナンスコード 自己説明の公表

スポーツ庁が義務付けている「スポーツ団体ガバナンスコード」の年1回の自己説明について公表した。

※詳細はJFA公式ウェブサイト参照

臨時評議員会 開催

下記の通り、臨時評議員会を開催する。

開催日時：2025年10月26日（日）13:00 開始

開催方法：JFA会議室およびウェブ会議システム

議題：●決議事項

(1) 評議員5名 選任の件

(2) 現役会長の信任決議の件

釜本邦茂氏お別れの会開催

2025年8月10日に逝去された釜本邦茂氏のお別れの会を下記の要領にて執り行う。

- 目的 JFAの元副会長であり、稀代の名選手として日本サッカーの発展に貢献し、指導者としても後進の育成に尽力した故人の功績をしのぶとともに、感謝と敬意を表する場とする。
- 主催 公益財団法人日本サッカー協会

●日時 11月22日（土）11:00開会予定

●会場 帝国ホテル東京（東京都千代田区内幸町1-1-1）

●招待者 JFA関係者、各リーグ/クラブ、加盟団体・関連団体等サッカー関係者、釜本様ご関係者他

●備考 一般の献花については、10月10日（金）および10月14日（火）の麒麟チャレンジカップ2025に合わせて試合会場に献花台を設置する。

決議事項

- 1 第33回FIFAカウンシル会議（10月2日開催）…………… P44
- 2 審判員海外派遣…………… P45
- 3 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認（更新）…………… P45

第33回FIFAカウンシル会議（10月2日開催）

第33回FIFAカウンシル会議が2025年10月2日にスイス・チューリヒで開催された。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) FIFA U-20ワールドカップ2027™をアゼルバイジャンとウズベキスタンが共同開催することを承認した。
- (2) 第1回FIFA女子チャンピオンズカップ2026ファイナルフェーズを2026年1月28日から2月1日にかけてロンドンで開催することを承認した。

(3) 新たに創設された31のFIFA常任委員会（2025年-2029年任期）の各委員が選任された。

(4) CAF女子アフリカネイションズカップを2026年3月17日～4月3日に開催し、女子インターナショナルマッチカレンダーに含めることを承認した。

審判員海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣 (受け入れ)期間	場所
AFC U23 アジアカップサウジアラビア2026 予選グループG	審判員	笠原寛貴、浅田武士	9月3日～9日	フノンバン/ カンボジア
AFC U23 アジアカップサウジアラビア2026 予選グループK	審判員	長峯滉希、道山悟至	9月3日～9日	ドゥシャンベ/ タジキスタン
AFCチャンピオンズリーグエリート 2025/2026 リーグステージ ウェスト AL AHLI SAUDI FC (KSA) vs PFC NASAF (UZB)	審判員	谷本涼、浅田武士、 武部陽介、長峯滉希、 笠原寛貴、渡辺康太	9月15日	ジェッダ/ サウジアラビア
AFCフットサルアジアカップインドネシア2026 予選グループA	審判員	藤田武志、大矢翼	9月20日～24日	アルディヤ/ クウェート
AFCフットサルアジアカップインドネシア2026 予選グループF	審判員	山本真理、齋藤香菜	9月20日～24日	ビシュケク/ キルギス
AFC U23 アジアカップサウジアラビア2026 予選グループC	審判指導者 (アセッサー)	上川徹	9月3日～9日	ベトチ/ ベトナム
AFC U23 アジアカップサウジアラビア2026 予選グループI	審判指導者 (アセッサー)	山岸佐知子	9月3日～9日	アブダビ/ アラブ首長国連邦
AFCチャンピオンズリーグエリート 2025/2026 リーグステージ イースト BURIRAM UNITED (タイ) vs JOHOR DARUL TA'ZIM FC (マレーシア)	審判指導者 (アセッサー)	上川徹	9月16日	プリーラム/ タイ
AFCチャンピオンズリーグエリート 2025/2026 リーグステージ イースト ULSAN HD FC (韓国) vs CHENGDU RONGCHENG FC (中国)	審判指導者 (アセッサー)	山内宏志	9月17日	蔚山/ 韓国
AFCフットサルアジアカップインドネシア2026 予選グループB	審判指導者 (アセッサー)	延本泰一	9月20日～24日	ノタプリ/ タイ
AFCフットサルアジアカップインドネシア2026 予選グループE	審判指導者 (アセッサー)	小崎知広	9月20日～24日	杭州/ 中国

JFAロングバイル人工芝ピッチ公認(更新)

申請者(施設所有者): 学校法人 国士館

施設名 : 国士館大学町田キャンパス多目的グラウンド(東京都町田市広袴1-2-6)

使用製品: 美津濃株式会社 MS Craft AG BB、MS Craft AG-O BB

公認期間: 2025年11月10日～2028年11月9日

公認番号: 第018号



公益財団法人日本サッカー協会 2025年度臨時評議員会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会(JFA)は2025年10月26日、2025年度臨時評議員会をJFAハウスとオンラインで開催した。決議・報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- 1 評議員5名選任 P45
- 2 現役会長の信任決議 P46

評議員3名 選任

下記の5名の評議員を選任する。

(1) 一般社団法人福井県サッカー協会

退任する評議員: 西村昭治(にしむら しょうじ)副会長
選任する評議員: 永棹稔(ながさお みのる)副会長

(2) 株式会社コンサドーレ

退任する評議員: 三上大勝(みかみ ひろかつ)前代表取締役GM
選任する評議員: 石水創(いしみず はじめ)代表取締役社長

(3) 株式会社名古屋グランパスエイト

退任する評議員: 小西工己(こにし こうき)上級エグゼクティブアドバイザー
選任する評議員: 清水克洋(しみず かつひろ)代表取締役社長

(4) 一般社団法人日本女子サッカーリーグ

退任する評議員: 玉田稔(たまだ みのる)参与
選任する評議員: 井原多美(いはら たみ)理事

(5) 一般社団法人日本サッカー指導者協会

選任する評議員: 中野雄二(なかの ゆうじ)副代表理事
※特定非営利活動法人日本サッカー指導者協会の推薦で評議員を務めていた石川慎之助(いしかわ しのすけ)氏は、本評議員会をもって退任。

なお、任期の満了前に退任した評議員に代わって選任する評議員の任期は、定款第18条第2項の規定により、退任する評議員の任期満了の時までとなるため、2026年度に関する定時評議員会(2027年3月)の終結の時までとなる。

現役会長の信任決議

役員を選任及び会長等の選定に関する規程第20条に基づき、会長を継続する意思を表明した現役会長の信任決議を行った。

投票はオンライン投票システムを使い、出席した評議員64人(欠席15人)によって行われ、その結果、宮本恒靖現会長が次期会長予定者として過半数の票を獲得し、信任された。宮本会長の現在の任期は2026年3月まで、新たな任期は同年3月から2028年3月の2年間。国内法の規則に則り、2026年3月に開催される定時評議員会で理事に選任された上で、新理事で構成される理事会の互選をもって会長として正式に就任する。

【参考】役員を選任及び会長等の選定に関する規程

第20条〔現役会長の信任決議〕

1. 第15条に定める評議員による選挙を経て会長予定者に選出され、その後の理事会において会長に選定された会長(以下「現役会長」という。)が、当該選定の2年後の改選(以下「次期改選」という。)に関して、自ら会長を継続する意思を表明した場合は、当該次期改選期の10月に開催される臨時評議員会において、現役会長の継続についての信任決議を行うものとする。

2. 前項の信任決議は、評議員による無記名の投票により行われるものとし、出席した評議員の過半数が現役の会長の継続について承認した場合、本規程第8条から第11条までの手続きを経ることなく、現役会長が会長予定者となる。

3. 信任決議の運営に係る事務は本協会の事務局が行うものとする。

4. 現役会長が継続する意思を表明しなかった場合又は現役会長が前項に基づく過半数の承認を得られなかった場合は、第8条に定める立候補に関する手続きを経て、第15条に基づき、当該次期改選期の1月臨時評議員会における評議員による選挙によって会長予定者を選出するものとする。

第20条の2〔オンライン投票に関する特別規定〕

1. 会長予定者を選出するための評議員会(第15条)又は現役会長の信任決議を行うための評議員会(第20条)がウェブ会議により行われた場合、前各条の定めにかかわらず、当該選挙又は信任決議はインターネットを通じたオンライン投票にて行われるものとする。

2. 前項に定めるオンライン投票は、匿名性が保証されたものでなければならない。



公益財団法人日本サッカー協会 2025年度第13回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会(JFA)は2025年10月28日、2025年度第13回理事会をJFAハウスとオンラインで開催した。決議された事項は、下記の通り。

決議事項

1. 倫理・コンプライアンスタスクフォース(仮称)の設置…………… P46

倫理・コンプライアンスタスクフォース(仮称)の設置

倫理・コンプライアンスタスクフォース(仮称)を設置する。

【倫理・コンプライアンス タスクフォースについて】

1. 当タスクフォース(TF)設置の背景・目的

- ・昨今、コンプライアンス事案が散発的/断続的に発生しており、これらの事案を未然に防ぐための組織体制が十分に構築できていないと言える。
- ・事案関係者にとどまらず組織としてのJFA全体の問題と捉え、倫理・コンプライアンスの実践・順守を推進するための組織風土の醸成や組織体制の構築に向けて、改善策/再発防止策を策定すべきだと考える。
- ・組織のトップである会長を座長とし、JFAの問題点を洗い直し、コンプライアンスの実践・順守への意識をより高度なものとし、これを支えるための組織体制を構築するためのTFを設置する。

2. ミッション

昨今のコンプライアンス事案を踏まえ、JFAの倫理・コンプライアンスの実践・順守を推進するための組織風土の醸成や組織体制の構築に向けて、実効性のある改善策・再発防止策を理事会に提言する。

3. 位置付け(他機関との関係性)

- ・理事会は、法令上、JFAのガバナンス・コンプライアンス体制の構築および運用について専権と責任を負う機関。
- ・今回のTFは、その理事会が、自らの責任を果たすために諮問するという「理事会の諮問機関」という位置づけ。改善策・再発防止策等を理事会に答申する。
- ・既存の関連3委員会(コンプライアンス、法務、リスペクト)と横断的に連携しながら活動する。
- ・永続的な機関ではなく、アドホックな組織とする。
- ・ただし、ガバナンス・コンプライアンス強化は今後も最優先課題として継続的に取り組む。

4. メンバー

理事、関連3委員会を中心とした体制とする。

	名前	JFA役職	
TFメンバー	1 宮本恒靖	会長	*座長
	2 湯川和之	専務理事	
	3 山口香	常務理事	
	4 西本強	理事、コンプライアンス委員長	【弁護士】 *副座長
	5 三好豊	法務委員長	【弁護士】
	6 今井純子	リスペクト委員長	
監事	福田雅	監事	
	生田圭	監事	【弁護士】

5. 主な所管事項(現時点での想定)

- (1)改善策/再発防止策の提言(byタスクフォース)
- (2)改善策/再発防止策の策定・実行+モニタリング(by理事会)



気づく、とどける、つながる
ともにサッカーで幸せになる



公益財団法人 日本サッカー協会

Access for All
アクセス・フォー・オール



©JFA

誰もがサッカーにアクセスできる社会へ

Access for All

アクセス・フォー・オール宣言

グラスルーツからエリートまで
誰もがサッカーの「する」「見る」「関わる」にアクセスできる
多様な「機会」と「選択肢」を持続的に確実に届けます。

上記を実現するために、

- 1 日本サッカー協会は、各リーグや9地域47都道府県サッカー協会、および各種加盟団体と共に、サッカーを愛するすべての人が全国の日常でサッカーにアクセスし、サッカーを楽しみ挑戦できることをサッカーファミリーの「あたりまえ」にしていきます。
- 2 サッカーを通じて、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン (DEI)* を推進し、日本のスポーツ文化に変化を起こします。

JFAの理念
サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAの約束2050

- ① サッカーを愛する仲間=サッカーファミリーが1,000万人になる
- ② FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会の優勝チームとなる

*ダイバーシティ Diversity (多様性)、エクイティ Equity (公正)、インクルージョン Inclusion (包括性)、3つの頭文字をとって「DEI」とする

Access for All ハンドブック

基本的な考え方とさまざまな好事例をご紹介します。
(全52ページ)
アクセス・フォー・オール特設ページからダウンロードしていただけます。



ハンドブックはデータ容量が大きいため
WiFi環境での閲覧を推奨しております。

CONTENTS

- アクセス・フォー・オール宣言
- 「アクセス」「フォー」「オール」とは
- アクセス・フォー・オールの基本的な考え方
- 各論 具体的な考え方と事例
 - 基本ガイドライン
 - 女子
 - LGBTQ+
 - 障がい者
 - 在留外国人
 - 貧困問題
 - 様々な課題や複合的な要因
 - について
- 今後のアクションプラン

制作 アクセス・フォー・オールワーキンググループ



- ① SAMURAI BLUE キリンチャレンジカップ2025
 - ② なでしこジャパン 国際親善試合
 - ③ U-19日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ
 - ④ U-16日本女子代表 モンテギュー国際大会
 - ⑤ フットサル日本代表 国際親善試合
 - ⑥ U-18フットサル日本代表候補 国内トレーニングキャンプ
 - ⑦ ビーチサッカー日本代表 国際親善試合
 - ⑧ 2025ナショナルトレセンU-14 中期
 - ⑨ JFA女子GKキャンプU-13/U-14(J-GREEN堺)
 - ⑩ 第32回全国クラブチームサッカー選手権大会
 - ⑪ わたSHIGA 輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会(サッカー競技)(成年男子・少年男子・少年女子)
 - ⑫ 文部科学大臣杯争奪 2025年度全国専門学校総合体育大会 第35回全国専門学校サッカー選手権大会
 - ⑬ 第61回全国社会人サッカー選手権大会
 - ⑭ 2025プレナスなでしこリーグ1部
 - ⑮ 2025プレナスなでしこリーグ2部
 - ⑯ 2025プレナスなでしこリーグ1部・2部入替戦
 - ⑰ 2025プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会／2025プレナスなでしこリーグ2部入替戦
- ※NCS: ナショナルコーチングスタッフ, JC: JFAコーチ / VAR: ビデオアシスタントレフェリー, AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

SAMURAI BLUE キリンチャレンジカップ2025

※ 72 ~ 73 ページに関連記事あり

【スタッフ】

○監督: 森保一(NCS) ○コーチ: 名波浩(NCS)、齊藤俊秀(NCS)、前田遼一(NCS)、長谷部誠(アイントラハト・フランクフルト) ○フィジカルコーチ: 松本良一(NCS) ○GKコーチ: 下田崇(NCS) ○テクニカルスタッフ: 寺門大輔(JFAテクニカルハウス)、中下征樹(JFAテクニカルハウス)、若林大智(JFAテクニカルハウス)、渡邊秀朗(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	早川友基	鹿島アントラーズ	MF/FW	前田大然※3	セルティック (SCO)
	大迫敬介	サンフレッチェ広島		堂安律	アイントラハト・フランクフルト (GER)
	鈴木彩艶	バルマ・カルチョ (ITA)		上田綺世	フェイエノールト (NED)
DF	長友佑都	FC東京	田中碧	リーズ・ユナイテッド (ENG)	
	谷口彰悟	シントトロイデンVV (BEL)	町野修斗	ボルシア・メンヘングラートバッハ (GER)	
	板倉滉※1	アヤックス (NED)	中村敬斗	スタッド・ランス (FRA)	
	渡辺剛	フェイエノールト (NED)	佐野海舟	マインツ05 (GER)	
	安藤智哉	アビスパ福岡	久保建英	レアル・ソシエダード (ESP)	
	瀬古歩夢	ル・アーヴルAC (FRA)	斉藤光毅*	クイーンズ・パーク・レンジャーズ (ENG)	
	鈴木淳之介	FCコペンハーゲン (DEN)	望月ヘンリー海輝	FC町田ゼルビア	
	橋岡大樹※2	スラヴィア・プラハ (CZE)	藤田譲瑠チマ	FCザンクトパウリ (GER)	
MF/FW	遠藤航※1	リバプールFC (ENG)	ITA: イタリア, BEL: ベルギー, NED: オランダ, FRA: フランス, DEN: デンマーク, CZE: チェコ, ENG: イングランド, SCO: スコットランド, GER: ドイツ, ESP: スペイン		
	伊東純也	KRCヘンク (BEL)	*: 初招集		
	南野拓実	ASモナコ (FRA)	※1: ケガのため不参加		
	鎌田大地	クリスタル・パレス (ENG)	※2: 追加招集		
	相馬勇紀	FC町田ゼルビア	※3: ケガのため途中離脱		
	小川航基	NECナイメヘン (NED)			

<スケジュール>

10月6日~8日	トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
9日	羽田発、伊丹着 公式トレーニング (パナソニック スタジアム 吹田) キリンチャレンジカップ2025
10日	vs バラグアイ代表 (パナソニック スタジアム 吹田)
11日	伊丹発、羽田着 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
12日	トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
13日	公式トレーニング (東京スタジアム)
14日	キリンチャレンジカップ2025 vs ブラジル代表 (東京スタジアム)

■バラグアイ代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	ロベルト・フェルナンデス	セロ・ボルテーニョ	MF	アンドレス・クバス	バンクーバー・ホワイトキャプス (CAN)
	ファン・エスピノラ	ニューエルズ・オールドボーイズ (ARG)		ブライアン・オヘダ	レアル・ソルトレーク (USA)
	オルランド・ヒル	サン・ロレンソ (ARG)		ダミアン・ボバディージャ	サンパウロFC (BRA)
DF	ビクトル・ベラスケス	セロ・ボルテーニョ	マティアス・ガラルサ	リバプレート (ARG)	
	ジュニオル・アロンソ	アトレチコ・ミネイロ (BRA)	ディエゴ・ゴンサレス	アトラスFC (MEX)	
	グスタボ・ゴメス	バルメイラス (BRA)	ディエゴ・ゴメス	フライトン・アンド・ホーヴ・アルビオン (ENG)	
	アラウ・ベニテス	インテルナシオナル (BRA)	ウーゴ・クエンカ	ジェノアCF (ITA)	
	オマル・アルデレチ	サンダーランド (ENG)	アレックス・アルセ	インデペンディエンテ・リバダビア (ARG)	
	アレクシス・ドゥアルテ	スバルタク・モスクワ (RUS)	アントニオ・サブリア	クレモネーゼ (ITA)	
	ファン・カセレス	ディナモ・モスクワ (RUS)	ロナルド・マルチネス	プラテンセ (ARG)	
	ディエゴ・レオン	マンチェスター・ユナイテッド (ENG)	ルーカス・ロメロ	トリニデンセ	
MF	アンヘル・ロメロ	コリンチャンス (BRA)	ARG: アルゼンチン, BRA: ブラジル, ENG: イングランド, RUS: ロシア, USA: アメリカ, UAE: アラブ首長国連邦, CAN: カナダ, MEX: メキシコ, ITA: イタリア		
	ミゲル・アルミロン	アトランタ・ユナイテッド (USA)			
	アルノ・ロドリゲス	アルアイン (UAE)			

監督 グスタボ・アルファロ

<スケジュール>

10月9日	公式トレーニング (パナソニック スタジアム 吹田)
10日	キリンチャレンジカップ2025 vs SAMURAI BLUE (パナソニック スタジアム 吹田)

■ブラジル代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	ジョン・ビクトル	ノッティンガム・フォレスト (ENG)	MF	ルーカス・バケタ	ウェストハム・ユナイテッド (ENG)
	ウーゴ・ソウザ	コリンチャンス		ブルーノ・ギマリョス	ニューカッスル・ユナイテッド (ENG)
	ペント	アルナスル (KSA)		ジョアン・ゴメス	ウルバーハンプトン・ワンダラーズ (ENG)
DF	ドウグラス・サントス	ゼニト・サンクト・ペテルブルク (RUS)	アンドレ	ウルバーハンプトン・ワンダラーズ (ENG)	
	ファブリシオ・ブルーノ	クルゼイロ	リシャルリソン	トッテナム・ホットスパー (ENG)	
	パウロ・エンリケ	バスコ・ダ・ガマ	マテウス・クーニャ	マンチェスター・ユナイテッド (ENG)	
	カイオ・エンリケ	ASモナコ (FRA)	ビニチス・ジュニオル	レアル・マドリッド (ESP)	
	ガブリエル・マルティン	アーセナル (ENG)	ルイス・エンリケ	ゼニト・サンクト・ペテルブルク (RUS)	
	エデル・ミリタン	レアル・マドリッド (ESP)	ロドリゴ	レアル・マドリッド (ESP)	
	カルロス・アウグスト	インテル・ミラノ (ITA)	イゴール・ジェスス	ノッティンガム・フォレスト (ENG)	
	ピチーニョ	ボタフォゴ	ガブリエル・マルティン	アーセナル (ENG)	
	ルーカス・ベラウド	パリ・サンジェルマン (FRA)	エステバン	チェルシー (ENG)	
	MF	カゼミロ	マンチェスター・ユナイテッド (ENG)	ENG: イングランド, KSA: サウジアラビア, RUS: ロシア, FRA: フランス, ESP: スペイン, ITA: イタリア	
		ジョエリントン	ニューカッスル・ユナイテッド (ENG)		

監督 カルロ・アンチェロッティ

<スケジュール>

10月13日	公式トレーニング (東京スタジアム)
14日	キリンチャレンジカップ2025 vs SAMURAI BLUE (東京スタジアム)

キリンチャレンジカップ 2025

SAMURAI BLUE 2 (前半1-1 後半1-1) 2 バラグアイ代表

●2025年10月10日 19:24 ●パナソニック スタジアム 吹田 ●試合時間:90分
●審判員:[主審]コ・ヒョンジン(KOR) [副審]バク・キョンヨン(KOR)/チャン・チョンピル(KOR) [第4の審判員]キム・ジョンヒョク(KOR) ●マッチコミッショナー:飯野琢人 ●観衆:34,169人

日本(監督:森保一):[GK](1)鈴木彩艶 [DF](4)渡辺剛(22)瀬古歩夢(25)鈴木淳之介 [MF/FW](8)南野拓実<-66'(15)鎌田大地>(10)堂安律<-78'(7)相馬勇紀>(13)中村敬斗<-66'(24)斎藤光毅>(14)伊東純也(17)田中碧<-78'(9)町野修斗>(19)小川航基<-89'(18)上田綺世>(21)佐野海舟<-89'(6)藤田譲瑠チマ>

控え:(12)大迫敬介(23)早川友基(2)橋岡大樹(3)谷口彰悟(5)長友佑都(11)前田大然(16)安藤智哉(20)久保建英(26)望月ヘンリー海輝

バラグアイ(監督:グスタボ・アルファロ):[GK](1)ロベルト・フェルナンデス [DF](3)オマール・アルデレテ(4)ファン・カセレス(6)ジュニオル・アロンソ(15)グスタボ・ゴメス [MF](7)ディエゴ・ゴンサレス<-78'(19)ウーゴ・クエンカ>(8)ディエゴ・ゴメス<-69'(23)マティアス・ガララサ>(10)ミゲル・アルミロン<-90+1'(18)アレックス・アルセ>(14)アンドレス・クパス<-90+1'(20)ブライアン・オヘダ>(16)ダミアン・ポパディジャ [FW](9)アントニオ・サナブリア<-78'(21)ロナルド・マルティネス>

控え:(12)ファン・エスピノラ(22)オルランド・ヒル(2)ビクトル・ベラスケス(5)アレクシス・ドゥアルテ(11)アンヘル・ロメロ(13)アラン・ベニテス(17)アレハンドロ・ロメロ・ガマラ(24)ディエゴ・レオン(25)ルーカス・ロメロ

得点 [日本]26'小川航基(1-1)、90+4'上田綺世(2-2)
[バラグアイ]21'ミゲル・アルミロン(0-1)、64'ディエゴ・ゴメス(1-2)

警告 [日本]63'田中碧

キリンチャレンジカップ 2025

SAMURAI BLUE 3 (前半0-2 後半3-0) 2 ブラジル代表

●2025年10月14日 19:35 ●東京スタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]キム・ジョンヒョク(KOR) [副審]バク・キョンヨン(KOR)/チャン・チョンピル(KOR) [第4の審判員]コ・ヒョンジン(KOR) [VAR]キム・ウソン(KOR) [AVAR]キム・デヨン(KOR) ●マッチコミッショナー:飯野琢人 ●観衆:44,920人

日本(監督:森保一):[GK](1)鈴木彩艶 [DF](3)谷口彰悟(4)渡辺剛(25)鈴木淳之介 [MF/FW](8)南野拓実<-74'(17)田中碧>(10)堂安律<-85'(26)望月ヘンリー海輝>(13)中村敬斗<-74'(7)相馬勇紀>(15)鎌田大地<-85'(19)小川航基>(18)上田綺世<-74'(9)町野修斗>(20)久保建英<-54'(14)伊東純也>(21)佐野海舟

控え:(12)大迫敬介(23)早川友基(2)橋岡大樹(5)長友佑都(6)藤田譲瑠チマ(16)安藤智哉(22)瀬古歩夢(24)斎藤光毅

ブラジル(監督:カルロ・アンチェロッチ):[GK](1)ウーゴ・ソウザ [DF](13)パウロ・エンリケ(14)ファブリシオ・ブルーノ(15)ルーカス・ペラウド(24)カルロス・アウグスト<-74'(16)カイオ・エンリケ> [MF](5)カゼミロ(8)ブルーノ・ギマランイス<-57'(17)ジョエリントン>(11)ルーカス・バケタ<-74'(9)リシャルリソン> [FW](7)ビニシウス・ジュニオール<-57'(21)マテウス・クーニャ>(19)ルイス・エンリケ<-74'(20)エステバン>(22)ガブリエウ・マルチネリ<-57'(10)ロドリゴ>

控え:(12)ベント(23)ジョン・ビクトル(2)ビチーニョ(3)ガブリエウ・マガリャンイス(4)エデル・ミリタン(6)ドウグラス・サントス(18)アンドレ(25)ジョアン・ゴメス(26)イゴール・ジェズス

得点 [日本]52'南野拓実(1-2)、62'中村敬斗(2-2)、71'上田綺世(3-2)
[ブラジル]26'パウロ・エンリケ(0-1)、32'ガブリエウ・マルチネリ(0-2)

警告 [日本]78'堂安律 [ブラジル]79'エステバン

なでしこジャパン 国際親善試合

[スタッフ] ○監督:ニルス・ニールセン(NCS) ○コーチ:狩野倫久(NCS/SAGAWA SHIGA FC)、リア・ブレイニー(NCS) ○GKコーチ:西入俊浩(NCS)
○フィジカルコーチ:岡本隆吾(NCS/NTT東日本株式会社) ○テクニカルスタッフ:小杉光正(JFAテクニカルハウス) ※74~75ページに関連記事あり

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	山下杏也加	マンチェスター・シティ (ENG)	MF	山本柚月※3	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	平尾知佳	グラナダCF (ESP)		藤野あおば	マンチェスター・シティ (ENG)
	大熊茜	INAC神戸レオネッサ		浜野まいか	チェルシー (ENG)
DF	熊谷紗希	ロンドン・シティ・ライオネス (ENG)	FW	松窪真心※4	ノースカロライナ・カレッジ (USA)
	清水梨紗	リバプールFC (ENG)		小山史乃観	ノースカロライナ・カレッジ (USA)
	守屋都弥	エンジェル・シティ FC (USA)		谷川萌々子	バイエルン・ミュンヘン (GER)
	北川ひかる※1	エバートン (ENG)		初木結花※2	エバートン (ENG)
	南萌華	ブライトン・アンド・ホーク・アルビオン (ENG)		田中美南	ユタ・ロイヤルズ (USA)
	高橋はな	三菱重工浦和レッズレディース		植木理子	ウェストハム・ユナイテッド (ENG)
MF	遠藤純	エンジェル・シティ FC (USA)	ENG: イングランド、ESP: スペイン、USA: アメリカ、GER: ドイツ		
	古賀塔子	トッテナム・ホットスパー (ENG)	*: 初招集		
	白垣うの※2	セレッソ大阪ヤンマーレディース	※1: ケガのため不参加		
	清家貴子	ブライトン・アンド・ホーク・アルビオン (ENG)	※2: 追加招集		
	長谷川唯	マンチェスター・シティ (ENG)	※3: コンディショニング不良のため不参加		
	長野風花	リバプールFC (ENG)	※4: ケガのため途中棄権		
	宮澤ひなた	マンチェスター・ユナイテッド (ENG)			

<スケジュール>

10月20日 成田発、チューリッヒ経由 ミラノ・マルペンサ着
21日~22日 トレーニング (Stadio Ferruccio)
23日 トレーニング (Stadio Giuseppe Sinigaglia)
24日 国際親善試合 vs イタリア女子代表 (Stadio Giuseppe Sinigaglia イタリア/コモ)
25日 トレーニング (ホテル) ミラノ・マルペンサ発 マラガ着
26日~27日 トレーニング (Banus Football Center)
28日 国際親善試合 vs ノルウェー女子代表 (Estadio Municipal de La Linea スペイン/ラ・リネア)
29日 マラガ発、チューリッヒ経由
30日 成田着

国際親善試合

なでしこジャパン 1 (前半0-0 後半1-1) 1 イタリア女子代表

●2025年10月24日 18:15 ●Stadio Giuseppe Sinigaglia ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]FABIENNE MICHEL(GER) [副審]MELISSA JOOS(GER)/ISABEL STEINKE(GER) [第4の審判員]DEBORAH BIANCHI(ITA) ●観衆:不明

日本(監督:ニルス・ニールセン):[GK](1)山下杏也加 [DF](4)熊谷紗希(5)高橋はな(6)古賀塔子<-80'(2)清水梨紗>(21)守屋都弥 [MF](7)宮澤ひなた(8)清家貴子<-61'(17)浜野まいか>(14)長谷川唯(15)藤野あおば(20)松窪真心<-HT(19)谷川萌々子> [FW](11)田中美南<-76'(9)植木理子>

控え:(12)平尾知佳(23)大熊茜(3)南萌華(10)長野風花(13)白垣うの(16)初木結花(18)遠藤純(22)小山史乃観

イタリア(監督:Andrea Soncin):[GK](1)Laura Giuliani [DF](5)Elena Linari(13)Elisabetta Oliviero(19)Martina Lenzi<-60'(23)Cecilia Salvai>(26)Federica D'Auria [MF](4)Eva Schatzer(8)Emma Severini<-77'(6)Martina Tomaselli>(20)Giada Greggi<-77'(16)Giulia Dragoni> [FW](10)Cristiana Girelli<-60'(9)Elisa Polli>(11)Barbara Bonansea<-60'(25)Margherita Monnechi>(18)Alice Corelli<-88'(15)Nadine Nischler>

控え:(12)Rachele Baldi(22)Francesca Durante(2)Valentina Bergamaschi(3)Beatrice Merlo(7)Sofia Cantore(14)Chiara Beccari(17)Lisa Boattin(21)Michela Cambiaghi(24)Angelica Sofia

得点 [日本]63'長谷川唯(1-1)
[イタリア]52'Giada Greggi(0-1)

警告 [イタリア]71'Alice Corelli、90'Giulia Dragoni

国際親善試合

なでしこジャパン 0 (前半0-1 後半0-1) 2 ノルウェー女子代表

●2025年10月28日 18:00 ●Estadio Municipal de La Linea ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]Teresa Oliveira(POR) [副審]Sandrine Santos(POR)/Cristiana Costa(POR) [第4の審判員]Ana Afonso(POR) ●観衆:138人

日本(監督:ニルス・ニールセン):[GK](1)山下杏也加 [DF](2)清水梨紗<-81'(13)白垣うの>(5)高橋はな(6)古賀塔子<-HT(3)南萌華>(21)守屋都弥<-65'(18)遠藤純> [MF](7)宮澤ひなた<-8'(16)初木結花>(8)清家貴子<-HT(10)長野風花>(14)長谷川唯(15)藤野あおば(17)浜野まいか [FW](11)田中美南<-65'(19)谷川萌々子>

控え:(12)平尾知佳(23)大熊茜(4)熊谷紗希(9)植木理子(22)小山史乃観

ノルウェー(監督:Gemma Grøngjer):[GK](1)Cecilie Hauståker Fiskerstrand [DF](2)Marit Bratberg Lund(13)Thea Bjelde<-86'(3)Emilie Marie Aanes Woldvik>(16)Mathilde Hauge Harviken<-67'(5)Guro Bergsvand> [MF](7)Ingrid Syrstad Engen(11)Guro Reiten(15)Justine Kvaleng Kleveland(18)Frida Leonhardsen Maanum(21)Lisa Fjeldstad Naalsund(22)Signe Gaupset<-76'(9)Karina Saevik> [FW](14)Ada Marstein Stolsmo Hegerberg<-67'(19)Elisabeth Terland>

控え:(12)Selma Panengstuen(23)Sunniva Skoglund(4)Julie Blakstad(6)Andrea Norheim(17)Emma Stølen Godø(20)Synne Sofie Kinden Jensen(24)Cathinka Cecilie Fris Tandberg

得点 [ノルウェー]27'、51'Signe Gaupset(0-1)(0-2)

U-19日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ

【スタッフ】

○監督：井尻明(NCS) ○コーチ：鈴木木乃実(NCS) ○サポートコーチ：佐藤令治(JFAアカデミー福島女子) ○GKコーチ：小林忍(NCS) ○フィジカルコーチ：川原布紗子(立教大学)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	岩崎有波	ノジマステラ神奈川相模原	FP	眞城美春	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	石田ひなは	サンフレッチェ広島レジーナ		原ひばり	JFAアカデミー福島
	坂田湖琳	開志学園JAPANサッカーカレッジ		松井美優	昌平高校
	福田真央	JFAアカデミー福島		本多桃華	十文字高校
FP	本田悠良	日体大SMG横浜	伊勢はな	三菱重工浦和レッズレディースユース	
	柘植沙羽	ちふれASエルフェン埼玉	牧口優花	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18	
	樋口梨花	ちふれASエルフェン埼玉	佐藤ももサワウエキ	大商学園高校	
	秋本佳音	三菱重工浦和レッズレディース	臼井利依	AICJ高校	
	木村未来	ちふれASエルフェン埼玉	岩城恋音美	マイナビ仙台レディースユース	
	高橋光莉	日体大SMG横浜	菊地花奈※1	マイナビ仙台レディースユース	
	田子夏海	セレッソ大阪ヤンマーレディース	辻あみる	三菱重工浦和レッズレディースユース	
	藤崎智子	三菱重工浦和レッズレディース	朝生珠実	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	
	栗本悠加	筑波大学	津田愛乃音	マイナビ仙台レディースユース	
	鈴木温子	日体大SMG横浜	榊愛花※2	JFAアカデミー福島	
	太田美月	INAC神戸レオネッサ			

※1：ケガのため不参加
※2：追加招集

<スケジュール>

10月20日 集合、トレーニング(Jヴィレッジ)
21日 トレーニング(Jヴィレッジ)
22日 トレーニング(Jヴィレッジ)
練習試合 vs ふたば未来学園高(男子)(Jヴィレッジスタジアム)
23日 トレーニング(Jヴィレッジ)、解散

U-16日本女子代表 モンテギュー国際大会

【スタッフ】

○団長：山口隆文(JFA女子技術部会員/JFAアカデミー福島統括) ○監督：白井貞義(NCS) ○コーチ：横道玲香(NCS) ○GKコーチ：井嶋正樹(NCS) ○フィジカルコーチ：石井孝典(NCS) ○テクニカルスタッフ：見原慧(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	若月りる葉	JFAアカデミー福島	MF	池脇愛音	神村学園高等部
	山中実菜	藤枝順心高校		角谷瑠菜	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18
DF	清水和楽	ノジマステラ神奈川相模原ドゥエ	西出愛悠	日本航空高校	
	北村礼	INAC神戸テソーロ	佐々木由貴	神村学園高等部	
	長谷川芽衣	サンフレッチェ広島レジーナユース	玉村海乃	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18	
	四本帆夏	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18	栗田七海	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	
	若月いずみ	テネシーサッカークラブ(USA)	山田美月※2	筑陽学園高校	
	眞崎玲愛	三菱重工浦和レッズレディースユース	樋口らら	マイナビ仙台レディースユース	
	北島景子	JFAアカデミー福島	花城恵唯	JFAアカデミー福島	
MF	伊藤杏莉	JFAアカデミー福島			
	黒島レイラ※1	三菱重工浦和レッズレディースユース			
	中島采音	サンフレッチェ広島レジーナユース			

USA：アメリカ
※1：ケガのため不参加
※2：追加招集

<スケジュール>

4月10日~13日 トレーニング
4月14日 モンテギュー国際大会
グループステージ第1戦 vs U-16イングランド女子代表(サン=ローラン=シュル=セーヴル)
15日 トレーニング
16日 グループステージ第2戦 vs U-16ポルトガル女子代表(ラ・ボワシエール=デ=ランド)
17日 トレーニング
18日 グループステージ第3戦 vs U-16フランス女子代表(モンテギュー)
19日 トレーニング
20日 決勝 vs U-16中国女子代表(モンテギュー)

グループステージ第1戦

U-16 日本女子代表 1 (前半0-0 後半1-1) 1 U-16 イングランド女子代表

●2025年4月14日 18:30 ●サン=ローラン=シュル=セーヴル ●試合時間:80分

日本(監督:白井貞義):[GK](1)山中実菜 [DF](2)北島景子(4)四本帆夏(13)若月いずみ<->70'(15)眞崎玲愛>(16)伊藤杏莉 [MF](11)角谷瑠菜(14)玉村海乃<->46'(9)清水和楽>(19)佐々木由貴<->70'(17)中島采音>(20)栗田七海 [FW](8)樋口らら(18)花城恵唯<->70'(5)山田美月>

控え:(12)若月りる葉(3)長谷川芽衣(6)北村礼(7)池脇愛音(10)西出愛悠

得点 49' 樋口らら(1-0)、75' 失点(1-1)

グループステージ第2戦

U-16 日本女子代表 1 (前半0-0 後半1-0) 0 U-16 ポルトガル女子代表

●2025年4月16日 18:30 ●ラ・ボワシエール=デ=ランド ●試合時間:80分

日本(監督:白井貞義):[GK](12)若月りる葉 [DF](2)北島景子<->80'(13)若月いずみ>(3)長谷川芽衣(6)北村礼(9)清水和楽(15)眞崎玲愛<->13'(4)四本帆夏> [MF](5)山田美月<->46'(14)玉村海乃>(7)池脇愛音<->67'(11)角谷瑠菜>(10)西出愛悠<->46'(19)佐々木由貴>(17)中島采音<->67'(8)樋口らら> [FW](18)花城恵唯<->46'(20)栗田七海>

(1)山中実菜(16)伊藤杏莉

得点 80' 栗田七海(1-0)

グループステージ第3戦

U-16 日本女子代表 1 (前半0-0 後半1-0) 0 U-16 フランス女子代表

●2025年4月18日 18:30 ●モンテギュー ●試合時間:80分

日本(監督:白井貞義):[GK](1)山中実菜 [DF](3)長谷川芽衣<->40'(4)四本帆夏>(6)北村礼(13)若月いずみ<->65'(2)北島景子>(16)伊藤杏莉 [MF](5)山田美月<->80'(9)清水和楽>(7)池脇愛音<->65'(8)樋口らら>(10)西出愛悠<->40'(20)栗田七海>(11)角谷瑠菜<->80'(17)中島采音>(14)玉村海乃<->80'(19)佐々木由貴> [FW](18)花城恵唯

控え:(12)若月りる葉(15)眞崎玲愛

得点 50' 玉村海乃(1-0)

決勝戦

U-16 日本女子代表 1 (前半0-0 後半1-0) 0 U-16 中国女子代表

●2025年4月20日 18:00 ●モンテギュー ●試合時間:80分

日本(監督:白井貞義):[GK](12)若月りる葉 [DF](4)四本帆夏(9)清水和楽<->79'(7)池脇愛音>(13)若月いずみ(15)眞崎玲愛(16)伊藤杏莉<->78'(6)北村礼> [MF](14)玉村海乃<->57'(17)中島采音>(19)佐々木由貴<->57'(11)角谷瑠菜>(20)栗田七海 [FW](8)樋口らら(18)花城恵唯

(1)山中実菜(2)北島景子(3)長谷川芽衣(5)山田美月(10)西出愛悠

得点 50' 四本帆夏(1-0)

フットサル日本代表 国際親善試合

※76～77ページに関連記事あり

<スタッフ>

○副長: 小西鉄平(JFAフットサルテクニカルダイレクター) ○監督: 高橋健介(NCS) ○コーチ: 谷本俊介(NCS) ○GKコーチ: 内山慶太郎(NCS) ○コーチ/フィジカルコーチ: 佐藤亮(NCS) ○コンディショニングコーチ: 内部亮(JFAフットサルフィジカルフィットネスプロジェクト/アールズベイ) ○テクニカルスタッフ: 林誠晃(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	
GK	フィウザ・ファビオ	湘南ベルマーレ	FP	FIXO	石田健太郎	名古屋オーシャンズ
	上原拓也	しながわシティ	ALA	中村充	しながわシティ	
	田淵広史	名古屋オーシャンズ	ALA	堤優太	名古屋オーシャンズ	
FP	ALA	吉川智貴	名古屋オーシャンズ	UNIVERSAL	本石猛裕	バルドラール浦安
	FIXO	内村俊太	湘南ベルマーレ	FIXO	山田颯斗	しながわシティ
	ALA/PWO	新井裕生	しながわシティ	ALA	甲斐隼人	ベスカドーラ町田
	ALA	内田隼太	エントレリオスサラゴサ(ESP)	ALA	金澤空	名古屋オーシャンズ
	PIVO	清水和也	名古屋オーシャンズ	ALA	山中翔斗	ベスカドーラ町田

<スケジュール>

10月13日～14日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 15日 トレーニング(北里アリーナ富士)
 16日 公式トレーニング(北里アリーナ富士)
 17日 国際親善試合 第1戦
 vs フットサルブラジル代表(北里アリーナ富士)
 18日 トレーニング(北里アリーナ富士)
 19日 国際親善試合 第2戦
 vs フットサルブラジル代表(北里アリーナ富士)

ESP: スペイン

■フットサルブラジル代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	
GK	ウィリアン	ノリリスク・ニッケル(RUS)	FP	ALA	クレベル	アル・カディシア(KSA)
	レオ・グジエウ	ベンフィカ(POR)		ALA	リカルジーニョ	エルボン・ムルシア(ESP)
FP	PIVO	ラファ	エルボン・ムルシア(ESP)	FIXO	マルセロ	FCセメイ(KAZ)
	PIVO	ビト	FCバルセロナ(ESP)	FIXO	ジョアン・ビクトル	FCバルセロナ(ESP)
ALA	アルトゥール	ベンフィカ(POR)	ALA	ウエズレイ	スポルティングCP(POR)	
PIVO	ロジャ	スポルティングCP(POR)	RUS: ロシア, POR: ポルトガル, ESP: スペイン, KSA: サウジアラビア, KAZ: カザフスタン			
ALA	マルセウ	エルボン・ムルシア(ESP)				
ALA	マテウス	FCバルセロナ(ESP)				

監督 マルコス・シャビエル

<スケジュール>

10月16日 公式トレーニング(北里アリーナ富士)
 17日 国際親善試合 vs フットサル日本代表
 (北里アリーナ富士)
 18日 国際親善試合 vs フットサル日本代表
 (北里アリーナ富士)

国際親善試合

フットサル日本代表 0 (第1ピリオド0-2 第2ピリオド0-2) 4 フットサルブラジル代表

●2025年10月17日 19:10 ●北里アリーナ富士 ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]ポーンナローン・グライロッド(THA) [第2審判]アナトリー・ルバコフ(UZB) [第3審判]大矢翼 [第4審判]脇田崇太 [タイムキーパー]岩見祐吾 ●マッチコミッショナー: 飯野琢人 ●観衆:1,522人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
フィウザ・ファビオ	○	1	GK	GK	2	○	レオ・グジエウ
田淵広史	○	2	GK	GK	3	○	ウィリアン
内村俊太	△	3	FP	FP	5	○	ジョアン・ビクトル
石田健太郎	○	4	FP	FP	6	△	リカルジーニョ
内田隼太	△	5	FP	FP	7	△	クレベル
吉川智貴	○	6	FP	FP	8	△	ウエズレイ
山中翔斗	△	7	FP	FP	9	△	ロジャ
堤優太	△	8	FP	FP	10	○	ビト
本石猛裕	△	9	FP	FP	11	○	マルセウ
金澤空	△	10	FP	FP	12	△	アルトゥール
清水和也	○	11	FP	FP	13	△	マテウス
甲斐隼人	○	12	FP	FP	14	○	ラファ
中村充	△	13	FP	FP	15	△	マルセロ
新井裕生	△	14	FP				
上原拓也	△	15	GK				
山田颯斗	△	16	FP				
高橋健介			監督		監督		マルコス・シャビエル

得点 [ブラジル]4'オウンゴール(0-1)、17'ラファ(0-2)、22'ビト(0-3)、31'ジョアン・ビクトル(0-4)

警告 [日本]35'清水和也 [ブラジル]28'クレベル

○:先発, △:交代出場

国際親善試合

フットサル日本代表 2 (第1ピリオド1-3 第2ピリオド1-0) 3 フットサルブラジル代表

●2025年10月19日 14:03 ●北里アリーナ富士 ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]アナトリー・ルバコフ(UZB) [第2審判]ポーンナローン・グライロッド(THA) [第3審判]脇田崇太 [第3審判]大矢翼 [タイムキーパー]岩見祐吾 ●マッチコミッショナー: 飯野琢人 ●観衆:1,727人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
フィウザ・ファビオ	○	1	GK	GK	2	○	レオ・グジエウ
田淵広史	△	2	GK	GK	3	○	ウィリアン
内村俊太	○	3	FP	FP	5	○	ジョアン・ビクトル
石田健太郎	△	4	FP	FP	6	△	リカルジーニョ
内田隼太	△	5	FP	FP	7	△	クレベル
吉川智貴	○	6	FP	FP	8	△	ウエズレイ
山中翔斗	△	7	FP	FP	9	△	ロジャ
堤優太	△	8	FP	FP	10	○	ビト
本石猛裕	△	9	FP	FP	11	○	マルセウ
金澤空	△	10	FP	FP	12	△	アルトゥール
清水和也	○	11	FP	FP	13	△	マテウス
甲斐隼人	○	12	FP	FP	14	○	ラファ
中村充	△	13	FP	FP	15	△	マルセロ
新井裕生	△	14	FP				
上原拓也	△	15	GK				
山田颯斗	△	16	FP				
高橋健介			監督		監督		マルコス・シャビエル

得点 [日本]17'、39'新井裕生(1-3)(2-3)

[ブラジル]2'ジョアン・ビクトル(0-1)、3'ビト(0-2)、7'クレベル(0-3)

警告 [日本]14'甲斐隼人、23'内田隼太 [ブラジル]40'マルセロ

○:先発, △:交代出場

U-18フットサル日本代表候補 国内トレーニングキャンプ

<スタッフ>

○監督: 高橋健介(NCS) ○コーチ: 谷本俊介(NCS) ○GKコーチ: 内山慶太郎(NCS) ○コーチ/フィジカルコーチ: 佐藤亮(NCS) ○フィジカルコーチ: 府川俊一朗(JFAフットサルフィジカルフィットネスプロジェクト/湘南ベルマーレフットサルクラブ)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	
GK	中山汎大	湘南ベルマーレフットサルクラブU-18	FP	ALA	大西望	東急SレイエスFC フットサルU-18
	阿久津利真	四国学院大学香川西高校		PIVO	片岡幸村	フウガドールすみだファルコンズ
	成瀬牙皇	ROBOGATO U-15		FIXO	須貝康太	ヴォスクオーレ仙台U-18
FP	FIXO	高橋陽	シュライカー大阪U-18	ALA	福島和	ベスカドーラ町田U-18
	FIXO	猿川泰幸	日南学園高校	FIXO	葛島歌咲	東急SレイエスFC フットサルU-18
	ALA	新竜兵	フウガドールすみだファルコンズ	ALA	行木詩心優	フウガドールすみだファルコンズ
	ALA	繁田稜平	バルドラール浦安テルセーロ	ALA	福嶋絆聖	東急SレイエスFC フットサルU-18
	ALA	深谷啓人	日本福祉大学付属高校	PIVO	齋藤幸輝	バルドラール浦安テルセーロ
	ALA	田邊隆之介	名古屋オーシャンズU-18	PIVO	岩井琢真	フウガドールすみだファルコンズ
	ALA	青島竣平	ベスカドーラ町田U-18	ALA	早川士道	フウガドールすみだファルコンズ

<スケジュール>

11月9日 集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 10日～11日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 12日 練習試合 vs 栃木シティフットサルクラブ(高円宮記念JFA夢フィールド)
 解散

ビーチサッカー日本代表 国際親善試合

※ 78 ~ 79 ページに関連記事あり

<スタッフ>

○監督: 田畑輝樹(NCS) ○コーチ: 奥山正憲(NCS/レーヴェ横浜) ○GKコーチ: 宜野座寛也(ヴィアティンBS) ○フィジカルコーチ: 山口将史(株式会社Reborn)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	宮田政宗	アヴェルダージ熊本BS	FP	坪谷亮太	ソーマブライア沖縄
	古里健	レーヴェ横浜		江黒力	ソーマブライア沖縄
FP	茂伶羅オズ	東京ヴェルディ BS		伊藤龍之介	アヴェルダージ熊本BS
	上里琢文	東京ヴェルディ BS		永井絢大	ドルソーレ福岡
	森岡亮太*	ドーサルM.FC/アシア		田中颯	東京ヴェルディ BS
	大場崇晃	東京ヴェルディ BS		安永海童	ラソアペーゴ北九州

*: 初召集

<スケジュール>

10月1日 トレーニング(宜野湾トロピカルビーチ)
2日 街頭クリーン活動(那覇市内)
トレーニング(宜野湾トロピカルビーチ)
3日 公式トレーニング(西原きらきらビーチ)
4日 国際親善試合 第1戦
vs ビーチサッカーポルトガル代表(西原きらきらビーチ)
5日 国際親善試合 第2戦
vs ビーチサッカーポルトガル代表(西原きらきらビーチ)

■ビーチサッカーポルトガル代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	ディオゴ・ディアス	ACDソタン	FP	アンドレ・ルレンソ	ADブアルコス2017
	ジョアン・オリベイラ	GDアルファリン		ベルナルド・ロベス	ACDソタン
FP	ルイ・コインブラ	ACDソタン		ロドリゴ・ビニャル	GDアルファリン
	ティアゴ・バターリャ	ACDソタン		ジョアン・カブラル	GDアルファリン
	レオナルド・サントス	ADブアルコス2017		ゴンサロ・ルレイロ	GDセジンプラ
	ベルナルド・サントス	ADブアルコス2017		ブルノ・アルブケルク	ACDソタン

監督 マリオ・ナルシソ

<スケジュール>

10月3日 公式トレーニング(西原きらきらビーチ)
4日 国際親善試合 第1戦
vs ビーチサッカー日本代表(西原きらきらビーチ)
5日 国際親善試合 第2戦
vs ビーチサッカー日本代表(西原きらきらビーチ)

国際親善試合

ビーチサッカー日本代表 4 (第1ピリオド2-2 第2ピリオド1-3 第3ピリオド1-2) 7 ビーチサッカーポルトガル代表

●2025年10月4日 14:00 ●西原きらきらビーチ ●試合時間:36分 ●審判員:[主審]スワット・ウォンスワン(THA) [第2審判]スバリ・ウドマ(THA) [第3審判]波多野祐一 [第4審判]松田卓磨 [タイムキーパー]高橋凜平 ●マッチコミッショナー: 飯野琢人 ●観衆:510人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
古里健	○	1	GK	FP	2	○	ルイ・コインブラ
伊藤龍之介	△	2	FP	FP	3	○	アンドレ・ルレンソ
田中颯	○	3	FP	FP	6	△	ロドリゴ・ビニャル
森岡亮太	△	4	FP	FP	8	△	ベルナルド・ロベス
坪谷亮太	○	5	FP	FP	10	○	ベルナルド・サントス
安永海童	△	6	FP	FP	11	○	レオナルド・サントス
大場崇晃	○	7	FP	GK	12	○	ディオゴ・ディアス
上里琢文	△	8	FP	FP	14	△	ブルノ・アルブケルク
永井絢大	△	9	FP	FP	15	△	ジョアン・カブラル
茂伶羅オズ	○	10	FP	FP	16	△	ティアゴ・バターリャ
江黒力	△	11	FP	FP	19	△	ゴンサロ・ルレイロ
宮田政宗	△	12	GK	GK	24	△	ジョアン・オリベイラ
田畑輝樹			監督				監督 マリオ・ナルシソ

得点 [日本]8' 茂伶羅オズ(1-2)、12'、32' 大場崇晃(2-2)(4-6)、13' 江黒力(3-3)
[ポルトガル]2' アンドレ・ルレンソ(0-1)、5' ベルナルド・サントス(0-2)、13'、35' ベルナルド・ロベス(2-3)(4-7)、18' ジョアン・カブラル(3-4)、20' ゴンサロ・ルレイロ(3-5)、28' ルイ・コインブラ(3-6)

○:先発、△:交代出場

国際親善試合

ビーチサッカー日本代表 4 (第1ピリオド2-0 第2ピリオド0-0 第3ピリオド2-1) 1 ビーチサッカーポルトガル代表

●2025年10月5日 14:00 ●西原きらきらビーチ ●試合時間:36分 ●審判員:[主審]スバリ・ウドマ(THA) [第2審判]スワット・ウォンスワン(THA) [第3審判]松田卓磨 [第4審判]波多野祐一 [タイムキーパー]高橋凜平 ●マッチコミッショナー: 飯野琢人 ●観衆:735人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
古里健	○	1	GK	FP	2	○	ルイ・コインブラ
伊藤龍之介	△	2	FP	FP	3	○	アンドレ・ルレンソ
田中颯	△	3	FP	FP	6	△	ロドリゴ・ビニャル
森岡亮太	△	4	FP	FP	8	△	ベルナルド・ロベス
坪谷亮太	○	5	FP	FP	10	○	ベルナルド・サントス
安永海童	△	6	FP	FP	11	○	レオナルド・サントス
大場崇晃	○	7	FP	GK	12	○	ディオゴ・ディアス
上里琢文	△	8	FP	FP	14	△	ブルノ・アルブケルク
永井絢大	△	9	FP	FP	15	△	ジョアン・カブラル
茂伶羅オズ	○	10	FP	FP	16	△	ティアゴ・バターリャ
江黒力	△	11	FP	FP	19	△	ゴンサロ・ルレイロ
宮田政宗	△	12	GK	GK	24	△	ジョアン・オリベイラ
田畑輝樹			監督				監督 マリオ・ナルシソ

得点 [日本]2'、34' 坪谷亮太(1-0)(4-1)、4' オウンゴール(2-0)、33' 上里琢文(3-1)
[ポルトガル]27' ルイ・コインブラ(2-1)

警告 [ポルトガル]33' ティアゴ・バターリャ

○:先発、△:交代出場

2025ナショナルトレセンU-14 中期

概要: 個の育成の充実を図るトレセンの役割は高いレベルの指導・環境と選手同士の刺激による活動から得たものを自チームに還元していくことや指導者へのJFAの発信機会として重要性を増している。

そこで、選手育成・強化の観点から、より多くの選手に質の高いトレーニング機会を与えるために、トレーニング、ゲーム、ポジション別トレーニング、レクチャー等を実施する。

目的: 日本サッカーの強化・発展のため、優秀な選手の発掘・育成を図る
選手・指導者のレベルアップを図る
トレセン(トレーニングセンター)制度の充実・発展を図る

主催: 公益財団法人日本サッカー協会

協賛: JFAオフィシャルトップパートナー: キリンホールディングス株式会社

JFAオフィシャルサプライヤー: アディダス ジャパン株式会社

JFAメジャーパートナー: 全日本空輸株式会社、株式会社クレディセゾン、KDDI株式会社、三井不動産株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社、TOYO TIRE株式会社

JFAコンペティションパートナー: 株式会社モルテン

指導: 公益財団法人日本サッカー協会 技術委員会(技術委員・ナショナルコーチングスタッフ・JFAコーチ)
地域トレセンU-14 指導スタッフ

期間: 2025年10月2日(木)~ 10月5日(日) 3泊4日

参加地域/開催場所

北海道・東北・関東・北信越・東海・関西・中国・四国・九州/時之栖スポーツセンター 梶野グラウンド

選手参加資格

- ①本協会加盟登録選手(外国籍選手でもその選手の参加が他の選手にプラスと考えられる場合、参加を承認する)
- ②2011(平成23)年1月1日以降出生の者
- ③日常的にトレセンで活動している者

※その他、スケジュール等の詳細についてはJFA公式ウェブサイト参照

【コーチ】

地域	役職	名前	所属
北海道	コーチ	石岡秀介	札幌市立元町中学校サッカー部
北海道	コーチ (GK担当)	池田隼	MAT FOOTBALL CLUB
東北	コーチ	遠藤文善 (福島県)	東日本国際大学附属昌平高校
関東	コーチ	野木信志 (埼玉県)	埼玉県立庄和高校
北信越	コーチ	中田浩史 (福井県)	福井ユナイテッドFC
東海	コーチ	松下義生 (静岡県)	常葉大学附属橋中学校

地域	役職	名前	所属
東海	コーチ (GK担当)	渡井将浩 (静岡県)	富士宮市立富士根南中学校
関西	コーチ	瀬野光昭 (京都府)	亀岡市立東輝中学校
関西	コーチ (GK担当)	森本悠馬 (大阪府)	ガンバ大阪ジュニアユース
四国	コーチ	松村沙 (香川県)	大手前丸亀中学校・高校サッカー部・丸亀FCジュニアユース
九州	コーチ	上本慎一郎 (大分県)	ヴェルスパ大分U18・U15
九州	コーチ (GK担当)	田中駿也 (長崎県)	創成館高校サッカー部

【選手】

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
北海道	GK	大西希空	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	中田結人	北海道	SSSジュニアユース
北海道	FP	前橋湊晴	北海道	SSSジュニアユース
北海道	FP	遠田万里	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
東北	FP	今井彩博	宮城県	ベガルタ仙台ジュニアユース
東北	FP	田村颯芽	福島県	JFAアカデミー福島U-15
東北	FP	村上元翔	宮城県	塩釜FCジュニアユース
東北	FP	尾張谷大知	秋田県	ブラウブリッツ秋田U-15
東北	FP	佐野出帆※	宮城県	ベガルタ仙台ジュニアユース
関東	GK	西江凛人	埼玉県	RB大宮アルディージャ U15
関東	GK	森下悠聖	東京都	FC東京U-15むさし
関東	FP	本庄新大	神奈川県	横浜F・マリノスジュニアユース追浜
関東	FP	橋爪迦人	茨城県	鹿島アントラーズノルテジュニアユース
関東	FP	渡部朝陽	神奈川県	川崎フロンターレU-15等々力
関東	FP	金岡湊	神奈川県	FC厚木ジュニアユースDREAMS
関東	FP	須藤敦斗	栃木県	栃木SC U-15
関東	FP	矢野翔己	埼玉県	FC LAVIDA

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
関東	FP	鈴木想休	埼玉県	FC LAVIDA
関東	FP	高田秀磨	東京都	横河武蔵野フットボールクラブU-15
関東	FP	安井康真	埼玉県	RB大宮アルディージャ U15
関東	FP	大井然	東京都	東京ヴェルディジュニアユース
関東	FP	岡野丈オサロ	千葉県	柏レイソルU-15
関東	FP	鈴木遼	神奈川県	横浜F・マリノスジュニアユース
関東	FP	堀川史人	東京都	FC多摩ジュニアユース
関東	FP	安達一平	東京都	FC東京U-15深川
北信越	FP	竹松駿	石川県	ツエーゲン金沢U-15
北信越	FP	石山颯人	新潟県	アルビレックス新潟U-15
北信越	FP	菊池建琉	長野県	AC長野パルセイロU-15
北信越	FP	オリベira・フェリペ	石川県	ツエーゲン金沢U-15
北信越	GK	山本陽希※	長野県	AC長野パルセイロU-15
北信越	FP	小佐野修拓※	山梨県	ヴァンフォーレ甲府U-15
東海	GK	川崎雄偉	三重県	ヴェルデラッソ松阪U-15
東海	GK	工藤大海	静岡県	清水エスパルスジュニアユース
東海	FP	田中蓮人	岐阜県	FC岐阜U-15

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
東海	FP	池野楓	静岡県	清水エスパルスジュニアユース
東海	FP	後藤奏人	愛知県	知多JY
東海	FP	塩崎蒼空	三重県	ヴェルデラッソ松阪U-15
東海	FP	辻彪雄	三重県	ソシエタ伊勢サッカークラブ
東海	FP	山本權生	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	長嶋飛童	静岡県	ジュビロ磐田U-15
東海	FP	古田叶真	岐阜県	FCV可児
東海	FP	築地陸斗	静岡県	静岡学園中学校サッカー部
関西	GK	船瀬慎斗	大阪府	セレッソ大阪U-15
関西	GK	田口偉太郎	大阪府	ガンバ大阪ジュニアユース
関西	FP	原旺也	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	大島征之助	大阪府	セレッソ大阪西U-15
関西	FP	水口航志	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	楠本一輝	大阪府	ヴィッセル神戸伊丹U-15
関西	FP	戴元颯人	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	佐野央成	大阪府	ガンバ大阪ジュニアユース
関西	FP	藤堂優心	大阪府	ガンバ大阪ジュニアユース
関西	FP	芝野椿也	大阪府	アイリスFC住吉

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
中国	GK	久本暁大	広島県	サンフレッチェ広島FCジュニアユース
中国	FP	吉田駿	岡山県	ファジアーノ岡山U-15
中国	FP	片山順三郎	広島県	サンフレッチェ広島FCジュニアユース
中国	FP	西岡雅貴	岡山県	ファジアーノ岡山U-15
四国	FP	大沼暁良	愛媛県	愛媛FC U-15
四国	FP	光宗裕志	愛媛県	愛媛FC U-15
四国	FP	馬場桜也	香川県	カマタマーレ讃岐U-15
九州	FP	清水椋	福岡県	アビスパ福岡U-15
九州	FP	香月泰叶	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	山本紘人	長崎県	V・ファーレン長崎U-15
九州	FP	森岡蒼太	鹿児島県	神村学園中等部
九州	FP	堀結実	福岡県	アビスパ福岡U-15
九州	FP	西山豪将	熊本県	ロアッソ熊本ジュニアユース
九州	FP	坂口疏菜	福岡県	ギラヴァンツ北九州U-15
九州	FP	大津怜晃	福岡県	アビスパ福岡U-15
九州	FP	山崎龍心※	熊本県	ロアッソ熊本ジュニアユース

※ケガのため参加辞退

JFA 女子GKキャンプU-13/U-14 (J-GREEN堺)

【スタッフ】

OGコーチ：澤野晃士 (JC/山口県立光高校)、安齋和之 (JC/ふたば未来学園高校)、榎引実 (JC/JFAアカデミー堺)、宇津江智保 (JC/群馬県サッカー協会)、小高愛理 (ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	井本歩	CF.HANW@ PRINCESA U15	GK	石川舞凜	FC今治レディースNEXT
	石塚琉葉	マイナビ仙台レディースジュニアユース		中栗田空奈	FC.TIARA GIRLS
	塚原愛留	八女学院女子フットボールクラブ		板元波風	マイナビ仙台レディースジュニアユース
	谷口湖葉	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニールU-15		伊東陽葵	北海道リラ・コンサドーレ
	北澤咲乃	SCセレジェイラ長野レディース		南谷杏	神村学園中等部
	坂田衣知花	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15		金子芽愛	クラブリーナ東住吉
	鈴木知菜	クラブフィールズ・リンダ		金丸乃愛	富山新庄クラブU-15
	シングルバーベニー	TRIAS七戸サッカークラブ ディオサ		山根帆実	spes iwami SC
	白石栞優	愛媛FCレディースMIKAN		岡枝ちほ※2	AIGグラールロス広島レディース
	佐藤次美※1	常葉大学附属橋中学校			
	山岡千鶴	RB大宮アルディージャ WOMEN U15			
	名知柚音	岐阜西SCサッカークラブ			

※1：ケガのため不参加

※2：追加招集

<スケジュール>

9月26日～28日 トレーニング (J-GREEN堺)

第32回全国クラブチームサッカー選手権大会

(一財)全国社会人サッカー連盟とJFAが主催する本大会は、JFAに登録された第1種(準加盟を含む)のクラブチーム、および全国社会人サッカー連盟に登録されたチーム(Jリーグ・JFL・地域リーグ加盟チーム・自衛隊・自治体職員・大学・高専・専門学校の連盟加盟チームは除く)で、大会エントリー登録期限までにJFAが登録を承認した選手に出場資格が与えられた。今大会は、9月27日～30日に福島県のJヴィレッジで開催された。

※66ページに関連記事あり



準決勝

Osaka City SC 1 (前半0-0 後半1-0) 0 富士フィルムBIJ広島SC

●2025年9月29日 11:00 ●Jヴィレッジ (No.3 ピッチ) ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]勝又美沙希 [副審]小野田伊佐子/別府朋香 [第4の審判員]松尾久美子 ●マッチコミッショナー:金澤聡 ●観衆:12人

Osaka City (監督:伊藤瑞希):[GK](20)石田康浩 [DF](13)田中真照(24)内田遥都<→HT(23)近澤雅士>(29)田中海斗<→HT(5)寺村浩平>(30)山田大暉 [MF](7)青柳成鴻<→54'(28)榎田泰洋>(8)三浦銀太(17)正木浩輔<→67'(15)大村元哉>(18)阪井暖 [FW](9)野勢日向太<→HT(11)母倉叶和>(34)酒井力也
控え:(21)太田航生(14)塩崎彰

富士フィルムBIJ広島(監督:吉野晋矢):[GK](1)松村恭信 [DF](2)小林祐輝<→44'(26)田中重幸>(3)玉井玲央(13)渡邊賢悟(24)兼重修 [MF](6)吉野晋矢(7)永江優介(8)杉山飛羽(20)大崎翔太(21)山中広太 [FW](11)米澤謙
控え:(31)吉村大河(32)岡大樹(23)相良健人

得点 [Osaka City]42'酒井力也(1-0)

準決勝

ヴィアベンテン滋賀 2 (前半0-0 後半2-0) 0 FC.Bombonera

●2025年9月29日 11:00 ●Jヴィレッジ (No.4 ピッチ) ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]小泉朝香 [副審]佐々木陽美/山内恵美 [第4の審判員]友宗菜月 ●マッチコミッショナー:鈴木篤 ●観衆:25人

ヴィアベンテン滋賀(監督:村田和哉):[GK](1)松田龍之介 [DF](4)渡邊悠斗(30)十二里心大(33)濱本尚希(40)林永翔(50)桐田彪河 [MF](5)藤田昂陽(14)輪本豪太(88)佐藤大地 [FW](20)濱本和希(25)迎楓真
控え:(3)里見華威(9)黒田朋樹(10)高橋建也(11)村田和哉(15)石田展大(19)石原崇(24)福岡銀二

Bombonera(監督:加藤益巳):[GK](21)伊藤巨輝 [DF](3)櫻井翼<→60'(18)大野泰祐>(4)川地功起(6)三島拓(23)高越陽平 [MF](7)浦谷僚志<→65'(11)サヌミ・アビオドゥン・サミュエル>(8)川上秀人<→65'(25)サイモン・チブエセ・クリスティアン>(10)江口隼人(13)根本海斗(14)池田修志 [FW](9)緑悟
控え:(1)小池捺生(16)神谷椋士(17)ジェローム・アバ(20)赤木愛基

得点 [ヴィアベンテン滋賀]49'迎楓真(1-0)、70+4'藤田昂陽(2-0)

警告 [ヴィアベンテン滋賀]10'濱本尚希 [Bombonera]41'緑悟

【参加選手】

<北海道フォルトゥナFC> 監督:武村和樹
前川廉、竹内誠寛、井端純輔、佐藤玲那也、按田頼、河野佑亮、安久津洸成、筒井優大朗、山田伊吹、鈴木恭平、塩田淳、濱田雄也、佐々木大輔、赤坂深也、大友秀斗、安達壮太、生田航志、石黒尚、武田功平、内海三矢、按田錬、佐藤透星、高橋龍平、川端初紀、吉田光希

<東六クラブノスタルジア> 監督:去田俊博
武田峻亮、原田有汰、三浦光、八島尚輝、千田海登、高内啓佑、土屋翔吾、滝村勇樹、片柳翔吾、須田海斗、後藤秀彰、小野雄斗、福原功大、岸健斗、及川幸介、梅津虎太郎、鈴木雅矢、久光駿太、大沼飛翔、鈴木爽太、小島丈、井上星矢、小野航平、高橋孔明、高橋武巳、早坂龍二、福原大雅、伊藤澄音、堀籠孝典、加藤鮎亜

<IRIS.F.C.> 監督:梁勇基
高野大翔、地神直樹、平本璃久、渡邊昌、佐藤遊也、本吉佑多、大高刃、鶴岡海月、中根悠衣、青柳柊生、花房恭彦、宮嶋俊弥、土館賢人、鈴木映琉、金澤翔磨、佐藤圭太、上田瑞季、菊地琉翔、秋元佑太、藤田春琉、小川郁人、浦田拓実、小瀧仁太郎、赤尾怜、吉田騎、信太英駿、小関万葉、犬童風斗、本吉宏次朗、樋口航大

<FCヴェレン大洗> 監督:佐藤友哉
須藤康平、山崎翔也、田中拓巳、石塚礼人、池田修平、米川大、横田航、井坂陸、岡野将也、宮嶋明仁、佐藤友哉、佐々木慎哉、金塚海、黒澤立樹、高松健人、矢幡拓也、酒井康平、圓佛智史、水越彩斗、大河諒士、市毛友彬、宮嶋幸星、木村真樹、滝本柊平、尾亦力哉、大石壮之介、瀧本貴平、井上恭兵

<ONODERA FC> 監督:佐藤一樹
山口瞬、中林洋次、櫻井絢介、堀朝陽、常盤駿斗、上辻健介、多田夢都、中島史九、守屋秀人、森田浩平、中島康裕、宮下竜也、鈴木康平、森本大智、西川知広、馬場智哉、小野寺晴輝、栗飯原央統、田中虎太郎、笹山悠斗、山本侑哉、阿部夏己、工藤拓人、元田陸、阿部伶斗、野村征斗、中里雄大、川西真斗、正木玲央、平川琉稀

<JOGANJI富山> 監督:岩白大空
白峰夏樹、池田時丸、村上優太、伊部真人、小林幸太、吉藤廉、笹倉康佑、白川紳晴、牧拓海、藤吉壮太郎、丸山以祐、百瀬幸太郎、犀川かい、安達風我、細川奎司、岩白大空、森岡勇翔、小柳舜真、竹内陽平、並原涼太、竹内理人、二口雄大、矢田勇人、板東律、池田拓実、岡田知也、網直道、後田翔太

<FC.Bombonera> 監督:加藤益巳
小池捺生、伊藤巨輝、杉江大翔、竹田泰和、櫻井翼、川地功起、神田修愛、三島拓、大野泰祐、割出貴也、高越陽平、サイモン・チブエセ・クリスティアン、日高翔太、橋本奏真、浦谷僚志、川上秀人、江口隼人、サヌミ・アビオドゥン・サミュエル、根本海斗、池田修志、神谷椋士、ジェローム・アバ、伊東康輝、松永祥兵、緑悟、服部公紀、赤木愛基

決勝

Osaka City SC 2 (前半1-0 後半1-1) 1 ヴィアベンテン滋賀

●2025年9月30日 11:00 ●Jヴィレッジ (No.3 ピッチ) ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]松尾久美子 [副審]勝又美沙希/佐々木陽美 [第4の審判員]友宗菜月 ●マッチコミッショナー:川西哲也 ●観衆:20人

Osaka City(監督:伊藤瑞希):[GK](21)太田航生<→68'(20)石田康浩> [DF](5)寺村浩平(13)田中真照(24)内田遥都(30)山田大暉<→60'(23)近澤雅士> [MF](7)青柳成鴻<→60'(17)正木浩輔>(8)三浦銀太(14)塩崎彰<→68'(29)田中海斗>(18)阪井暖 [FW](9)野勢日向太<→68'(11)母倉叶和>(34)酒井力也<→49'(28)榎田泰洋>

ヴィアベンテン滋賀(監督:村田和哉):[GK](1)松田龍之介 [DF](4)渡邊悠斗(30)十二里心大(33)濱本尚希(40)林永翔(50)桐田彪河 [MF](5)藤田昂陽(14)輪本豪太(88)佐藤大地 [FW](20)濱本和希(25)迎楓真<→49'(24)福岡銀二>
控え:(3)里見華威(9)黒田朋樹(10)高橋建也(11)村田和哉(19)石原崇(26)河越貴汰

得点 [Osaka City]35'塩崎彰(1-0)、48'野勢日向太(2-0)
[ヴィアベンテン滋賀]70+3'濱本和希

警告 [Osaka City]25'寺村浩平 [ヴィアベンテン滋賀]13'桐田彪河

<ヴィアベンテン滋賀> 監督:村田和哉
松田龍之介、北中樹斗、里見華威、渡邊悠斗、高橋蓮、石田展大、前田正治、十二里心大、濱本尚希、林永翔、桐田彪河、藤田昂陽、四元舜希、高橋建也、村田和哉、堀田駿、輪本豪太、山田真夏斗、藤田莉輝、石原崇、福岡銀二、河越貴汰、吉田実成部、佐藤大地、三輪敦規、黒田朋樹、西谷音、濱本和希、迎楓真

<Osaka City SC> 監督:伊藤瑞希
石田康浩、太田航生、吉弘航太、寺村浩平、田中真照、大村元哉、高見祐哉、内田遥都、田中海斗、山田大暉、松崎聖人、清水礼久、青柳成鴻、三浦銀太、山本蓮也、塩崎彰、正木浩輔、阪井暖、近澤雅士、榎田泰洋、野勢日向太、母倉叶和、田村健、酒井力也

<富士フィルムBIJ広島SC> 監督:吉野晋矢
松村恭信、吉村大河、岡大樹、小林祐輝、玉井玲央、谷口政人、渡邊賢悟、兼重修、吉野晋矢、永江優介、杉山飛羽、寺崎翔平、大崎翔太、山中広太、古田圭司、米澤謙、東孝則、相良健人、田中祐樹、田中重幸

データボックス

<ROSSORISE KFC> 監督:田辺稔治

山田智裕、八塚将、乾琉星、杉本竜弥、岡本将也、今村太郎、小松勇士、西村公佑、岸本怜、濱田直希、齋藤龍平、島中崇良、谷田雄士、平松幹汰、齋藤剛、土居生命、金尾大輝、藤本卓也、市原礼斗、山本大陽、冨本晴紀、柳本航大、小松隼人、狩野祐透、大黒慎一郎、井上頌士、大野兼嗣、上岡拓海、日浦和義、近藤純晟

<N.J.> 監督:安永龍平

富永悠介、浜西俊樹、永峰潤、郷田純平、美馬芳樹、中村諒治、平尾怜士、吉田翔、山田篤弥、山田誠人、藤井勇人、久米川一輝、小林竜来、小方和斗、乾昂汰、中兼正博、大星陸、安永龍平、福住卓磨、播磨崇治

<西部蹴球会> 監督:日高雄二

瀧口陸斗、中原涼介、大部園潤典、黒木洋助、岩崎竜也、大西海斗、森田大輝、國部龍星、釋迦野由稀、深澤樹、末原晃太、後藤諒真、土橋空翔、青木幹太、吉野圭輝、花倉唯斗、末原宥汰、吉田海成、福田真悟、倉俣健、鹿嶋勇斗、甲斐翔達、有村優太、治田千尋、上園亮

<福岡蹴友クラブ> 監督:水田裕也

柴田奨、大谷純平、田中栞、内藤俊介、諸富博哉、松山航大、今村航也、鹿間舜、古賀夢翔、南里朱音、大久保謙太郎、龍野駿一、森山貴史、堀居亮介、寺岡聖斗、大石遼馬、中島康平、山浦佑弥、岡田晃、冨田悠斗、野瀬祐希、久保山弘都

<FC beau belle> 監督:原畑充宏

野崎唯、高橋晃司、千田和駿、鈴木洋一、山崎陽、阿部竜太、菅野剛、丹治雅文、大塚おもて、紺野佑貴、山崎啓吾、伊藤峻、樋口陽大、片山恵太、伊藤遼、佐藤大輝、三浦侑大、小澤彪流、吉田勇樹、齋藤怜、黒津悠、前川龍之助、佐藤陸、小楢山泰典、笹木謙治、齋藤慧、長澤亮太、小賀坂優、佐々木崇太、安斎竜司

<喜多方FC> 監督:中森賢祐

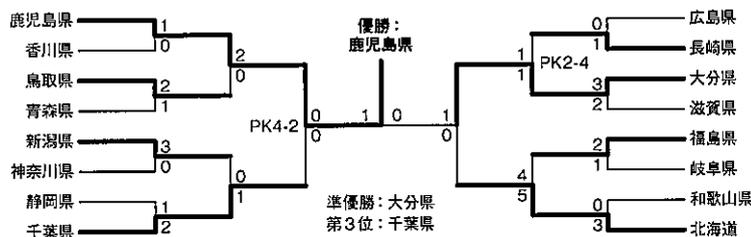
荒井雅貴、高橋倫、花積憲太、門馬佑弥、小関史哉、古川大晴、上野竜士、渡部楓、穴澤良彦、上野皓晴、高橋亘、藤本健太、武藤聡、成田一貴、岩澤悠哉、佐藤智紀、坪住侑、中森賢祐、小林聖矢、鈴木健太、穴澤心勢、本多佑、小池航太、渡部潤、佐藤拓、黒田修、渡部永遠、渡部心大

わたSHIGA輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会 サッカー競技(成年男子・少年男子・少年女子)

本大会は、(公財)日本体育協会、文部科学省、滋賀県、各市町およびJFAの主催で、滋賀県で開催された。10月4日～7日に行われた「成年男子」の部は、2008年12月31日以前に生まれたアマチュア選手が出場でき、10月3日～7日に行われた「少年男子」の部は、中学3年生を含む2009年1月1日～2011年4月1日に生まれたアマチュア選手に出場資格が与えられた。また「少年女子」の部は10月3日～6日に行われ、中学3年生を含む2009年1月1日～2011年4月1日に生まれたアマチュア選手に出場資格が与えられた。

※69～71ページに関連記事あり

<成年男子>



<3位決定戦> 千葉県 3-0 北海道

準決勝

鹿児島県 0 (前半0-0 後半0-0) 0 千葉県 PK4-2

●2025年10月6日 13:10 ●東近江市総合運動公園布引陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]山形秀俊 [副審]金森一真/野口正吾 [第4の審判員]兼俣大海 ●マッチコミッショナー:松本守人 ●観衆:300人

鹿児島県(監督:塩川勝行):[GK](12)重松陽 [DF](2)戸田峻平(3)長尾ジョシュア文典(5)有馬康汰<-61'(7)行友祐翔> [MF](6)島中健心<-46'(9)石崎祥厚>(7)行友祐翔<-46'(15)笠置潤>(8)田村勇人(10)松下永遠(11)宇都宮翔菜太(14)吉川敬進 [FW](13)野村祐輝

控え:(1)小池朝陽(4)鈴木悠仁

千葉県(監督:鬼木遥平):[GK](1)倉原将 [DF](4)藤森隆汰(5)寺田一貴(7)萩原大河 [MF](3)辻栞大<-HT(6)坂本琉維<-1'(10)松山碧>(8)山崎広大(15)豊島朱凌<-55'(3)辻栞大<-70+4'(16)冨田英寿>(16)冨田英寿<-HT(2)栗田詩音> [FW](9)藤山雄生<-55'(11)清水勇貴>(11)清水勇貴<-HT(13)東駿>

控え:(12)天野友心

警告 [鹿児島県]148'野村祐輝、70+2'笠置潤

PK [鹿児島県]先(2)〇(13)〇(8)〇(14)〇 [千葉県] (13)×(6)〇(4)〇(16)×

3位決定戦

千葉県 3 (前半2-0 後半1-0) 0 北海道

●2025年10月7日 11:00 ●東近江市総合運動公園布引陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]佐藤浩太 [副審]山本和哉/黒田蒼太 [第4の審判員]今村義朗 ●マッチコミッショナー:松本守人 ●観衆:350人

千葉県(監督:鬼木遥平):[GK](12)天野友心 [DF](2)栗田詩音(7)萩原大河(15)豊島朱凌(16)冨田英寿 [MF](3)辻栞大(6)坂本琉維(8)山崎広大(10)松山碧<-60'(5)寺田一貴> [FW](9)藤山雄生<-HT(13)東駿>(11)清水勇貴

控え:(1)倉原将(4)藤森隆汰

北海道(監督:小野大成):[GK](1)梅田裕太 [DF](2)盛山斗来(3)石渡旭(4)濱大輝(5)上田航平(13)大坪颯哉<-47'(14)野作蓮> [MF](6)鍋田秀斗(8)中尾慶心(10)宮原輝(11)本塚聖也(15)大澤拓也

控え:(12)矢野巧(7)中村尚輝(9)山田彩翔

得点 [千葉県]11'清水勇貴(1-0)、14'栗田詩音(2-0)、70'東駿(3-0)

警告 [千葉県]58'松山碧 [北海道]34'本塚聖也、51'、69'宮原輝

退場 [北海道]69'宮原輝

準決勝

大分県 1 (前半1-0 後半0-0) 0 北海道

●2025年10月6日 11:00 ●東近江市総合運動公園布引陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]平裕太 [副審]高坂凌/塩津真真 [第4の審判員]住吉圭介 ●マッチコミッショナー:中川秀紀 ●観衆:200人

大分県(監督:柳川雅樹):[GK](12)松田亮 [DF](3)佐藤昂洋(4)濱口功聖(7)高安孝幸<-66'(8)島津頼盛<-70+7'(11)湯澤洋介>(13)菅野紘希(15)本多琢人 [MF](2)田中純平<-24'(6)西田恵->29'(2)田中純平->45'(6)西田恵->70+4'(7)高安孝幸>(5)永松泰聖<-53'(2)田中純平>(8)島津頼盛<-64'(5)永松泰聖>(11)湯澤洋介<-53'(9)鳥飼椋平>(14)林田隆介

控え:(1)加藤大喜(10)津村夢人(16)柳川雅樹

北海道(監督:小野大成):[GK](1)梅田裕太 [DF](3)石渡旭(4)濱大輝(5)上田航平(13)大坪颯哉<-53'(14)野作蓮> [MF](6)鍋田秀斗(8)中尾慶心(10)宮原輝<-54'(11)本塚聖也>(11)本塚聖也<-25'(2)盛山斗来>(14)野作蓮<-HT(7)中村尚輝->68'(15)大澤拓也>(15)大澤拓也<-60'(10)宮原輝>

控え:(12)矢野巧(9)山田彩翔

得点 [大分県]15'佐藤昂洋

警告 [大分県]62'佐藤昂洋

決勝

鹿児島県 1 (前半1-0 後半0-0) 0 大分県

●2025年10月7日 13:30 ●東近江市総合運動公園布引陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]北沢倫章 [副審]植田文平/村井良輔 [第4の審判員]今村義朗 ●マッチコミッショナー:中川秀紀 ●観衆:550人

鹿児島県(監督:塩川勝行):[GK](12)重松陽 [DF](2)戸田峻平(3)長尾ジョシュア文典(6)島中健心<-49'(11)宇都宮翔菜太->70+3'(4)鈴木悠仁>(7)行友祐翔<-66'(5)有馬康汰>(8)田村勇人(10)松下永遠<-69'(6)島中健心> [MF](14)吉川敬進(15)笠置潤 [FW](9)石崎祥厚(13)野村祐輝

控え:(1)小池朝陽

大分県(監督:柳川雅樹):[GK](12)松田亮 [DF](4)濱口功聖(7)高安孝幸<-66'(15)本多琢人>(13)菅野紘希(15)本多琢人<-50'(6)西田恵> [MF](2)田中純平<-59'(5)永松泰聖>(5)永松泰聖<-HT(3)佐藤昂洋>(6)西田恵<-HT(8)島津頼盛>(14)林田隆介<-69'(2)田中純平> [FW](9)鳥飼椋平<-52'(10)津村夢人>(10)津村夢人<-HT(11)湯澤洋介->65'(9)鳥飼椋平>

控え:(1)加藤大喜(16)柳川雅樹

得点 [鹿児島県]25'石崎祥厚(1-0)

警告 [鹿児島県]144'田村勇人

データボックス

【参加選手】

<北海道> 監督:小野大成

梅田裕太、矢野巧、盛山斗来、石渡旭、濱大耀、上田航平、大坪颯哉、鍋田秀斗、中村尚輝、中尾慶心、宮原輝、本塚聖也、野作蓮、大澤拓也、山田彩翔

<青森県> 監督:岩本寿生

岩澤卓郎、岡野輝平、大坂悠斗、齊藤大空、坂爪然、三谷春陽、菊池遥大、木村大輝、大久保太陽、栗澤陸、柴田龍牙、大宮駿人、菅野聖斗、橋本隆汰、菅野侑汰

<福島県> 監督:茂木星也

布川陽大、角田隆太郎、荒川竜之介、高瀬大也、渡邊優空、茂木星也、西丸由都、半谷一太、草野太貴、吉満迅、高橋響希、坂下健将、若林来希、鈴木虎太郎、本田陸、矢崎レイス

<千葉県> 監督:鬼木遥平

倉原將、天野友心、栗田詩音、藤森隆汰、寺田一貴、富田英寿、辻椋大、坂本琉維、萩原大河、山崎広大、松山碧、豊島朱彦、藤山雄生、清水勇貴、東駿

<神奈川県> 監督:平賀充

東島大成、若田和樹、島田博広、原颯汰、武藤英暉、鈴木琉聖、小椋泰虎、橋口拳志、長澤壮竜、荻野寛太、上下昇大、渋谷拓海、平賀充、宮下拓弥、佐藤耕太、梶谷涼人

<新潟県> 監督:金子俊也

倉持一輝、内堀詩音、堺千空、西原広太、中里竜也、太田賢吾、安藤裕麻、柴藤航貴、大野泰成、石橋樹、塚越優也、本田修也、渡辺亮太、西涼介、冬至直人

<岐阜県> 監督:野田優介

草野真人、上野泰輝、村田祥史、松崎亮凱、長嶋蓮、山中凜太、田中啓之、坂下央晃、竹松純心、小宅空大、齋川昇吾、島田煌斗、緑悟、川端壮太、江口隼人

<静岡県> 監督:河村憲生

大石健太、田中裕、寺田昂弥、熱川徳政、長島来雅、山口晏侍、馬場俊輔、白井悠太郎、大塚聖磨、鈴木凱人、曾根大和、平尾拳士朗、小川陽聖、高橋祐樹、青島浩輝

<滋賀県> 監督:石間寛人

塚田喜心、湯浅礼生、木下太陽、角田倫伝、木津周馬、高麗空飛、林晃希、高田大鳳、高垣佑椰、一村聖蓮、中馬颯太、矢越俊哉、小野獅道、高良幸之介、杉本晴生

<和歌山県> 監督:伊藤文寿

山口孝明、湊大芽、伊藤文寿、大橋優正、中山和紀、中島雅克、二木勇樹、高木颯太、小池武蔵、下間蓮之介、大迫武早志、日根野達海、橋本唯翔、杉浦晃太、新田航士、操希翔

<鳥取県> 監督:田村和也

福留健吾、坪倉龍太、坂本玲、畝本諭、石津優介、青戸幸輝、田村和也、海老沼慶士、音田英琉、丸谷拓也、溝上哲平、鍛冶川友貴、堀大夢、内賀嶋巧、中井菜吏、福田秀人

<広島県> 監督:若井研治

中本真彰、雪島颯太、山口宙、石津大地、中野陽太、中島秀斗、松島朝日、若友優紀、平尾翔馬、入江大雅、山田侑弥、丸本夏瑞馬、二井野巧、梶本廉人、佐藤虎鉄

<香川県> 監督:橋口一貴

橋口一貴、栗原拓也、西川公章、岩瀬蒼生、坂田恭彬、辻岡招真、田中友貴、矢野瑛吉、高尾海斗、多田侑磨、福島凌、井塚侑斗、坂本順平、三原圭太、岩本拓也、梶山勝矢

<長崎県> 監督:八戸寿憲

洲上隼人、山本祥輝、荻野広将、城戸泰臣、橋村拓智、石川大翔、奥裕啓、中原智央、成瀬美善人、田中遥斗、里昂大、今田昂輝、井原京佑、城臺映伍、小田晃輝

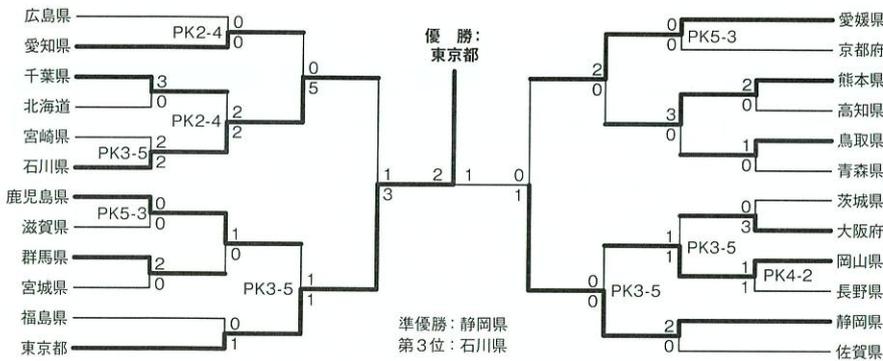
<大分県> 監督:柳川雅樹

加藤大喜、松田亮、佐藤昂洋、濱口功聖、高安孝幸、菅野紘希、本多琢人、柳川雅樹、田中純平、永松泰聖、西田恵、島津頼盛、湯澤洋介、林田隆介、鳥飼椋平、津村夢人

<鹿児島県> 監督:塩川勝行

小池朝陽、重松陽、戸田峻平、長尾ジョシュア、鈴木悠仁、有馬康汰、皇中健心、行友祐翔、田村勇人、松下永遠、宇都宮翔菜太、吉川敬進、笠置潤、石崎祥摩、野村祐輝

<少年男子>



<3位決定戦> 石川県 2-1 愛媛県

準決勝	
石川県	1 (前半1-2 後半0-1) 3
東京都	0
●2025年10月6日 11:00 ●野洲川歴史公園サッカー場 ●試合時間:70分 ●審判員: [主審] 村上広樹 [副審] 清田将矢/山口麗弥 [第4の審判員] 三好将真 ●マッチコミッショナー: 永井弘 ●観衆: 450人	
石川県(監督:木戸口肇): [GK] (1) 佐藤玲偉 [DF] (2) 中西蔵之佐 (3) 川井湊 (5) 藤谷琉 (15) 宮田葉玖斗 [MF] (8) 多葉田侑吏 (9) 前江田響輝 <→54' (10) 下澤到矢 > (13) 池田恭志郎 <→42' (6) 高野琉生 > (14) 北村蕾芽 [FW] (11) 増田優牙 <→60' (9) 前江田響輝 > (16) 藤谷風社 <→42' (7) 関口瑛心 >	
控え: (12) 平野翔虎	
東京都(監督:太田匡人): [GK] (1) 高橋恒輝 <→70' (12) 小島望蒼 > [DF] (3) 石村琢人 (4) 草野陸 (5) 原田爽潤 <→HT (2) 橋本凜来 > (13) 須田耀介 [MF] (6) 富田真陸 (10) 梶山蓮翔 <→HT (8) 館美駿 > (14) 伊藤海成 (15) 木下晴天 <→54' (9) 川村求 > [FW] (9) 川村求 <→HT (7) 中野寛基 > (11) 城秀人 <→47' (16) 伊藤優 >	
得点	[石川県] 9' 川井湊 (1-1) [東京都] 3' 城秀人 (0-1)、17' 川村求 (1-2)、52' オウンゴール (1-3)
警告	[東京都] 60' 橋本凜来

準決勝	
愛媛県	0 (前半0-0 後半0-1) 1
静岡県	1
●2025年10月6日 13:00 ●野洲川歴史公園サッカー場 ●試合時間:70分 ●審判員: [主審] 岡田太一 [副審] 廣末存果/島崎亮典 [第4の審判員] 樋口晃生 ●マッチコミッショナー: 清水崇之 ●観衆: 350人	
愛媛県(監督:山田直幸): [GK] (1) 坂田康祐 [DF] (2) 平野皓大 (3) 佐藤優馬 (4) 石原拍 (16) 藤井悠陽 <→43' (15) 塩見勇貴 <→64' (16) 藤井悠陽 > [MF] (5) 渡邊俊史 (6) 宇都宮颯太 (7) 佐竹海力 <→21' (13) 上野新太 <→68' (7) 佐竹海力 > (10) 仙波隼太郎 [FW] (9) 石橋潤人 <→28' (11) 森咲人 <→62' (14) 丹大和 > (14) 丹大和 <→HT (9) 石橋潤人 >	
控え: (12) 玉田叶多 (8) 本田巧	
静岡県(監督:岡本淳一): [GK] (1) 榎瑞貴 [DF] (2) 岩下雄飛 (3) 品竹友哉 (4) 石川塔梧 (5) 大橋大洋 [MF] (6) 小枝朔太郎 (7) 山崎瑛晴 <→68' (16) 葛西源太 > (8) 河波飛和 (9) 佐野泰聖 <→53' (11) 小柳希碧 > [FW] (10) 澤田卓磨 <→57' (15) 森田一颯 > (14) 鎌田康勢 <→29' (13) 庵原進太 >	
控え: (12) 山田竜之介	
得点	[静岡県] 61' 小柳希碧 (0-1)
警告	[静岡県] 8' 石川塔梧

3位決定戦

石川県 2 (前半0-0 後半2-1) 1 愛媛県

●2025年10月7日 11:01 ●野洲川歴史公園サッカー場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]本多文哉 [副審]宇佐川楓人/矢嶋洋晃 [第4の審判員]小林秀之 ●マッチコミッショナー:永井弘 ●観衆:714人

石川県(監督:木戸口肇):[GK](1)佐藤玲偉<-67'(12)平野瑚虎> [DF](2)中西蔵之佐(3)川井連(5)藤谷琉(15)宮田葉玖斗 [MF](8)多葉田侑吏(9)前江田響輝(13)池田恭志郎<-61'(6)高野琉生>(14)北村蕾芽 [FW](10)下澤到矢<-67'(16)藤谷風社>(11)増田優牙<-67'(7)関口琢心>

愛媛県(監督:山田直幸):[GK](12)玉田叶多 [DF](2)平野皓大(4)石原拍(5)渡邊俊史<-21'(6)宇都宮颯太>(15)塩見勇貴<-53'(16)藤井悠陽>(16)藤井悠陽<-21'(3)佐藤優馬> [MF](7)佐竹海力<-21'(10)仙波隼太郎>(8)本田巧<-44'(5)渡邊俊史>(13)上野新太<-44'(7)佐竹海力>'61(13)上野新太> [FW](11)森咲人<-54'(14)丹大和>(14)丹大和<-21'(9)石橋潤人>

控え:(1)坂田康祐

得点:[石川県]37'オウンゴール(1-0)、50'下澤到矢(2-0) [愛媛県]70+1'丹大和(2-1)

警告:[石川県]46'北村蕾芽

【参加選手】

<北海道> 監督:岡田慎司 葛西明日真、楠五慎、松坂泰志、井田泰彰、伊藤椽真、大澤忠臣、古川蒼空、関椋斗、山本侑太、天野永琉、太田杜和、長谷川珠瑠、宮園蒼空、北川聖也、片野聖太、対馬夢胡

<青森県> 監督:宮本徹郎 塚田翔、伊野新、運沼大河、新井琉真、鎌田真輝、福地将太、玉置秀翔、松田秀愛、坂本悠人、藤原一冨、森明陽磨、上田大翔、大野純仁郎、石井珂那汰、小池晴斗、岡野陽向

<宮城県> 監督:日野亮太 真藤ジョイ、高橋響、徳永匡哉、田中理士、深澤友希、鎌水桜雅、甲斐響太郎、菊地琉生、高瀬優風、安部嶺尊、阿部青空、白洲啓泰、松田啓来、村上晴都、伊藤暖人、鈴木宗

<福島県> 監督:佐藤喜平 加藤峻平、桑本勇アミトレ、斎藤旬平、星宗介、迫田悠聖、安齋宏紀、上野唯希、黒澤瑠、山下永真、根本希希、土屋俊太、中村風斗、今井陸登、田中理久斗、比佐明日輝、小泉流汰

<茨城県> 監督:赤須能尚 シュルツ達斗、三崎斗馬、深川智寛、森島輝、芳賀亮太、佐々木陽生、二幸禮綾哉、小川颯登、力石隼之介、辰巳翔、菊池遼生、矢田隼羽吾、秋山光希、松野慶司郎、平安瑛翔、田中智基

<群馬県> 監督:北村仁 牛越友希、近藤幸弥、飯沼佑真、山本颯吾、高橋奏太、澤井耀、森悠貴、青木一太、柴野敬、川口優、横山慧、木村海斗、鈴木幸空、嵯峨日向、中村孝成、柴田凌輔

<千葉県> 監督:豊島隆 三好翔斗、谷水宗介、落合哉太、斎藤敬太、大和一哉、朴澤友慶、尾関心優、伊藤暖、上野唯聖、秋元大樹、宮本晴仁、森脇快、斎藤諒海、熊木虎太郎、澤田杏吏、五十嵐隼

<東京都> 監督:太田匡人 高橋恒輝、小島望蒼、橋本凜来、石村琢人、草野陸、原田爽潤、須田耀介、富田真陸、中野寛基、館美駿、梶山蓮翔、伊藤海成、木下晴天、川村求、城秀人、伊藤優

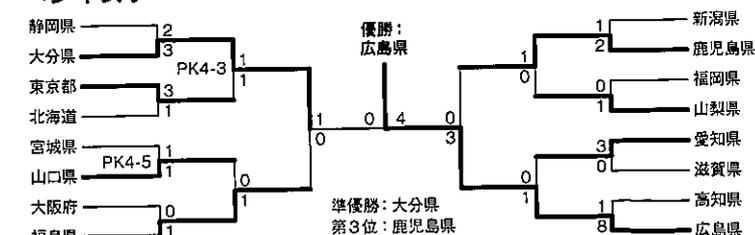
<石川県> 監督:木戸口肇 佐藤玲偉、平野瑚虎、中西蔵之佐、川井連、坪内柊音、藤谷琉、高野琉生、宮田葉玖斗、関口琢心、多葉田侑吏、前江田響輝、池田恭志郎、北村蕾芽、下澤到矢、増田優牙、藤谷風社

<長野県> 監督:卯之原勇輝 住沢優太郎、山本康雅、中澤侑吾、宮坂天翔、高澤秀輔、樋口修也、加室朝氣、松島祥泰、林純平、蔵本帆多加、大野田和希、荻原一貴、竹村篤人、吉澤風河、村上俊太、益本璃来

<静岡県> 監督:岡本淳一 榎瑞貴、山田竜之介、岩下雄飛、品竹友哉、石川塔梧、大橋大洋、小枝翔太郎、山崎瑛晴、河波飛和、佐野泰聖、小柳希碧、庵原進太、葛西源太、澤田卓磨、鎌田康勢、森田一颯

<愛知県> 監督:渡邊大起 岡野恭謙、鈴木純斗、石貝魁伸、飯田啓斗、宮本新、高尾勇輝、金村龍空、井内庸介、恒吉良真、齋藤太陽、八色隼人、白男川鈴斗、池田歩弘、上阪碧都、鈴木暖人

<少年女子>



<3位決定戦> 福島県 0-1 鹿児島県

決勝

東京都 2 (前半2-0 後半0-1) 1 静岡県

●2025年10月7日 13:32 ●野洲川歴史公園サッカー場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]金淵佑亮 [副審]廣瀬成昭/小林秀之 [第4の審判員]矢嶋洋晃 ●マッチコミッショナー:清水崇之 ●観衆:1,439人

東京都(監督:太田匡人):[GK](1)高橋恒輝 [DF](2)橋本凜来<->HT(13)須田耀介>(3)石村琢人(4)草野陸(5)原田爽潤<->57'(2)橋本凜来> [MF](6)富田真陸<->66'(14)伊藤海成>(7)中野寛基<->35+1'(9)川村求>(10)梶山蓮翔(14)伊藤海成<->HT(8)館美駿>(15)木下晴天<->66'(7)中野寛基> [FW](11)城秀人<->57'(16)伊藤優>

控え:(12)小島望蒼

静岡県(監督:岡本淳一):[GK](1)榎瑞貴 [DF](2)岩下雄飛(3)品竹友哉(4)石川塔梧(5)大橋大洋 [MF](6)小枝翔太郎(7)山崎瑛晴<->HT(11)小柳希碧<->66'(7)山崎瑛晴>(8)河波飛和(9)佐野泰聖<->47'(16)葛西源太<->61'(9)佐野泰聖> [FW](10)澤田卓磨<->47'(15)森田一颯<->61'(10)澤田卓磨>(14)鎌田康勢<->30'(13)庵原進太>

控え:(12)山田竜之介

得点:[東京都]18'橋本凜来(1-0)、29'梶山蓮翔(2-0) [静岡県]70+4'小枝翔太郎(2-1)

<滋賀県> 監督:時岡宏昌 木下瑛人、高田健介、松岡希来、中田涉太、真野琉聖、瀬川蓮樹、田井杏祐、高木凜檜、澤井文太郎、森山碧海、小笠原啓太、小森宗一郎、大原剛生、田中世央、櫛田天音、安藤駿

<京都府> 監督:美尾敦 藤原汰朗、高島大吾、上野眺鷲、山本怜央、有泉瑛都、関航大、朴楼伊、岡本侑汰、野中瑛泰、樋口徹哉、相原清人、佐々木唯虎、三崎世翔、滝川颯馬、桐生琉歌、大志万蓮

<大阪府> 監督:廣津秀隆 平田琉人、龍龍斗、北井涼介、津田颯太、岡元侑大、中辻晴大、小川蒼、藤本祥輝、根本隼聖、岡本新大、岡崎葵、城坂光喜、深江龍明、原田尚幸、中野瑛太、川野聖

<鳥取県> 監督:岩崎将斗 伊田太一、大矢哲平、上原杜人、尾崎徠斗、山形一叶、成田天夢、三浦海露、杉岡成治、細川斗輝、山下大輝、友田大智、塚越星空、安達悠樹、植田行雲、大原暁、一野良輔

<岡山県> 監督:森川潤一 岡田建斗、横川遥也、清野麻志、平松晃、本山史玖馬、田中幾翔、堤清史郎、松本優輝、森翔永、辻城白、稲葉竜希、柴田廉ノ介、小平壮次郎、元野蒼空、安西来起、矢島琉衣

<広島県> 監督:池田康平 枝川航大、南谷春翔、保手演慶次、森井莉人、西翔生、富田雅翔、瀧田圭吾、田中優翔、正法地有、野口魁斗、岡嶽介、佐藤壯知、宮内太陽、杉谷優、加藤凜太郎、高橋成海

<愛媛県> 監督:山田直幸 坂田康祐、玉田叶多、平野皓大、佐藤優馬、石原拍、渡邊俊史、塩見勇貴、藤井悠陽、宇都宮颯太、佐竹海力、本田巧、仙波隼太郎、上野新太、石橋潤人、森咲人、丹大和

<高知県> 監督:小田信司 西村圭太、大塚翔利、濱田愛大、井上翔珠人、中西運、大川哲平、國吉陽太、伊藤嘉梨、笹原進斗、近藤瑛人、梅原楓生、片岡裕清、山本里太、細川友音、長谷川慶

<佐賀県> 監督:高地系治 久保田晶登、尾藤葉琉、石本葵陽、米濱勇弥、吉原勘九郎、三宮汰羽、松本涼真、松崎陽向、伊藤璃来、山根璃久、末次瞬、吉田琉牙、野村由翔、仙石新、千々和祥吾、江里冠

<熊本県> 監督:齊藤達也 長井志郎、岩永蒼大、大田原奏泰、首藤優来、山田航慎、井本怜汰、清水尚、禿真慈、飯田尚大、川内健、永松銀河、徳永陽、松岡凜、平井一輝、竹永悠真

<宮崎県> 監督:木下健生 高岸緑、松浦夢真、與那覇陽弥希、杉野響、眞崎煌波、奈須悠馬、久保田蓮、山下結叶、高野眺次郎、梶原玄太郎、佐藤大樂、本多遠成、假屋明希、秋藤晋太、岩元航希、金屋拓海

<鹿児島県> 監督:岩元泰佐 神宮司湊瑛、大串泉ムサフィリ、愛川隼斗、東俊太郎、手塚海都、米村颯真、奥田敦斗、外山鉄馬、小澤康太、川上篤人、橋野崇汰、児玉柊、園田健晴、松久保奏太、小園晟之朗、前野銀河

データボックス

準決勝

大分県 1 (前半0-0 後半1-0) 福島県

●2025年10月5日 11:00 ●大津市皇子山総合運動公園陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]多田美早希 [副審]谷内田菜央/堀田姫花 [第4の審判員]稲畑克海 ●マッチコミッショナー:中村嘉宏 ●観衆:273人

大分県(監督:林和志):[GK](1)中川響 [DF](2)竹田美佐也(4)中清桃(5)大下紗也奈(6)平尾心湖 [MF](7)丸山笑花(8)内立輪莉子(9)野田朱花(11)橋本芽依<->HT(14)外間笑華->70+2'(11)橋本芽依> [FW](10)高田未来(13)安田絵恋

控え:(3)山下佳梨(12)木本那麻(15)山口紗奈

福島県(監督:五十嵐香月):[GK](1)若月りる葉 [DF](2)堀楓華(12)宇都木柚芭(14)岸上詩音 [MF](3)渡辺琉華<->26'(16)渋谷瑠南>(4)木村杏<->43'(11)塩田亜莉紗->58'(4)木村杏>(6)佐々木樹璃(7)波部和奏(8)草野理子<->53'(3)渡辺琉華>(9)高橋心花 [FW](10)小野輝愛<->58'(13)古庄梨枝>

得点 [大分県]48' 大下紗也奈(1-0)

準決勝

鹿児島県 0 (前半0-2 後半0-1) 3 広島県

●2025年10月5日 13:10 ●大津市皇子山総合運動公園陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]河野由依 [副審]千葉美咲/稲畑克海 [第4の審判員]堀田姫花 ●マッチコミッショナー:郡和秀 ●観衆:305人

鹿児島県(監督:辻勇人):[GK](1)宮村一花 [DF](3)清本麗(4)生田凜(5)園田結凜 [MF](6)池脇愛音(8)松崎美咲<->16'(9)松下莉子->HT(13)神田菜那>(10)佐々木由貴(11)濱砂安凜(12)松澤唯空<->HT(14)日高美空>(14)日高美空<->25'(2)竹ノ内紗依> [FW](7)大藪妃紗

控え:(15)前田星音

広島県(監督:小川潤一):[GK](12)船越優芽<->HT(1)内田萌々音> [DF](2)中川奈南(3)加藤琉梨(4)長谷川芽衣(5)川瀬彩桜<->HT(13)鬼塚華蓮> [MF](7)金子ここのな(8)武島杏菜<->60'(9)中島莉空>(14)近藤音々 [FW](10)中島采音<->HT(6)中尾和佳奈>(11)妹尾のん(15)中原千尋<->69'(8)武島杏菜>

得点 [広島県]12' 中島采音(0-1)、22' 加藤琉梨(0-2)、44' 中川奈南(0-3)

警告 [広島県]47' 中川奈南

3位決定戦

福島県 0 (前半0-0 後半0-1) 1 鹿児島県

●2025年10月6日 11:00 ●大津市皇子山総合運動公園陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]谷内田菜央 [副審]村井良輔/植田文平 [第4の審判員]黒田蒼太 ●マッチコミッショナー:中村嘉宏 ●観衆:330人

福島県(監督:五十嵐香月):[GK](1)若月りる葉 [DF](2)堀楓華(12)宇都木柚芭(13)古庄梨枝<->28'(8)草野理子>(14)岸上詩音 [MF](3)渡辺琉華(4)木村杏(6)佐々木樹璃(7)波部和奏(9)高橋心花(16)渋谷瑠南

控え:(5)望木智瓜(10)小野輝愛(11)塩田亜莉紗

鹿児島県(監督:辻勇人):[GK](1)宮村一花 [DF](3)清本麗(4)生田凜 [MF](2)竹ノ内紗依<->20'(13)神田菜那->HT(2)竹ノ内紗依->49'(13)神田菜那->66'(9)松下莉子>(6)池脇愛音(10)佐々木由貴(11)濱砂安凜<->HT(8)松崎美咲->57'(11)濱砂安凜>(12)松澤唯空(14)日高美空 [FW](7)大藪妃紗(9)松下莉子<->20'(5)園田結凜>

控え:(15)前田星音

得点 [鹿児島県]69' 大藪妃紗(0-1)

決勝

大分県 0 (前半0-2 後半0-2) 4 広島県

●2025年10月6日 13:30 ●大津市皇子山総合運動公園陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]千葉美咲 [副審]多田美早希/堀田姫花 [第4の審判員]河野由依 ●マッチコミッショナー:郡和秀 ●観衆:416人

大分県(監督:林和志):[GK](1)中川響 [DF](2)竹田美佐也(4)中清桃(5)大下紗也奈(6)平尾心湖 [MF](7)丸山笑花(8)内立輪莉子(9)野田朱花 [FW](12)木本那麻<->15'(10)高田未来>(13)安田絵恋<->43'(15)山口紗奈>(14)外間笑華<->15'(11)橋本芽依>

控え:(3)山下佳梨

広島県(監督:小川潤一):[GK](12)船越優芽<->50'(1)内田萌々音> [DF](2)中川奈南(4)長谷川芽衣(5)川瀬彩桜<->HT(10)中島采音->62'(9)中島莉空> [MF](7)金子ここのな(8)武島杏菜<->70+1'(10)中島采音>(9)中島莉空<->50'(6)中尾和佳奈>(14)近藤音々 [FW](10)中島采音<->17'(3)加藤琉梨->58'(5)川瀬彩桜>(11)妹尾のん<->66'(15)中原千尋>(15)中原千尋<->50'(13)鬼塚華蓮>

得点 [広島県]10' 中島莉空(0-1)、33' 妹尾のん(0-2)、36' 中原千尋(0-3)、40' 中川奈南(0-4)

【参加選手】

<北海道> 監督:中田大夢
竹原芽生、長岡珂菜、大橋心、青木小羽、阿部純、菅原朱李、石田ひなの、加藤綾華、成田葵菜、近藤結空、渡辺ひなの、千葉心、早川虹湖、石黒月、大友悠輝

<宮城県> 監督:山本清治
湯田さくら、日下奈美、加藤心、保美羽、大橋歩実、紺野心夢、角屋千海、野村心夏、折日蒼空、樋口らら、福原愛子、佐藤葉音、岸咲良、黒木暹夏、西尾莉緒

<福島県> 監督:五十嵐香月
若月りる葉、堀楓華、望木智瓜、宇都木柚芭、古庄梨枝、岸上詩音、渡辺琉華、木村杏、佐々木樹璃、波部和奏、草野理子、高橋心花、渋谷瑠南、小野輝愛、塩田亜莉紗

<東京都> 監督:李漢哲
楠紗来、加登脇心羽、菊池桃香、宮崎心菜、大長柑花、中田希、奥住心音、細谷菜月、百津薫、中原心愛、三浦葵、米倉和心、広瀬佳歩、諸田彩澄、野崎バイル舞

<新潟県> 監督:本間圭
渡辺葵愛、山本和奏、矢島七海、山田結芽、菊地結衣、齋藤莉希、北風璃枝、伊藤翼沙、岡崎藍、岩井舞香、山城弓愛輝、大嶋佳佳、渡辺麗奈、山本実桜、清野聖愛

<山梨県> 監督:渡辺海
小原梨音、草野咲崎、倉本葵衣、皇心愛、西出愛悠、木村菜都、橋本朋佳、佐々木れな、加山琴未、宮崎心桜、石井楓、松橋瑠々愛、大木さくら、亀尾美咲、後藤すいな

<静岡県> 監督:阿井雄平
山中実菜、丸山風奈、近藤咲季、佐野菜月、岩崎由愛、西山礼、松谷侑奈、神野美蘭、工藤愛奈、野本心菜、堀江咲花、山田明莉、花澤麻里衣、梅澤英綾、西梨恋

<愛知県> 監督:水野祐里
藤原爽空、野澤結七、近藤万愛、鈴木心々、深津早那、永谷しずく、成田侔彩、加賀瑞乃、東條百花、河津心音、谷内珠梨、中谷心羅、田中亜依、安野馨月、篠原愛加

<滋賀県> 監督:森村紀夫
穂先優美、谷理乃、北村渥、田中美桜、原田美海、吉井倫奈、北川奈奈、新屋咲希、北村心、岩見侑芽、梅垣結良、井上陽葵、本間なのは、谷玲央梨、高田七海

<大阪府> 監督:安田真季
吉村まりな、町田悠南、渡邊彩乃、嵐穂稀、高橋侑里、坂東采映、宮崎菜菜、下高莉咲、吉良凜、長藤美久、吉井愛々、久松来虹、花田ここのな、山瀬愛菜、中村彩葉

<広島県> 監督:小川潤一
内田萌々音、船越優芽、中川奈南、加藤琉梨、長谷川芽衣、川瀬彩桜、中尾和佳奈、金子ここのな、武島杏菜、中島莉空、鬼塚華蓮、近藤音々、中島采音、妹尾のん、中原千尋

<山口県> 監督:尾中祐太郎
松本和子、上田紗羅、庄司琴葉、村田杏、堀沙雪、田中絢子、中尾優月、中島響、稲葉心花、井上璃音、平田咲空、山本彩華、吉岡さくら、坂田叶愛、木村葵

<高知県> 監督:土居生命
寺田望遠、平田芽生、吉岡優羽、徳原心美、並村美奈、岡本ゆら、海老川萌花、田村優佳、松永優里、山田麻帆、畠中菜千、幸川莉依奈、太田羽奈、川原未夢、岡村朋乃佳

<大分県> 監督:林和志
中川響、竹田美佐也、中清桃、大下紗也奈、平尾心湖、山下佳梨、丸山笑花、内立輪莉子、野田朱花、橋本芽依、山口紗奈、高田未来、木本那麻、安田絵恋、外間笑華

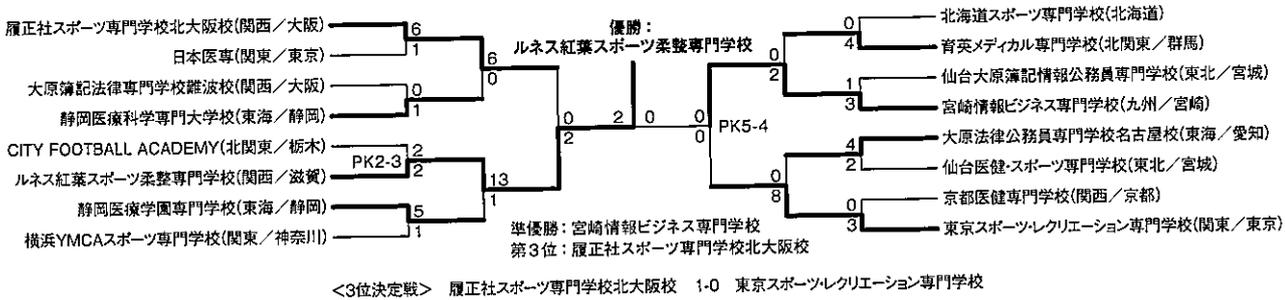
<福岡県> 監督:山室勇二
大久保由香、松井美空、牟田梨奈乃、田中夢、山岡可歩、内田衣怜、伊藤かの果、岩永弓佳、清水ゆづき、山田美月、久本紗菜、伊東美遥、水室かんな、宮口莉乃、高田真実

<鹿児島県> 監督:辻勇人
宮村一花、前田星音、清本麗、生田凜、園田結凜、竹ノ内紗依、池脇愛音、松崎美咲、佐々木由貴、濱砂安凜、松澤唯空、神田菜那、日高美空、大藪妃紗、松下莉子

文部科学大臣杯争奪 2025年度全国専門学校総合体育大会 第35回全国専門学校サッカー選手権大会

一般社団法人全国高等専門学校体育協会とJFAが主催している本大会は、JFAに登録(第1種)し、全国高等専門学校サッカー連盟に加盟している高等専門学校のチームであり、その団体の一員として個人登録された学生に参加資格が与えられた。今大会は10月6日~10日、9地域の16チームが参加して宮城県で開催された。

※ 68 ページに関連記事あり



準決勝

履正社スポーツ専門学校北大阪校 0 (前半0-2 後半0-0) 2 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校

●2025年10月9日 11:00 ●松島フットボールセンター ピッチ1 ●試合時間:90分
●審判員:[主審]伊勢裕介 [副審]岩佐丈/穴戸悠悟 [第4の審判員]中村喜平 ●マッ
チコミッショナー:寺内章一郎 ●観衆:50人

履正社北大阪(監督:岡中勇人):[GK](27)小山稔矢 [DF](15)宮崎陽生(76)大和田陸斗(77)西柳知有<-71'(23)田中春結>(88)青木斗那 [MF](6)花井涼晴(7)岡田季凌<-73'(2)峰慎ノ助>(18)林佑志 [FW](9)戸田幹太郎(14)西川陽<-71'(4)山田心太郎>(55)深田伊吹

控え:(16)松本哲弥(5)森本大智(20)長島快斗(21)樋口佳翔(30)田中結也(41)喜田陽仁

ルネス紅葉(監督:城山昌人):[GK](31)福原陸斗 [DF](2)高阪桃輝(4)増田統真(27)沼田一輝(28)幸本颯飛 [MF](5)伊藤大起(10)福森誠剛<-85'(6)橋倉迅大>(18)徳田侑篤 [FW](8)中武隼音(14)岡和田快(29)水谷彪鉄

控え:(12)荒川拓海(41)池田遼介(7)松井魁豊(9)林哲平(11)河井帝心(15)陣田鏡介(33)山本武瑠(35)小嶋幹大

得点:[ルネス紅葉]8'伊藤大起(1-0)、42'福森誠剛(2-0)

警告:[ルネス紅葉]73'水谷彪鉄

準決勝

宮崎情報ビジネス専門学校 0 (前半0-0 後半0-0) 0 東京スポーツ・レクリエーション専門学校

●2025年10月9日 11:00 ●松島フットボールセンター ピッチ2 ●試合時間:90分、延長20分、PK ●審判員:[主審]杉野杏紗 [副審]遠藤尊彦/佐藤雄太 [第4の審判員]西部岩雄 ●観衆:70人

宮崎情報(監督:宮崎晋輔):[GK](1)小牧翔 [DF](2)山田剣慎(4)倉盛海音(6)井上凌雅 [MF](7)山下怜真<-72'(24)鎌田駿将>(8)岡野天虹<-30'(13)海江元輝斗>(10)佐坂啓翔(14)神谷秀太(15)黒木颯志郎(22)川越結城(26)福原侑斗

控え:(17)木下翔雅(3)黒木駿(9)黒木琉羽(12)新天寺海斗(16)黒木大夢(18)川崎彪雅(21)鍋島幸希

東京スポーツ(監督:青木雅史):[GK](1)黒木大地<-107'(99)小島陸和> [DF](3)川崎奏音(6)牧野陸生(14)清水元徳(20)木村龍介<-66'(16)佐藤稜晟>(25)島村翔陽<-HT(23)藤森涼> [MF](7)後藤来生(10)牧野蓮生 [FW](11)吉川拓(27)伊藤薫<-61'(17)佐久間優人>(99'(9)本部龍佑>(28)近藤紘輝<-HT(24)吉田拓未>

控え:(12)田村大晟(13)鈴木里琉夢(26)中山悠輝

警告:[宮崎情報]28'佐坂啓翔、64'井上凌雅 [東京スポーツ]84'、90+3'牧野蓮生、90+1'佐藤稜晟

退場:[東京スポーツ]90+3'牧野蓮生

PK:[宮崎情報]先(10)○(26)○(14)○(4)○(6)○
[東京スポーツ](11)○(3)○(25)○(24)○(6)×

3位決定戦

履正社スポーツ専門学校北大阪校 1 (前半1-0 後半0-0) 0 東京スポーツ・レクリエーション専門学校

●2025年10月10日 10:00 ●松島フットボールセンター ピッチ1 ●試合時間:90分
●審判員:[主審]穴戸悠悟 [副審]中村喜平/鈴木楓斗 [第4の審判員]杉野杏紗 ●マッ
チコミッショナー:寺内章一郎 ●観衆:70人

履正社北大阪(監督:岡中勇人):[GK](16)松本哲弥 [DF](2)峰慎ノ助<-85'(77)西柳知有>(5)森本大智(15)宮崎陽生(34)上川敦也<-HT(11)小淵澗>(76)大和田陸斗(88)青木斗那 [MF](18)林佑志(30)田中結也<-77'(6)花井涼晴> [FW](9)戸田幹太郎<-41'(55)深田伊吹>(14)西川陽

控え:(27)小山稔矢(3)池田大地(4)山田心太郎(7)岡田季凌(10)辻本優友

東京スポーツ(監督:青木雅史):[GK](99)小島陸和 [DF](3)川崎奏音(9)本部龍佑(14)清水元徳(20)木村龍介 [MF](7)後藤来生(23)藤森涼(26)中山悠輝<-68'(17)佐久間優人>(87'(13)鈴木里琉夢> [FW](11)吉川拓(16)佐藤稜晟<-68'(27)伊藤薫>(28)近藤紘輝<-57'(24)吉田拓未>

控え:(12)田村大晟(6)牧野陸生(25)島村翔陽(29)中根侑(32)小島大和

得点:[履正社北大阪]11'峰慎ノ助(1-0)

決勝

ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校 2 (前半1-0 後半1-0) 0 宮崎情報ビジネス専門学校

●2025年10月10日 13:00 ●松島フットボールセンター ピッチ1 ●試合時間:90分
●審判員:[主審]杉野杏紗 [副審]大崎翼/熊谷一也 [第4の審判員]穴戸悠悟 ●観衆:
80人

ルネス紅葉(監督:城山昌人):[GK](31)福原陸斗 [DF](2)高阪桃輝(4)増田統真(27)沼田一輝(28)幸本颯飛 [MF](5)伊藤大起(10)福森誠剛<-86'(11)河井帝心>(14)岡和田快<-65'(6)橋倉迅大>(18)徳田侑篤 [FW](8)中武隼音<-74'(9)林哲平>(29)水谷彪鉄

控え:(12)荒川拓海(41)池田遼介(7)松井魁豊(15)陣田鏡介(33)山本武瑠(35)小嶋幹大

宮崎情報(監督:宮崎晋輔):[GK](17)木下翔雅 [DF](2)山田剣慎(4)倉盛海音(6)井上凌雅 [MF](7)山下怜真(10)佐坂啓翔(14)神谷秀太(15)黒木颯志郎<-73'(3)黒木駿>(22)川越結城<-73'(12)新天寺海斗>(26)福原侑斗 [FW](9)黒木琉羽<-HT(13)海江元輝斗>

控え:(1)小牧翔(11)津津友也(16)黒木大夢(18)川崎彪雅(19)岑野人(21)鍋島幸希

得点:[ルネス紅葉]22'オウンゴール(1-0)、81'福森誠剛(2-0)

【参加選手】

<北海道スポーツ専門学校>監督:喜多重介
小野稔仁、伊藤心迦、越田遥斗、藤野将輝、杉本蒼汰、佐藤廉翔、長谷川修斗、星野戒斗、浜谷理希明、菅井颯弥、荒谷音杜、依田海虎、渡邊一紗、三村竜聖

<仙台大原簿記情報公務員専門学校>監督:吉沢康太
林皓生、鎌田悠吾、小山田晃河、大橋琉海那、田村蓮純、西谷祐紀、高橋琉生、柴田大雅、千葉鳳之介、越後晴哉、佐藤隆、高坂碧、結城壮太、中野渡大智、荒川蓮、及川直紀、丹内新太

<仙台医健スポーツ専門学校>監督:門間鳳樹
星颯太、柿崎秀翔、松本龍人、竹原快、小玉仁、下留航汰郎、大高翼、日戸偉吹、宮春心、植野空輝、上野泰汰、安川大翔、柳田歩夢、岩本陽飛、佐野優斗

<CITY FOOTBALL ACADEMY>監督:直井規男
木村匠斗、塚本拓海、土屋遥人、柴田竜杜、根本翔生、笠原伶於也、千葉優斗、羽吉優騎、パームハンマドゥ・バイロ、小曾根流聖、ゴメス・フィリオリカルド・セザル、山口凌和、金澤海輝、糸井琥汰郎、鈴木涼牙、新倉凌空、矢島拓也、杉本颯、熊野陽斗、長橋璃久斗、ナンタングン・ティラボン、安野竜電

<育英メディカル専門学校>監督:梅山理恵
鈴木椋次郎、椎名司、井上翔和、富岡世羅、柴田響、兒玉一真、齊藤冬磨、青木創太郎、濱田誠、鳥島絆路、高野永徳、西山陽有、中山碧慶、早田凌祐、林直哉、青木宝己、樺澤亮、清水幸一郎、河村友介、乾大志、大久保聖、相山輝星、北村悠貴、田中碧斗、松本拓士

<東京スポーツレクリエーション専門学校>監督:青木雅史

蕪木大地、田村大晟、檜村恭平、小島陸和、川崎奏音、長岡凜、牧野陸生、本部龍佑、清水元徳、木村龍介、島村翔陽、中根伶、野川龍之介、後藤来生、牧野蓮生、藤森涼、中山悠輝、小島大和、浅野誠也、古川拓、鈴木里琉夢、金澤怜生、佐藤稜晟、佐久間優人、吉田拓未、伊藤董、近藤紘輝

<日本医専>監督:大島貞昭

佐々木虎、金子啓太、八谷源、春山博希、小久保重徳、中村智希、田内優世、川人康助、中島大輝、桃井翔太、武井俊輔、仲山陽、丸山颯斗、新田侑真、石川隼大、星野瑠華、三宅暁斗志、吉村大空、指田一咲

<横浜YMCAスポーツ専門学校>監督:廣木武士

石川宙依、堀越瑞生、櫻井翔太、向山海翔、目時知也、栗本悠麻、菊池優里、門脇歩、近藤侑集、青田悠隼、松倉大輝、為村心勇

<静岡医療科学専門学校>監督:三輪尚人

坪田朋也、藤原爽真、水谷龍正、鈴木敦陽、松島優也、伴野雅空、栃本貴哉、赤堀豪哉、鈴井結飛、中村文哉、大空夏樹、田中聖也、藤田海輝、忠内辰樹、北出悠馬、鈴木幸成、鈴木風輝

<静岡医療学園専門学校>監督:太田峽兵

富田啓吾、中村倅次郎、関晃汰、山中響人、田村啓人、津原琉、望月誠、平田奨陽、平井大都、佐藤慶馬、前嶋恒輝、軒田一斗、岩田海渡、樽松瑠磨、仲田凜玖、本田春樹、前田悠希、仲田俊輔、山本暖大

<大原法律公務員専門学校名古屋校>監督:坂元敬介

早野颯汰、櫻井佑真、前池一颯、加藤隆昌、山口優翔、加藤桜祐、葉丸尚洋、諸見里正志、一瀬堅、田仲巧秋、ハツ木怜斗、園田友樹、森岡慎太郎、横井吏支、後藤大和、白谷悠真、下村大聖、御手洗昊

<ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校>監督:城山昌人

荒川拓海、池田遼介、福原陸斗、神田聡太、岡崎輝、高阪桃輝、増田統真、沼田一輝、山本武瑠、小嶋幹大、佐藤藍翔、服部奏音、幸本颯飛、伊藤大起、大久保颯太、橋倉迅大、福藤誠剛、岡和田快、二宮漣、徳田侑駕、松井魁豊、陣田竣介、福井雷人、水谷彪鉄、林哲平、河井帝心、平尾亮雅、中武隼音、中川拓実、阪口祥平

<履正社スポーツ専門学校北大阪校>監督:岡中勇人

村瀬颯汰、松本哲弥、小山稔矢、林田桜季、峰慎ノ助、森本大智、宮崎陽生、上川敦也、大和田陸斗、西柳知宥、青木斗那、池田大地、山田心太郎、花井涼晴、岡田季凌、小淵詩、林侑志、樋口佳翔、田中結也、喜田陽仁、戸田幹太郎、辻本優友、西川陽、長島快斗、田中春結、オチョア・マック、谷口友飛、深田伊吹

<大原簿記法律専門学校難波校>監督:瀧川隼

上田颯汰、岡本夢翔、瀬野雄大、高島秀羽、山本遥生、檜原凪、東海玖、北埜光龍、穂森永遠、田中悠太、日下部蒼太、後川作和、石丸里武、谷翔梧、大坊凌史、花谷泉瑠、内田竜聖、山崎丈、丘井駿平

<京都医健専門学校>監督:南條千人

植村大輝、多賀夕貴、辻心寿、林龍生、笹山誠貴、仲上和治、山本迅人、石橋直之、山本蓮、北川大祐、喜多佑成、水野慧、岡山乃彪、渡辺創己、池本充優、谷本航輝、中西凱哉、小島玄暉、伊狩時翔、川副湧慎、石原弘介、植松大河、大西隼輔、上田峻生、澤村流斗

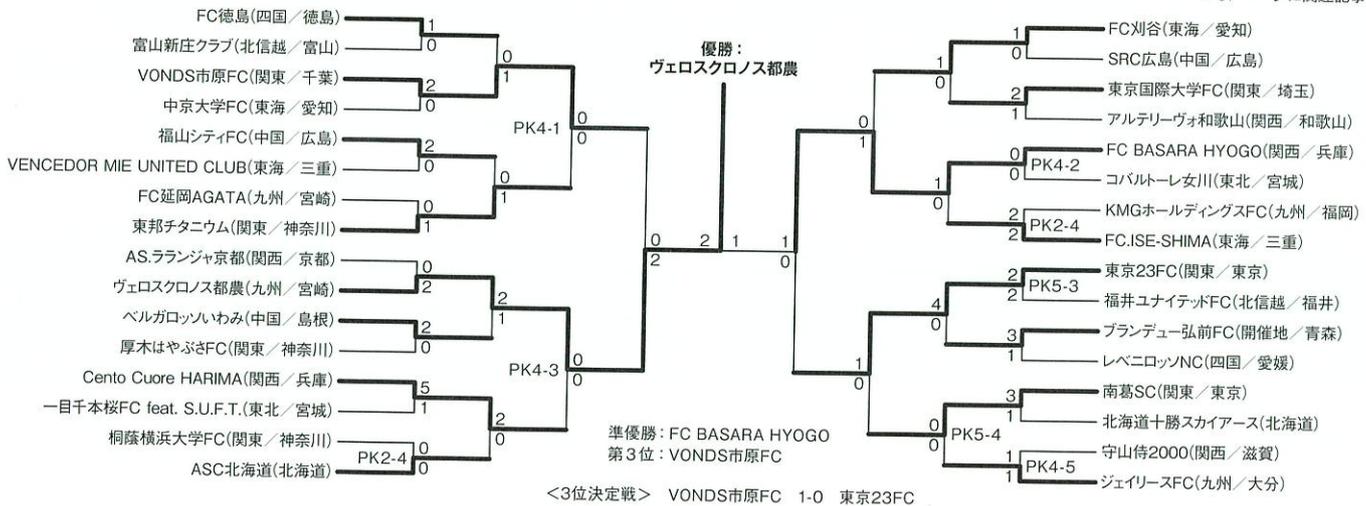
<宮崎情報ビジネス専門学校>監督:宮崎晋輔

木下翔雅、小牧翔、山田剣慎、井上凌雅、倉盛海音、新天寺海斗、横山湧大、黒木駿、黒木大夢、杉田悠真、佐藤杏詩、山下怜真、佐坂啓翔、坂本周由登、岑野人、川越結純、鍋島幸希、福原脩斗、川崎彪雅、神谷秀太、黒木琉羽、海江元輝斗、金津友也、岡野天虹、黒木颯志郎、鎌田駿将

第61回全国社会人サッカー選手権大会

本大会は、(一財)全国社会人サッカー連盟およびJFAの主催で、10月11日～15日に青森県で開催された。JFAおよび全国社会人サッカー連盟に登録された、第1種(準加盟含む)、J1リーグ、J2リーグ、JFL、大学連盟、高専連盟に加盟したチームは除く)チームで、8月31日までにJFAに登録を承認した選手に出場資格が与えられた。

※67ページに関連記事あり



準決勝

VONDS市原FC 0 (前半0-1 後半0-1) 2 ヴェロスクロノス都農

●2025年10月14日 11:00 ●プライフーズスタジアム ●試合時間:80分 ●審判員: [主審]大戸魁 [副審]堀江晃生/蜂谷冬陽 [第4の審判員]多喜功 ●マッチコミッショナー:金澤聡 ●観衆:232人

VONDS市原(監督:向山聖也):[GK](21)今川正樹 [DF](2)藤崎智貴(19)橋本文(22)西楚植颯斗(28)篠原弘次郎 [MF](10)沼大希<->50'(8)加藤勇司ベサーナ>(14)鬼島和希(15)水野泰輔(17)吉田力也<->HT(27)郡司侑弥> [FW](16)勝浦太郎<->50'(23)後藤準弥>(26)大塚尋斗<->60'(7)清原翔平>

控え:(1)折川輝樹(24)切石承之介(29)大友千裕

ヴェロスクロノス都農(監督:小寺真人):[GK](1)赤塚怜 [DF](5)山原慧也(6)柳田健太(16)高橋健(18)井上将弥 [MF](7)山内彰(23)永野雄大<->72'(20)藤田大道> [FW](9)山田雄太<->80+4'(4)松岡憧>(13)上米良柁人<->61'(10)中村亮>(27)松本幹太<->61'(8)中山雄希>(29)酒井信磨<->72'(3)梶山幹太>

控え:(30)浅井大地(14)五領淳樹

得点 [ヴェロスクロノス都農]32'山原慧也(0-1)、48'上米良柁人(0-2)

警告 [VONDS市原]70'後藤準弥 [ヴェロスクロノス都農]44'酒井信磨

準決勝

FC BASARA HYOGO 1 (前半1-0 後半0-0) 0 東京23FC

●2025年10月14日 13:30 ●プライフーズスタジアム ●試合時間:80分 ●審判員: [主審]小川稜 [副審]稲田智成/坂田純平 [第4の審判員]高須賀哲平 ●マッチコミッショナー:広部雅之 ●観衆:250人

BASARA HYOGO(監督:柏木佑介):[GK](21)清水圭介 [DF](2)毛利隼(4)山田隼輔(22)岡田海(29)鍵山慶司 [MF](8)小延将大<->55'(17)佐藤翼丞>(14)佐藤陽太(15)福西毅也<->65'(10)林洋毅>(31)中坂勇哉<->55'(27)大矢悠太郎> [FW](13)安岡佳毅<->65'(11)藤光翔>(26)五十嵐理人<->80+3'(5)岸本駿明>

控え:(1)鶴田海人(23)ヨム・テファン

東京23(監督:小松祐己):[GK](1)大滝昌広 [DF](5)本村武揚(22)前田亮太郎<->52'(25)仲野愛斗> [MF](3)近藤拓海(6)河田壮平(7)高橋大(10)服部剛大<->52'(9)神田志樹>(14)澤朋哉(33)藤田和也 [FW](18)半田ゲンヤ<->63'(24)青木駿汰>(19)小柳陸<->52'(13)石橋オビオラ>

控え:(21)吉川直輝(29)安島樹(40)梶山かえで

得点 [BASARA HYOGO]6'福西毅也(1-0)

警告 [BASARA HYOGO]58'福西毅也、72'佐藤翼丞 [東京23]70'青木駿汰

3位決定戦

VONDS市原FC 1 (前半0-0 後半1-0) 0 東京23FC

●2025年10月15日 10:00 ●プライフーズスタジアム ●試合時間:80分 ●審判員: [主審]山田昌輝 [副審]久保沢透大/下山裕 [第4の審判員]持田健 ●マッチコミッショナー:八島隆志 ●観衆:200人

VONDS市原(監督:向山聖也):[GK](21)今川正樹 [DF](2)藤奇智貴(19)橋本文(24)切石承之介(28)篠原弘次郎 [MF](10)沼大希<-62'(22)西塾植根斗>(14)鬼島和希(27)郡司侑弥<-62'(29)大友千裕>(34)荒井大<-70'(18)櫻庭晴人> [FW](23)後藤準弥<-70'(7)清原翔平>(26)大塚尊斗<-49'(8)加藤勇司ベサーナ>

控え:(1)折口輝樹(11)一木立一

東京23(監督:小松祐己):[GK](1)大滝昌広 [DF](5)本村武揚<-62'(40)堀山かえで>(22)前田亮太郎<-53'(26)松本健太郎> [MF](3)近藤拓海(6)河田壮平(7)高橋大(10)服部剛大<-53'(9)神田志樹>(14)澤朋哉(33)藤田和也 [FW](11)村上宗太郎<-62'(13)石橋オビオラ>(18)半田ゲンヤ<-68'(24)青木駿汰>

控え:(21)吉川直輝(29)安島樹

得点 [VONDS市原]71'加藤勇司ベサーナ

警告 [VONDS市原]19'後藤準弥、57'切石承之介、80+1'今川正樹

【参加選手】

<北海道十勝スカイアース> 監督:八津川義廣

内野将大、金子優希、乳井克樹、有吉響、橋本脩平、辻田力、吉田哲登、深井祐希、小山珠里、中村友哉、河邊拓己、佐藤友、水野匠弥、瀬戸匠海、藤原進士郎、河合悠人、齋藤力壮、臼井大夢、丸岡信、岡田大介、佐藤瑠己安、山下亮介、兼田寛也

<ASC北海道> 監督:徳田恒徳

芦谷峻平、伊藤照、吉川翔太、佐藤耀太、高島拓海、宮崎雄大、木戸友哉、関玲於那、後藤翔也、山田颯大、川又理久、澤田昇磨、澤田拓弥、小田皓一郎、野上誠、西塚龍雅、大金斗弥、小笠原大將、高橋歩武、小笠原諒、アブドゥール・カデル、佐藤勘太、向中野創平、高本海嗣、置田岳、小笠原央、町屋敷航汰、木戸文哉

<コバルトレ女川> 監督:郷野昌宏

古川貴、森像利公、廣松幸聖、若間裕太、竹内良、酒井隆也、小坪瑛士、黒田涼太、田中翔、坂本快人、志村弘樹、宮阪淳也、三浦祐希、吉川佳介、吉森海斗、須田稔斗、江橋俊介、船木省吾、鈴木史哉、笠原啓夢、田原伊織、奥山泰裕、眞口幸太、野口龍也、竹田そら、木下稀耶、佐藤優馬

<一目千本桜FC feat. S.U.F.T.> 監督:平山相太

高木謙心、相原廉、森岡拓海、今野生斗、當間新之助、佐藤匠人、昆野直也、和田桜輔、竹村吉裕、田中航路、栗塚優丞、武内裕輔、佐々木暹土、滝田遥人、水野匠翔、大畑響道、上田翔也、安藤功記、秋山千颯、佐藤颯生、手塚琉輝、吉原宏顕、中村健希、廣瀬英斗、細谷唯斗、照井泰汰、菅原颯太、青柳日暲、大島未月、衣川藍斗

<VONDS市原FC> 監督:向山聖也

折口輝樹、今川正樹、川村龍世、藤奇智貴、吉田和輝、中澤大翔、有永一生、橋本文、西塾植根斗、切石承之介、篠原弘次郎、田中颯太、沼大希、鬼島和希、水野泰輔、吉田力也、櫻庭晴人、後藤健太、郡司侑弥、大友千裕、須藤崇二、荒井大、清原翔平、加藤勇司ベサーナ、一木立一、勝浦太郎、後藤準弥、大塚尊斗、佐久間太一、上本律輝

<東京23FC> 監督:小松祐己

大滝昌広、吉川直輝、奥田剛史、市川聖也、本村武揚、栗田悠巨、敷田唯、前田亮太郎、關澤駿介、堀山かえで、近藤拓海、河田壮平、高橋大、菅原啓人、服部剛大、澤朋哉、小林颯、清水綾馬、青木駿汰、松本健太郎、安島樹、藤田和也、引間大聖、神田志樹、村上宗太郎、石橋オビオラ、半田ゲンヤ、小柳陸、仲野愛斗、梶原豊

<厚木はやぶさFC> 監督:サンドロ・アシス・ローザ

松本友輔、富田隼人、谷俊輔、水上珠吏、秋本愛斗、須川裕斗、秋守蓮、武藤英暉、山田龍治、和田勇太、北見颯、サンドロ・ユウキ、庭野直輝、北野智貴、千葉陸歩、田代蓮太、重松寛太、遠藤翔吾、柳沼達良、三谷胡太郎、小椋奏虎、雨貝和哉、野村吏希、林純平、渡部公平、笹嶋嵩杜、重松歩夢、鈴木蓮嗣

<東京国際大学FC> 監督:武藤真一

田中公大、片山蒼大、大津文樹、神垣実好、中島颯史朗、東透也、三浦颯太、川口航平、山下莉人、柏倉翔、永田一輝、坂尾一汰、佐藤瑠河、志田出帆、荒井康乃裕、大橋慧斗、中村絃太、峰松和輝、白坂晴人、五十嵐空良、高谷遼太、熊田龍輝、宮谷天空

<東邦テラニウム> 監督:柴田武

射庭康太郎、齋藤和希、東島大成、米澤哲哉、原颯汰、小松崎雄太、小口大貴、橋口拳志、鈴木一朗、島田博史、池ヶ谷颯斗、宗近慧、富樫和樹、渡邊龍、榎本澁大、鈴木翔、渋谷拓海、新井博人、飯澤良介、林祥太、下上昇大、小栗和也、工藤豪、安東輝、飯島秀教、川崎晶弘、赤星魁勝、清水光、谷尾昂也、小森登生

<南葛SC> 監督:風間八宏

飯吉将通、外山佳大、福本悠、長島武、パティソン志崇海、柳裕元、飯田佑也、田中大生、中道慶人、牛田大華、中村洗太、鍛田一雅、三枝竜也、小西侑臣、今野泰幸、加藤雅久、佐々木達也、神田洗樹、玉城峻吾、土居恵仁、プレジンス・カノア、ワジャリ・ジャジャ、山上新平、福本優芽、奥原翠偉、木下慎之輔、大石真輝、松島武永、松岡ジョナタン、大前元紀

<桐蔭横浜大学FC> 監督:関田寛士

渡邊雄太、神保颯汰、ベン・マン・アミン、小瀧康太、服部航大、山口元幹、田島慎之佑、富岡和真、麻田琉斗、根岸優汰、小倉煌平、武村圭悟、坂巻悠月、伊藤ロミオ、加藤嵩寅、坂本翔偉、井上隼汰、遠坂スィナ、富田智史、佐藤佑磨、本間温士、岡村葵、細川楓、中台翔太、寺裏剣、岡崎寛太郎、牧敬斗、宮下拓弥、福岡達太郎、守山昇世

決勝

ヴェロスクロノス都農 2 (前半1-0 後半1-1) 1 FC BASARA HYOGO

●2025年10月15日 12:32 ●プライフーズスタジアム ●試合時間:80分 ●審判員: [主審]中山友希 [副審]林可人/種市裕幸 [第4の審判員]山崎克彦 ●マッチコミッショナー:川西哲也 ●観衆:197人

ヴェロスクロノス都農(監督:小寺真人):[GK](30)浅井大地 [DF](2)久野龍心<-74'(5)山原慧也>(4)松阿健(22)武田航太郎(24)藤本奎詩<-68'(20)藤田大道> [MF](3)堀山幹太(14)五領淳樹<-60'(28)福島竜弥>(15)味元陽明<-60'(8)中山雄希>(17)永吉広大 [FW](19)鈴木琉矢(26)田辺涼成<-60'(11)濱田智也>

控え:(32)中山開帆(13)上米良柀人

BASARA HYOGO(監督:柏木佑介):[GK](1)鶴田海人 [DF](5)岸本駿明(6)俣野亜以己(20)倉田流宇(23)ヨム・テファン [MF](7)倉田大輝<-75'(10)林洋毅>(14)佐藤陽太(17)佐藤賢丞<-58'(2)毛利卓>(27)大矢悠太郎 [FW](11)藤光翔<-51'(25)永田亮輔>(13)安岡佳毅<-75'(26)五十嵐理人>

控え:(21)清水圭介(4)山田隼輔(29)鍵山慶司

得点 [ヴェロスクロノス都農]ア 藤本奎詩(1-0)、75'松岡僅(2-1)

[BASARA HYOGO]70'大矢悠太郎(1-1)

<福井ユナイテッドFC> 監督:藤吉信次

杉本拓也、河畑光、岩島巧、清水雅仁、志摩豪瑠、遠藤海斗、森勇斗、池庭諒耶、榎本響、眞古大輔、波本頼、廣岡駿樹、和田達也、北川晃平、渡辺琉偉、中島偉吹、大浦力、安川誠人、中村晃大、與那覇航和、高貝樹幹、大石治寿、北脇健哉、山本廉、杉浦秀謙、野村魁、押谷祐樹、岡田大輝

<富山新庄クラブ> 監督:朝日大輔

田村直樹、大原慶陽、今村翼、山口紘生、松原優吉、小野後輔、平原卓也、宮越竜大、竹林晃輝、濱田唯帆、片山修、富田大智、杉沢晴基、松岡昂哉、遠藤空玄、窪田良、牛田敦也、桶川陽介、山下育海、橋大夢、尾崎秀太郎、松井元淳、松田康佑、飯島翼、宮下宙、近藤友聖、高木裕喜、森本迅斗

<VENCEDOR MIE UNITED CLUB> 監督:ボウダ・ドス・サントス

取井大和、増田優作、佐藤彰吾、松戸瑛登、佐々木大羅、石川航大、齊藤健介、濱田龍斗、岩村彰大、川村知輝、村田涼介、森山真伍、尾藤勇喜、橋田陸、吉葉功喜、内村勇太、花城可向、上島健大、上岡陸、ホドリゴ・カベッサ、杉本大雅、嶽道一騎、若水風飛、ホドリゴ・カベッサ

<FC.ISE-SHIMA> 監督:金守智哉

増田将、江藤聖夏、有留奎斗、堀田真希、和田侑樹、安田正宗、松原大知、元廣正貴、宮寺優斗、谷口力斗、森優也、品部真完、竹本陽也、伊藤友弥、森崇二志、山田敦也、村越大輔、楠本羽翼、杉山ビラル正将、仲野哲矢、山下礼貴、濱田竜輝、西口亮城、谷口明典、生野友将

<中京大学FC> 監督:森本良

中島博希、後藤崇五、内田達登、戸谷宇慧、安部聖人、横井文太、亀谷曉哉、近藤涼太、保坂崇人、近藤成真、吉田大晃、伊藤楓太、深江大志郎、松島大貴、小田村優希、西田達哉、清川都生、岡俊樹、牧野琢任、佐野謙信、菅原雄大、前田翔、早坂優空、清田空、宮地稀竜、西田蒼生、佐藤祥汰郎、長江智哉、佐藤尚生

<FC刈谷> 監督:古川毅

山本伊織、兒島拓哉、戸坂海、菊山耀介、大迫晚、鹿股翼、佐々木宏樹、松原央門、飯島蓮、宗野裕斗、武下智哉、青木捷、石坂亮人、馬場琢未、谷口祐亮、長友一輝、勾坂俊介、藤田愛斗、野邊達也、川崎大翔、藤山恭輔、高橋尚紀、園田新一郎、熊谷誠也、伊集院雷、鈴木将馬、小堀幹太、久保壮輝、宮地裕二郎

<FC BASARA HYOGO> 監督:柏木佑介

鶴田海人、清水圭介、平塚竜輝、毛利隼、落合真一朗、山田隼輔、岸本駿明、俣野亜以己、倉田流宇、岡田海、ヨム・テファン、磯由信、松本健作、鍵山慶司、倉田大輝、小延将大、林洋毅、佐藤陽太、福西毅也、佐藤賢丞、丸岡満、大矢悠太郎、中坂勇哉、松原大芽、藤光翔、安岡佳毅、古谷三國、永田亮輔、五十嵐理人、ヨム・テファン

<AS.ランジャヤ京都> 監督:吉田慶三

大野将弥、宮本歩武、亀井裕人、栗原竜、松村晃法、忠政慶之、福永和生、竹村颯真、右近良馬、懸樋開、島田泰佑、堀川堅矢、三好一輝、高橋周也、山口拓哉、山中宏基、久家悠輔、石田隼将、峠田聖太、西川宙志、國田匠馬、奥田成、木部裕介、山崎陽、平野守惟、羽田雄飛、磯部卓也、西山直輝、森尾和広、島田敏弥

<アルテリョーヴォ和歌山> 監督:三枝寛和

山口孝明、佐藤由維斗、磯部勤太、渡大芽、大橋優正、小久保裕也、山田大地、二木勇樹、吉谷有司、大迫武早志、下間蓮之介、中島雅典、中山和紀、小池武蔵、高木颯太、柴田悠登、桑島良汰、大野幹生、杉浦晃太、山瀬翔輝、工藤和真、日根野達海、向井颯、植村友哉、橋本唯翔、和田幸之佑、北野純也、新田航士、操希翔、築山隼

<Cento Cuore HARIMA> 監督:佐野裕哉

中山音弥、宮本聖也、石原祐樹、末政翔太、宋勝鳳、榎本怜、齋藤亮多、中條直哉、土邊修平、衛藤幹弥、中島修斗、福島裕治、貴名航世、田口遼、森永耀最、玉井文翔、花井聖、小谷健悟、吉田大河、伏木一樹、小松峻輔、久保勇大、佐野宏太、平根海翔、康起甫、平谷成矢、三木大松、松本文哉、池田海翔

<守山侍2000> 監督:井上卓哉

大野敬介、渡抜大貴、野村昌平、白井秀典、小酒井大聖、浦谷智也、近藤裕貴、小山千豪、横山清空、川瀬和、山下聖矢、野村迅、藤田廉人、長谷川圭、村田大介、岡田慧、岡田優樹、西村仁志、荒瀬謙次、田中慶吾、小國憲弥、三田尻知輝、西崎圭祐、梅村エイジ、仙臺岳斗、村岡怜央、大嶋佑

データボックス

<福山シティFC> 監督:小谷野拓夢

菊地大輝、村田要、松野輝樹、二宮和輝、平松遼太郎、黒宮渉、高田健吾、荻野元伸、澤田健太、横山凌雅、代健司、田路耀介、藤井敦仁、塚田裕介、高橋大樹、若宮健人、深田竜大、角田薫平、小池陸斗、田口駿、松井治輝、野浜友哉、杉浦力斗、馬越晃、高木大輝、ソン・ホギョン、吉井佑将、小野関虎之介、大久保龍一、野濱友哉、ソン・ホギョン

<SRC広島> 監督:高橋真一郎

中本真彰、濱野介利、山口宙、川井裕哉、内海健太郎、坪根毅士、若友優紀、寺田勇心、増田一織、石津大地、咲賀翔平、渡邊悠平、炭廣翔、米田光希、山田廣也、西田憲誌朗、山口奏七、平尾翔馬、猪股直希、高石淳杜、眞田颯太、森川暁、佐藤虎鉄、二井野巧、西原大河、山根玲音、上川朔矢

<ベルガロッソいわみ> 監督:岸本弘樹

横井健太、吉永縁心、池藤聖仁、脇本晃成、辻川裕介、伊藤太陽、橋本峻輝、長谷川翔平、西尾響、北村隼、林莞大、白山玄貴、水津颯太、澤島輝、桃井紳伍、菊本翔太、宮澤琉汰、河北祥太郎、澤田理玖、田平謙、伊能玲生、中田樹音、原田烈志、鄭健司、内山弦太

<レベニッソNC> 監督:岡田紘明

岡田紘明、岡宗立、矢野智大、繁本剛功、山下詩音、兵頭俊昭、喜井翔夢、越智康貴、山下善輝、石川翔太、藤本海斗、中越康輔、土居大樹、永野楓馬、耕田大河、鴻上雅也、越智大樹、伊藤良彰、中村慎太郎、鶴崎光、山西恭平、一色俊介、伊藤翼、近藤伸宏、佐伯雄斗、高橋宏樹、三好凱斗、桂太希、藤田陸斗、宮崎剛輝

<FC徳島> 監督:羽地登志晃

瀧美拓也、八代空良、吉田裕翔、カン・ギョフン、富永涼大、倉員宏人、山本直、前野恵吾、朴秀貴、小長谷勇樹、佐藤敬太、松下衣舞希、出岡大輝、姫田耕大、谷山湧人、大坪蘭、馬場雄大、加藤和尊、佐田正舟、ジョン・ゴン、岩崎雄永、河元海、キム・テファン、東山遠稀、藤原優志、近藤蔵波、肥田稜平、瀧本高志、藤原志龍

<FC延岡AGATA> 監督:早稲田一男

田淵佑、郷田風砂、平木慎二、森喜大、松村巧、早川峻央、シム・ヒョンミン、亀井海風人、山下翼、小野大斗、吉武莉央、阪本将基、内山田太輝、田中和騎、中別府柁太、久保田蓮、竹村俊二、穴戸俊明、有働洋匡、阿部遠海、永松勇人、吉田大翔、森野航

<ジェイリースFC> 監督:柳川雅樹

加藤大喜、松田亮、大島孝太、岸田翔平、深澤卓真、本多琢人、高島淳也、林田隆介、高安幸幸、福元孝佑、佐藤昂洋、面矢行斗、菅野紘希、濱口功聖、渡邊有也、松本怜、島津頼盛、萩野広大、今吉晃平、田中純平、湯澤洋介、八反田康平、永松恭聖、高瀬生聖、西田恵、延祐太、津村夢人、園田卓馬、鳥飼椋平、木島悠

<ヴェロスクロノス都農> 監督:小寺真人

赤塚怜、中野翔、浅井大地、中山開帆、久野龍心、松岡憧、山原慧也、柳田健太、高橋健、井上将弥、藤田大道、武田航太郎、藤本奎詩、福島竜弥、梶山幹太、山内彰、中村亮、五領淳樹、味元陽明、永吉広大、永野雄大、中山雄希、山田雄太、濱田智也、上米良柗人、鈴木琉矢、田辺涼成、松本幹太、酒井信隆

<KMGホールディングスFC> 監督:福田豊司

青井道寛、野牟翔、花田周勇、柳本知哉、安永耕太、古賀照也、甲斐裕也、甲斐大和、渡部武琉、山根優汰、中下将弥、軸丸大翔、岩井響太郎、福地優雅、伊藤壮伸、橋本祐汰、石原駿也、福田凌生、福田豊司、矢上駿、岩崎巧、中岡想羅、築地紘輝、吉岡遼

<ブランドュー弘前FC> 監督:中三川哲治

河野匠哉、安田翔梧、坂井甫、高井健太、望月勇伸、矢越隆晟、中正司裕心、小野春輝、西真翼、イ・ビョンチャン、西田優太、小田桐龍也、中村成龍、八田壮一郎、板橋幸大、寺尾海星、鈴木大登、根本直弥、高野晴輝、原涼太、祝佳史

2025プレナスなでしこリーグ1部

12チームによる2回戦総当たりリーグ戦(全22節)を実施。

※18~19ページに関連記事あり

■戦績表

順位	チーム名		名古屋	伊賀FC	静岡	ヴィアマ	Aハリマ	湯郷ベル	愛媛L	ニッパツ	オルカ	S世田谷	S日体大	スベ大阪	勝	分	負	得点	失点	差	
1	朝日インテック・ラブリッジ名古屋	H	0●1	1○0	3○1	1○0	1○0	1●2	2○0	3○0	0△0	1△1	2○1	3○0	51	16	3	3	35	12	23
		A	0●1	2○1	1○0	4○1	1○0	0●2	3○0	1○0	3○1	1△1	1○0								
2	伊賀FCくノ一三重	H	1○0	0●3	3△3	1○0	0●1	5○0	2○0	1△1	3○2	2○1	2○1	2○1	41	11	8	3	36	21	15
		A	0●1	1△1	3○0	2△2	1△1	1△1	0△0	1○0	2△2	3○0	2○1								
3	静岡SSUポニータ	H	1●2	1△1	3○1	4○3	5○1	3○1	1○0	1△1	3○1	8○2	0●2	0●2	38	12	2	8	48	29	19
		A	1●3	3○0	1●2	0●1	2○0	4○0	0●1	0●1	1●4	2○1	4○1								
4	ヴィアマテラス宮崎	H	0●1	0●3	2○1	1●2	0●2	1○0	1○0	2○0	1○0	4○1	1△1	1△1	34	10	4	8	30	27	3
		A	0●1	3△3	1●3	0●2	2○1	1●2	2○1	1△1	4○0	2○1	1△1								
5	ASハリマアルビオン	H	1●4	2△2	1○0	2○0	3○0	4○1	2○0	0△0	0△0	1△1	1○0	1○0	33	9	6	7	29	24	5
		A	0●1	0●1	3●4	2○1	0△0	1●2	1●3	0●2	2○1	1△1	2○0								
6	岡山湯郷 Belle	H	0●1	1△1	0●2	1●2	0△0	0△0	2○1	2△2	1●3	2△2	3○0	3○0	28	7	7	8	25	32	-7
		A	2○1	1○0	1●5	2○0	0●3	2△2	2●3	0△0	2○1	0●3	1○0								
7	愛媛FCレディース	H	2○0	1△1	0●4	2○1	2○1	2△2	0△0	1△1	2●3	0●2	1△1	4○2	27	7	6	9	26	38	-12
		A	0●2	0●5	1●3	0●1	1●4	0△0	1△1	2●3	0●2	1△1	4○2								
8	ニッパツ横浜FCシーガルズ	H	0●3	0△0	1○0	1●2	3○1	3○2	1△1	1△1	1△1	2△2	2○1	2○0	25	6	7	9	21	27	-6
		A	0●3	0●2	0●1	0●1	0●2	1●2	0△0	2○0	1△1	1△1	0●1	2○0							
9	オルカ鴨川FC	H	0●1	0●1	1○0	1△1	2○0	0△0	3○2	0●2	0△0	0△0	1○0	1○0	25	5	10	7	15	21	-6
		A	0△0	1△1	1△1	0●2	0△0	2△2	0●2	1△1	2○1	0●3	0●1								
10	スフィーダ世田谷FC	H	1●3	2△2	4○1	0●4	1●2	1●2	2○0	1△1	1●2	0△0	2△2	0△0	24	5	9	8	32	33	-1
		A	1△1	2●3	1●3	0●1	0△0	3○1	5○2	1△1	0△0	3○1	1△1								
11	日体大SMG横浜	H	1△1	0●3	1●2	1●2	1△1	3○0	1△1	1○0	3○0	1●3	0△0	0△0	19	3	10	9	27	40	-13
		A	1●2	1●2	2●8	1●4	1△1	2△2	0●2	2△2	0△0	2△2	2△2								
12	スベランツァ大阪	H	0●1	1●2	1●4	1△1	0●2	0●1	2●4	0●2	1○0	1△1	2△2	0△0	12	2	6	14	14	34	-20
		A	0●3	1●2	2○0	1△1	0●1	0●3	0●1	1●2	0●1	0△0	0△0								

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)、H:ホーム A:アウェイ

2025プレナスなでしこリーグ2部

12チームによる2回戦総当たりリーグ戦(全22節)を実施。

※18~19ページに関連記事あり

■戦績表

順位	チーム名		V市原L	D出雲	吉国大C	パニーズ	山梨	V三重	R湘南	ac福島	大和S	DR広島	南葛SC	FC今治	試合数	勝	分	負	得点	失点	差												
1	VONDS市原FCレディース	H	0●1	0●1	0●1	1○0	2○1	1○0	4○1	3△3	3○0	2○1	2△2	49	15	4	3	51	18	33													
		A	3○1	3○2	6○0	1△1	2○0	2○1	2○0	1△1	3○0	3○1	7○0	2	ディオッサ出雲FC	H	1●3	2○1	2○0	1●3	1△1	1△1	0△0	2○0	2○1	2○0	3○2	41	12	5	5	33	20
A	1○0	1●3	1●2	3○0	0△0	0●2	5○0	1○0	2○1	2○0	0△0	3	吉備国際大学Charme岡山高梁			H	2●3	3○1	0●2	2○1	1△1	1●2	2○1	3○0	4○0	3○1	3○1	39	12	3	7	49	27
A	1○0	1●2	1●2	1○0	3○0	2△2	1●2	8○2	1△1	2●3	4○0			4	パニーズ群馬FCホワイスター	H	0●6	2○1	2○1	1△1	1○0	0△0	2○1	2○1	0●2	1△1	3○1	37	10	7	5	29	26
A	1○0	0●2	2○0	0●2	1△1	2○1	0△0	3△3	1△1	0●1	5○0	5	FCふじざくら山梨			H	1△1	0●3	0●1	2○0	0●1	2○1	0△0	5○1	2○0	1●2	1○0	36	10	6	6	30	18
A	0●1	3○1	1●2	1△1	1○0	0△0	2△2	3○1	0△0	3○0	2○0			6	ヴィアティン三重レディース	H	0●2	0△0	0●3	1△1	0●1	1○0	1○0	1○0	4○1	2○0	3○1	0△0	31	8	7	7	22
A	1●2	1△1	1△1	0●1	1○0	0●1	0●1	2○1	1△1	2○0	1△1	7	SEISA OSAレイア湘南FC			H	1●2	2○0	2△2	1●2	0△0	1○0	1△1	1△1	2○0	0●1	2△2	27	6	9	7	27	25
A	0●1	1△1	2○1	0△0	1●2	0●1	1○0	3△3	1●3	1○0	4○1			1△1	8	JFAアカデミー福島	H	0●2	0●5	2○1	0△0	2△2	1○0	3△3	0●4	2△2	3○2	0●1	22	4	10	8	20
A	1●4	0△0	1●2	1●2	0△0	0●1	1△1	1○0	1△1	1△1	1△1	0△0	9	大和シルフィード			H	1△1	0●1	2●8	3△3	1●3	1●2	3○1	0●1	1●2	4○1	1○0	22	6	4	12	31
A	3△3	0●2	0●3	1●2	1●5	1●4	1△1	4○0	2○0	0●3	1○0	10			ディアヴォロッソ広島	H	0●3	1●2	1△1	1△1	0△0	1△1	0●1	1△1	0●2	1○0	1○0	22	5	7	10	17	32
A	0●3	1●2	0●4	2○0	0●2	0●2	0●2	2△2	2○1	2△2	1○0		11	南葛SC WINGS		H	1●3	0●2	3○2	1○0	0●3	0●2	1●4	1△1	3○0	2△2	0●1	21	6	3	13	23	40
A	1●2	0●2	1●3	1△1	2○1	1●3	1○0	2●3	1●4	0●1	1○0	12			FC今治レディース	H	0●7	0△0	0●4	0●5	0●2	1△1	1△1	0△0	0●1	0●1	0●1	13	2	7	13	12	39
A	2△2	2●3	1●3	1●3	0●1	0△0	2△2	1○0	0●1	0●1	1○0																						

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)、H:ホーム A:アウェイ

2025プレナスなでしこリーグ1部・2部入替戦

ホーム&アウェイ方式の2試合にて実施。プレナスなでしこリーグ1部11位のクラブとプレナスなでしこリーグ2部2位のクラブで行う。

※18~19ページに関連記事あり

- <第1戦> デリオッサ出雲FC 1-0 日体大SMG横浜
- <第2戦> 日体大SMG横浜 3-1 デリオッサ出雲FC

⇒ ※日体大SMG横浜は「プレナスなでしこリーグ1部」残留。

2025プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会 / 2025プレナスなでしこリーグ2部入替戦

<2025プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会>
プレナスなでしこリーグ2部加盟申請を行ったチームで、加盟相当とされた5チームにて実施。5チームで各1回戦総当たりのリーグ戦を行い、1位~5位を決定する。

<2025プレナスなでしこリーグ2部入替戦>
プレナスなでしこリーグ2部の11位と予選大会2位、なでしこリーグ2部12位のチームと予選大会1位のチームがそれぞれ2回戦の入替戦を行い、勝利したチームが参入の権利を得る。

※18~19ページに関連記事あり

■ 2025プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会

順位	チーム名	レノファ	つくば	デイゴス	コンサ	ZL岩手	勝ち	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	レノファ山口FCレディース	4○2	1●2	3○0	3○0	9	3	0	0	1	11	4	7	
2	つくばFCレディース	2●4	2○1	2○0	3○0	9	3	0	0	1	9	5	4	
3	琉球デイゴス	2○1	1●2	1●2	2○0	6	2	0	0	2	6	5	1	
4	北海道リラ・コンサドーレ	0●3	0●2	2○1	0△0	5	1	1	0	2	3	7	-4	
5	FCゼブラレディース岩手	0●3	0●3	0●2	0△0	1	0	0	1	3	1	9	-8	

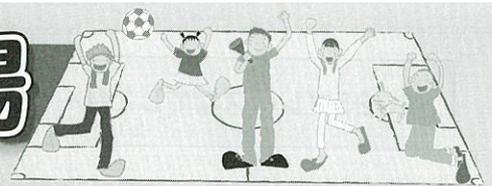
○:勝ち(勝ち点3)、△:PK勝ち(勝ち点2)、▲:PK負け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ 2025プレナスなでしこリーグ2部入替戦

- <第1戦> つくばFCレディース 0-5 南葛SC WINGS
レノファ山口FCレディース 0-0 FC今治レディース
- <第2戦> FC今治レディース 3-4 レノファ山口FCレディース
南葛SC WINGS 3-3 つくばFCレディース

⇒ ※南葛SC WINGSは「プレナスなでしこリーグ2部」残留、レノファ山口FCレディースは「プレナスなでしこリーグ2部」参入の権利を獲得。

サッカーファミリー広場



2026年度 JFAグリーンプロジェクト ポット苗方式芝生化モデル事業募集 (応募締切12月15日予定)

日本サッカー協会(JFA)は、JFAグリーンプロジェクト「ポット苗方式・芝生化プロジェクト事業」の、2026年度の募集を開始しました。

ポット苗方式芝生化モデル事業とは、スポーツ施設や校庭・園庭などの広場の芝生化を希望する学校や団体などに対し、芝生の苗(ポット苗)を無償提供する事業で、2008年のプロジェクト立ち上げから2025年度までに芝生化された面積は2,505,600㎡(総提供株数:10,310,038株)になります。JFAはこの活動を通じて芝生のグラウンドの拡大

を推進しています。応募締切は12月15日(月)までを予定しています。

●2026年度の募集詳細については下記ご参照
https://www.jfa.jp/social_action_programme/news/00035574/



●JFAグリーンプロジェクトについて
https://www.jfa.jp/social_action_programme/green_project/



日本サッカー協会監修の書籍

※同書を3名様にプレゼント!
詳細は80ページ参照

『“サッカーの子”を育てる—綾部美知枝と清水のキセキ』が発刊

日本サッカー殿堂掲額者である綾部美知枝氏の人生を通して、日本サッカーの一つの故郷を温める本書。サッカーの素人だった綾部氏は、いかにして全国優勝監督となり、多くのJリーグ選手を育てることになったのか。サッカー王国・清水はいかにして生まれたのか。

勝つだけがサッカーの全てではない。“サッカーの子”を育てるために、大切なことを教えてくれる一冊となっている。

“サッカーの子”を育てる—綾部美知枝と清水のキセキ

著者: 矢野透
監修: 公益財団法人日本サッカー協会
発行日: 2025年11月26日
発行所: 株式会社Pヴァイン
体裁: 四六判/単行本/200頁
定価: 本体価格1,800円+税



JFA.jp『TOP RECOMMENDATION』更新中!

JFA公式ウェブサイト「JFA.jp」では、TOP RECOMMENDATIONページでさまざまな情報を発信しています。

(10月更新)

- 育成や土台づくりを大切にしながら勝負にこだわる～池内豊ベトナム育成代表監督
- 日本の女子サッカーを「世界」の舞台に導いた人々～大住良之(サッカージャーナリスト)コラム
- 2025年度Proライセンスコーチ養成講習会受講 榎野智章さんインタビュー
- 7大会ぶりの元日決勝。女子日本一を懸けた戦いが始まる～皇后杯 JFA 第47回全日本女子サッカー選手権大会



『ツネログ』vol.14発行

宮本恒靖会長のコラムや主な活動を伝える『ツネログ』。2025年10月発行のvol.14では、JFAオフィシャルトップパートナーであるキリンホールディングス株式会社の山形光晴氏と対談。

https://www.jfa.jp/about_jfa/news/00035682/



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会(JFA)は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行(0005) 渋谷支店(135)
普通預金 口座番号0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会(JFA)は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

【フォーム】https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=jdDYk_b8f0-0_dkmS7IjH3cFKGINHkNBpVZIXnRIR4VUNidQNFJDMFRORDU2NihFU0M2TkplUJFPUS4u

利用方法の詳細は、JFA公式ウェブサイトをご確認ください。
https://www.jfa.jp/violence_eradication/



スポーツ 夢 実現!!

アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

MIZUMA

「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

毎日の体づくりの基本に

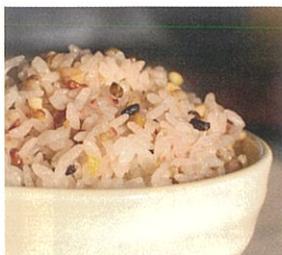
1小袋につき
アミノ酸
4,284
mg



穀物の力 スポーツ雑穀米



16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜 鉛	2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂 質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖 質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	パントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんぱく構成アミ/酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

食品から得られる運動前のエネルギー補給・ 運動後のリカバリーに

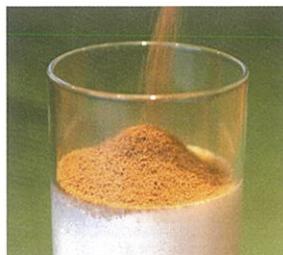
1小袋につき
アミノ酸
3,788
mg



穀物の力パウダー



16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)		亜 鉛	
エネルギー	384kcal	亜 鉛	2.1mg
たんぱく質	20.1g	ビタミンB6	0.37mg
脂 質	6.7g	ビタミンB12	2.36μg
糖 質	57.2g	ナイアシン	1.7mg
食物繊維	7.0g	パントテン酸	1.16mg
食塩相当量	0.4g	γ-アミノ酪酸	7mg
カリウム	1,600mg	たんぱく構成アミ/酸	18,940mg
カルシウム	220mg	総ポリフェノール	830mg
マグネシウム	190mg		
鉄	4.9mg		

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。 ※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。

ベストアメニティ

〒830-0102 福岡県久留米市三潴町田川32-3

TEL 0120-580-359

ご注文・お問合せは
こちらから →



第32回全国クラブチームサッカー選手権大会

【大会概要】

9月27日から30日、福島県のJヴィレッジで開催。9地域と開催都道府県(福島県)の代表チームの計16チームが参加し、ノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は70分(35分ハーフ)、試合時間内に勝敗が決しない場合はPK戦で決定する。

全試合を全国社会人サッカー連盟Youtubeチャンネルにてライブ配信。アーカイブはこちら
<https://www.jffms.jp/news/1666>



接戦を勝ち抜き Osaka City SCが頂点に立つ!

32回目を迎えた全国クラブチームサッカー選手権大会が福島県のJヴィレッジで開催され、社会人のクラブチーム日本一を争った。

1回戦では3試合が1点差での決着、さらにPK戦にもつれる試合もあるなど激戦が続いた。1回戦で10得点を挙げて快勝したONODERA FC(関東2/神奈川)は、次の準々決勝でOsaka City SC(関西2/大阪)に0-1で敗戦。勝利したOsaka Cityは、準決勝でも富士フィルムBIJ広島SC(中国1/広島)に1-0で競り勝ち、無失点のまま決勝に進出した。もう一方のブロックを勝ち上がったのはヴィアベンテン滋賀(関西1/滋賀)だ。準決勝までの3試合で13得点無失点という快進撃だった。

共に関西代表ながら初対戦となった決勝は慎重な立ち上がりとなったが、10分を過ぎる頃にはVB滋賀がワンタッチパスを駆使し、ピッチを広く使って攻めるなど徐々に主導権を握る。対するOsaka Cityも「相手のピークは前半20分くらいまでと想定していたので、勢いが落ち着くまでしっかり守るプランだった」(伊藤瑞希監督)と、全員守備から素早く攻撃に転じ、前半のシュート数は5本と、2本のVB滋賀を上回った。

先制点はOsaka Cityに生まれた。35分、左サイドの突破からゴール前でクロスを受けた野勢日向太が力強くキープしてボールを落と

し、そこに駆けてきた塩崎彰が冷静に蹴り込んだ。後半も構図は変わらず、48分にはOsaka Cityが自陣でのボール

カットから素早く人数をかけて攻め込み、最後は1点目をアシストした野勢がクロスボールにワンタッチで合わせてリードを広げた。

Osaka Cityはリードした後も両ウイングバックにフレッシュな選手を入れるなど、GKを含めて交代6枠を使う総力戦で、VB滋賀の反撃に対抗する。そのVB滋賀も最後まで諦めず、アディショナルタイムに得たPKで1点を返す。しかし、反撃もここまで。Osaka Cityが1点差で逃げ切った。

Osaka CityもVB滋賀もJリーグを目指して活動しているクラブ。Osaka Cityの阪井暖は「(優勝は)今後に向けた一歩であり、大事な位置づけのタイトルだった」と喜びをかみしめた。Jリーグで活躍し、VB滋賀で選手としてもプレーする村田和哉監督は「この遠征を通して本当に良い経験ができた。選手としてもチームとしても成長した」と、今後目を向けていた。



決勝でチームを勢いづける先制点を挙げたOsaka City SCの塩崎彰(右)



総力戦でタイトルを手にしたOsaka City SC(右)。チーム一丸となって大きな一歩を踏み出した



ヴィアベンテン滋賀は堅い守備に高い得点力で決勝に進出。大会を通してチームも大きく成長した



決勝は関西同士の対決に、白熱した戦いが繰り広げられた

第61回全国社会人サッカー選手権大会

【大会概要】

10月11日～15日、青森県で開催。9地域の社会人サッカー連盟から選出された31チームと開催県代表1チームの計32チームでノックアウト方式のトーナメント戦を行い、3位まで決定する。試合時間は80分(40分ハーフ)。勝敗が決しない場合はPK戦を行う。

全試合を全国社会人サッカー連盟Youtubeチャンネルにてライブ配信。アーカイブはこちら
<https://www.jffms.jp/news/1678>



ヴェロスクロノス都農が激戦を制して栄冠をつかむ!

第61回全国社会人サッカー選手権大会が青森県で開催された。社会人チームの日本一、その先の夢を追い、32チームが熱戦を駆け抜けた。

1回戦は16試合のうち5試合がPK戦での決着となり、Cento Cuore HARIMA(関西/兵庫)は5-1と快勝するほか、残る試合は2点差以内で決着するという激戦が続いた。

2回戦も、8試合中6試合がPK戦を含めて1点差以内の勝負となる。そして8強のうち半分を占めたのが、登録チーム数が最も多く競争が激しい関東勢。準々決勝では関東勢同士が対戦し、VONDS市原FC(関東/千葉)がPK勝ち、東京23FC(関東/東京)が1-0で、それぞれ準決勝へと進んだ。しかし準決勝では、九州のヴェロスクロノス都農(宮崎)がシュート3本でVONDSに2-0で勝利。関西のFC BASARA HYOGO(兵庫)は開始6分で奪った先制点を守り切り、決勝へと進んだ。

決勝の前に行われた3位決定戦も緊迫したゲームとなった。今大会の上位最大3チームには、日本フットボールリーグ(JFL)昇格が懸かる全国地域サッカーチャンピオンズリーグ(地域CL)の出場権が与えられるからだ。緊張の一戦は71分、VONDSがFKのこぼれ球を押し込んで先制し、そのまま勝利した。

都農とBASARAの決勝は早くにスコアが動く。攻勢に出ていた都農は7分、右サイドからゴール前にボールを運び、中央でパスを受けた

藤本奎詩がキープして五領淳樹にパス、五領が中に折り返したこぼれ球を藤本が押し込んだ。

その後、BASARA

もボールを保持する時間を増やしていくが、都農も要所要所でプレスを掛けるなど対抗。そのまま時間が進み、迎えた70分、BASARAはピッチを幅広く使った攻撃から俣野亜以己の右クロスに大矢悠太郎が頭で合わせて同点とする。一度は肩を落とした都農だが劇的な展開は続く。都農は再び力を振り絞って立て続けにCKを奪取すると、75分、右CKから松岡暲がヘディングシュートを決め、これが決勝点となった。殊勲の松岡は「試合に出たいなど選手はいろいろな思いを抱えているが、この5日間みんながチームのために戦った。その結果だ」と、主将としても安堵の表情。小寺真人監督は地域CLに向けて「負けたら終わりの緊張感の中で勝ち抜き、良い形で地域CLに向かえる」と振り返った。一方のBASARAの柏木佑介監督も「この5日間でチーム力も上がった。この経験は地域CLで生きると思う」と次の戦いを見据えていた。



熱い5日間を駆け抜けたヴェロスクロノス都農。全員がチームのために戦い優勝をつかみとった



VONDS市原FCは3位決定戦で勝利し、地域CLの出場権を獲得した



東京23FCは関東勢同士の対決となった3位決定戦で惜しくも敗れた



FC BASARA HYOGOは初戦のPK戦、その後は1点差で試合を勝ち進み勝負強さを見せて決勝へ上がってきた

文部科学大臣杯争奪 2025年度全国専門学校総合体育大会 第35回全国専門学校サッカー選手権大会

【大会概要】

10月6日から10日、宮城県の松島フットボールセンターで開催。各地域連盟から選出された16校が参加し、ノックアウト方式で優勝を争う(3位決定戦を行う)。試合時間は90分。準決勝、決勝はこの時間内に勝敗が決しない場合、20分間の延長戦を実施する。競技時間内に勝敗が決しないときはPK戦で勝者を決定する。



ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校が 14度目の優勝に輝く

第35回全国専門学校サッカー選手権大会が10月6日から5日間にわたり、宮城県の松島フットボールセンターで開催された。

1回戦では、前回大会で優勝の履正社スポーツ専門学校(大阪校)が6得点、準優勝の東京スポーツ・レクリエーション専門学校(東京)が3得点を挙げて勝利するなど、常連チームが好発進した。その中で激戦となったのが、初出場した第33回大会以降、3大会連続で出場しているCITY FOOTBALL ACADEMY(北関東/栃木)と、最多13度の優勝を誇るルネス紅葉スポーツ柔整専門学校(関西/滋賀)の対戦だ。互いに2点を取り合い、PK戦を制したルネス紅葉が勝ち上がった。

ルネス紅葉は次の準々決勝で13-1で静岡医療学園専門学校(東海/静岡)を下し、準決勝に進出。その勢いのまま、連覇を狙う履正社を2-0で破り、2大会ぶりの決勝へ駒を進めた。

もう一方の準決勝でも前回のファイナリスト、東京スポーツが宮崎情報ビジネス専門学校(九州/宮崎)にPK戦で敗れて姿を消した。前回決勝の再現となった3位決定戦は、履正社が1-0で制した。

決勝では、宮崎、ルネス紅葉共に序盤から積極的に攻撃に出る。ルネス紅葉が連続でCKを奪ってチャンスをつくと22分、CKからの強烈なヘディングシュートが相手のオウンゴールを誘い、先制点を奪

う。宮崎も自陣からしっかりとボールをつないで攻撃を組み立てようとするが、ルネス紅葉は素早くプレスを掛けてこぼれ球に反応するなど、宮崎に自由な攻撃を許さない。後半に入ると、ルネス紅葉は徐々に守備から攻めに転じる。宮崎も前線に入った長身の黒木駿を起点にチャンスをつくろうとするが、ルネス紅葉が高い集中力でそれを防ぐ。すると81分、CKを得たルネス紅葉はそこからパスをつなぎ、最後は福森誠剛がシュート。リードを広げ、2-0で勝利をつかんだ。

両チームは今年の1回戦でも対戦し、そのときは宮崎が勝利していた。ルネス紅葉の城山昌人監督は「昨年出ているメンバーも多く、悔しさも知っていた。チームとしてまとまってくれて、優勝できたと思う」と話し、主将の伊藤大起も「厳しい初戦に勝って勢いに乗れた」と喜びを語った。惜しくも敗れた宮崎だが、宮崎晋輔監督は「ここまで来たら優勝を目指したかったが、壁は厚かった。それでも選手たちは持っている以上の力を出してくれたと思う」と選手たちをたたえた。



ルネス紅葉は福森誠剛(右)の追加点で2-0と勝利。昨年の悔しさをバネにチーム一丸となって王座に返り咲いた



3位決定戦は履正社と東京スポーツが激突。前回大会決勝と同じ顔合わせとなった



決勝は前回大会1回戦と同カードの対戦となった(ルネス紅葉対宮崎)



宮崎(左)はPK戦にもつれる激戦を制して勝ち上がり、初の決勝進出を果たした

わたSHIGA輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会 サッカー競技(成年男子)

【大会概要】

10月4日から7日、滋賀県東近江市の3会場で開催。9地域のブロック大会を勝ち上がった15チームと開催地1チームの計16チームが参加し、ノックアウト方式で順位を競う。試合時間は70分間(前後半各35分)。勝敗が決しない場合、1回戦から3位決定戦まではPK戦によって次回戦進出チームおよび3位を決定する。決勝は20分間(前後半各10分間)の延長戦を行い、それでも決しない場合はPK戦で1位を決する。



鹿児島県が前回大会の雪辱を果たし初優勝!

社会人や大学生の1種登録選手で構成されたチームが臨む成年男子の部は、4日間を通じて滋賀県東近江市で行われた。

決勝まで勝ち進んだのは、鹿児島県と大分県だった。鹿児島県は、鹿児島開催だった2年前の前回大会に続き、鹿屋体育大学の単独チームが出場。「前回大会は地元で多くの人に応援してもらったが、(1-1の末にPK戦で敗れて)準優勝だった」(戸田峻平キャプテン)ことへの雪辱を誓い、今大会に臨んだ。初戦は香川県に1-0、準々決勝で鳥取県に2-0、準決勝では千葉県にPK戦の末に勝利し、無失点のまま勝ち進んできた。対する大分県は、翌週に行われる全国社会人サッカー選手権大会と11月に行われる全国地域サッカーチャンピオンズリーグを控えているジェイリースFCが単独チームで出場した。初戦では、開催地・滋賀県との接戦を3-2で競り勝つと、長崎県との準々決勝では1-1でPK戦を制し、準決勝では北海道を1-0で退け、粘り強く勝利して決勝まで駒を進めてきた。

決勝戦、地元の子どもたちから大声援を受ける中でスコアが動いたのは、25分。セットプレーのチャンスを得た鹿児島県が、吉川敬進のCKに石崎祥摩が頭で合わせ、ゴールネットを揺らした。追う大分県は、ハーフタイムから選手交代を効果的に使いながら終盤にかけて猛攻を仕掛けるが、ゴールを奪えない。鹿児島県も追

加点を狙うがスコアは動かず。白熱したゲームは1-0のまま終了し、連係の取れた守備とGK重松陽の安定したセー

ビングで1点を守り切った鹿児島県が無失点で初優勝を果たした。東近江市が準備した大会MVPに相当する「わたSHIGA輝く賞」(優勝チームから1名選出)は、鹿児島県のキャプテン戸田が受賞。個人としては「大会を通じてあまり良いパフォーマンスではなかった」と悔しさもある中、「ピッチ外も含めてキャプテンとしての務めをしっかりと果たそうと心がけていた」という誠実な姿勢でチームメートと共に2年前の雪辱を果たした。

決勝の前に行われた3位決定戦は、プリオベッカ浦安・市川の若手選手を中心に編成された千葉県と、BTOP北海道の単独チームで臨んだ北海道が対戦。千葉県は11分に清水勇貴がヘディングで先制点を奪うと、14分には栗田詩音がミドルシュートで追加点。終了間際には東駿がダメ押しで3点目を決め、3-0で勝利した。地元との気温差もある中で4日間を戦った北海道は、4位となった。



無失点で初優勝に輝いた鹿児島県。キャプテンの戸田は「これを自信にして、大学リーグも頑張っていきたい」と語った



千葉県は北海道との3位決定戦で勝利し、3位入賞



各試合では地元の子どもたちのエスコートで入場。両チームがほほ笑み合う清々しい光景も(写真は3位決定戦の千葉県対北海道)



大分県の西田恵は「滋賀の皆さんのサポートにとっても感謝している。この悔しさを次につなげ、目標であるJFL昇格を果たしたい」と前を向いた

わたSHIGA輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会 サッカー競技(少年男子)

【大会概要】

10月3日から7日、滋賀県守山市と甲賀市の2会場で開催。9地域のブロック大会を勝ち上がった23チームと開催地1チームの計24チームが参加し、ノックアウト方式で順位を競う。試合時間は70分間(前後半各35分)。勝敗が決しない場合、1回戦から3位決定戦まではPK戦によって次回戦進出チームおよび3位を決定する。決勝は20分間(前後半各10分間)の延長戦を行い、それでも決しない場合はPK戦で1位を決する。



東京都が7度目の優勝を飾る！

「わたSHIGA輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会」のサッカー競技少年男子の部は、滋賀県守山市と甲賀市で5日間にわたって開催され、9地域の予選を勝ち抜いた24チームが頂点を争った。

開催地の滋賀県と鹿児島県による1回戦がPK戦までもつれるなど、初日から接戦が目立った今大会。前年王者の広島県と準優勝の佐賀県が2回戦で敗れるなど番狂わせもあり、2度のPK戦を制した石川県と前年4位の愛媛県のほか、優勝経験のある東京都と静岡県がベスト4進出を果たした。

ファイナルに駒を進めたのは、12年ぶり7回目の頂点を狙う東京都と歴代最多21度の優勝を誇る静岡県だった。試合は序盤から東京都がサイド攻撃で押し込む。しかし、静岡県も15分、自陣でボールを奪って前進した岩下雄飛がゴール前にスルーパス。これを受けた澤田卓磨がシュートするもGKにはじかれる。さらに鎌田康勢が押し込んだがミートせず得点には至らない。「ただ蹴るだけでなく、つなぎながら面白いサッカーをしていこうと話していた。しっかりと体現できたのは良かったが、決めきるところやラストパスで質の甘さがあった」と、試合後に反省を口にしたのは主将の小枝朔太郎だった。

静岡県が決定機を生かせずにいると18分、東京都が、木下晴天の突破から右CKを獲得。梶山蓮翔がゴール前に入れたボールを橋本凜

来が頭で合わせて先制する。29分には左サイド攻撃から得たCKを梶山が直接決めて、東京都が2-0で前半を折り返した。

一進一退の展開となった後半は、44分に東京都のクリアミスを拾った小柳希碧がシュートを打つなど静岡県も決定機をつくった。それに対して東京都は、「うまいだけでは勝てない。球際や声で相手を圧倒しようと思っていた」(木下)と粘り強く対応する。70+4分には静岡県がサイドを崩して小枝が1点を返したが、反撃もここまで。

「選手たちは課題だった守備と向き合ってくれた」と太田匡人監督がたたえるパフォーマンスで、東京都が2-1とリードを守り抜いた。

試合後、太田監督は「選手を送り出してくれた人々を含め、“オール東京”で勝つことができた」と喜びを語った。大会MVPの「わたSHIGA輝く賞」を受賞したDFの石村琢人は「メンバーが集まらない中でも雰囲気よく盛り上げ、信頼関係をつくることができた」と勝因を語った。



東京都は決定力と粘り強い守備を見せて優勝。守備の要として活躍した石村琢人(右)は「わたSHIGA輝く賞」に選出された



決勝まで無失点で勝ち上がってきた静岡県は準優勝。決勝は前半に2点先制されたが、後半アディショナルタイムに1点を返し、最後までゴールを目指した



石川県は愛媛県との3位決定戦、1点差を守り抜いて3位入賞



愛媛県は3位決定戦で石川県に敗れ、前回大会に続いて4位となった

わたSHIGA輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会 サッカー競技(少年女子)

【大会概要】

10月3日から6日、滋賀県大津市と甲賀市の2会場で開催。9地域のブロック大会を勝ち上がった15チームと開催地1チームの計16チームが参加し、ノックアウト方式で順位を競う。試合時間は70分間(前後半各35分)。勝敗が決しない場合、1回戦から3位決定戦まではPK戦によって次回戦進出チームおよび3位を決定する。決勝は20分間(前後半各10分間)の延長戦を行い、それでも決しない場合はPK戦で1位を決する。



広島県が昨年のリベンジを果たして初優勝！

「わたSHIGA輝く国スポ 第79回国民スポーツ大会」サッカー競技少年女子の部は、滋賀県大津と甲賀市で4日間にわたって行われ、9地域の予選を勝ち抜いた16チームが頂点を争った。

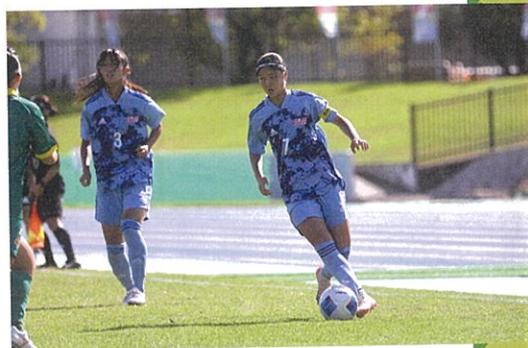
1回戦では開催地の滋賀県が愛知県に0-3で敗れたほか、前回大会覇者の静岡県が大分県に逆転負けを喫した。その一方で、3年連続で初戦敗退していた福島県は、初戦で優勝経験のある大阪府を1-0で退け、続く山口県との準々決勝も1-0で突破した。準決勝は大分県に、3位決定戦では鹿児島県に敗れて4位となったが、健闘が光った。それでも主将の岸上詩音は「普段、強豪チームと試合をする機会がない中、(全国では)一人一人の強度や質に差があると感じた」と悔しさをにじませた。

ファイナルに駒を進めたのは、共に初優勝を狙う大分県と広島県だった。広島県は昨年、少年男子と成年女子が優勝する中、少年女子は3位で大会を終えていた。「昨年はとても悔しい思いをしたので、今年は絶対に1位を取るぞという気持ちで挑んだ」と話すのは、昨年度も出場した金子ここな。試合は序盤、優勝経験のある静岡県と東京都を破るなど勢いに乗る大分県がロングボールで好機を見いだすが、対する広島県はスカウティング通り、サイドをうまく攻略し、10分には右サイドから仕掛けた中島莉空が先制点をマークす

る。33分には、相手のクリアミスを持った妹尾のんがゴールネットを揺らし、広島県が2点リードで前半を終えた。

「前半は少し焦ったが、監督から『もっと落ち着いて回せる』と言われ、後半からパスがつながるようになった」という金子の言葉通り、後半は広島県のペースで試合が進む。36分には加藤琉梨の右クロスから中原千尋が3点目を奪取。40分にもテンポよくつないで中央を崩すと、左からゴール前に駆け上がった中川奈南がゴールを決めて4-0で試合を終えた。

広島県の小川潤一監督は「(愛知県との)準々決勝で何もできない中で勝てたのはチームが成長した証し。準決勝と決勝はチームとしてのまとまりが出てきた」とリベンジ達成の要因を分析する。「いろいろなチームから選手が集まるので、団結力を意識していた。監督やコーチを含めて雰囲気良く、プレーも動きがよく合っていた」と話したのは中島采音。チームが一つになった結果が昨年のリベンジにつながったようだ。



昨年悔しい思いをした広島県の子金子ここな。強い気持ちで臨んだ今大会、攻守の要としてチームをけん引した



1点を争う展開となった福島県と鹿児島県の3位決定戦は、鹿児島県が試合終了間際に大藪妃紗の得点で勝利し、3位入賞



初の初戦突破を果たした福島県は準決勝まで勝ち上がって4位に



優勝経験のある強豪との激戦を制し、決勝に進出した大分県。決勝でも思い切りの良いプレーで躍動した

ブラジルに初勝利 南米勢を相手に 1勝1分け

FIFAワールドカップ26に向けて強化を進めるサムライブルー（日本代表）は、10月10日にパナソニックスタジアム吹田でパラグアイ代表と、同14日に東京スタジアムでブラジル代表とキリンチャレンジカップ2025を戦った。

※サムライブルーメンバー、公式記録は48〜49ページに掲載
※選手の所属は試合時



終了間際の得点で パラグアイと引き分ける

FIFAワールドカップ26まで約8カ月。サムライブルーはアジア予選突破後、本大会出場国などとの対戦を重ねながら新戦力の発掘とチーム強化に努めている。

日本サッカー協会（JFA）は10月2日、パラグアイ、ブラジルとの対戦に向けて記者会見を開催。森保一監督は「世界トップ基準の中で自分たちに何ができるか。何を磨かなくてはならないか。チャレンジした中で精査し、次に向かっていきたい」と話し、メンバー27人を発表した。斉藤光毅（クイーンズ・パーク・レンジャーズ）が初選出されたほか、約1年ぶりの招集となる谷口彰悟（シントトロイデン）ら6選手が代表復帰となった。同5日には

パラグアイ戦で強烈なミドルシュートを決めた小川。上田と共にFW2人の得点を森保監督も評価した



けがで不参加となった板倉滉（アヤックス）に代わって橋岡大樹（スラヴィア・プラハ）を追加招集、翌日には遠藤航（リバプール）がけがのため不参加となった。

選手は6日から随時、高円宮記念JFA夢フィールドに集合し、トレーニングを行った後、大阪に移動してパラグアイ戦を迎えた。

日本は、「得点にこだわっていきたくない」と森保監督が語ったように、ハイプレスで相手の自由を奪いつつ、両サイドを起点に積極的に仕掛けていく。一方のパラグアイは4-2-3-1の布陣でブロックを構築し、守備を固めながら日本のディフェンスライン裏のスペースを狙ったパスを多用してチャンスをつながう。

すると21分、パラグアイの狙い通りの攻撃でミゲル・アルミロンに



渡辺剛（フェイエノールト／写真）と鈴木淳之介（コペンハーゲン）はセンターバックとして2試合フル出場を果たした



決められ、日本は先制を許してしまつた。それでもすぐに反撃に出ると26分、相手陣内でボールを奪い、小川航基(NEC)が右足一閃。ボールは相手GKの手をはじいてゴールに吸い込まれた。

畳みかけた日本は、ウイングバックの伊東純也(ヘンク)と中村敬斗(スタッド・ランス)を中心に、前線の南野拓実(モナコ)、堂安律(フランクフルト)、小川が絡んで好機を演出する。

後半に入っても日本のペースで試合が進んでいく。しかし、得点できずにいると64分、ディエゴ・ゴメスに勝ち越しゴールを決められてしまった。日本はその直後に鎌田大地(クリスタル・パレス)と国際



2戦連続ゴールの上田。クラブでも代表でも好調を維持している

Aマッチ初出場となる斎藤を、78分には町野修斗(ボルシアMG)、相馬勇紀(町田)と攻撃的な選手を次々と投入して攻勢を強める。89分に上田綺世(フェイエノールト)をピッチに送ると、その5分後に伊東のクロスから上田がヘディングシュートを決めた。

日本は土壇場で追いつき、2-2で試合を終えた。

後半に3得点 ブラジルに歴史的勝利

サムライブルーはパラグアイ戦の翌日に東京に戻り、3日間トレーニングを行った。12日に前田大然(セルティック)がけがのためチームを離脱したが追加招集はせず、ブラジルとの一戦に臨んだ。

日本はパラグアイ戦から先発4人を変更。これまでと同様に3-4-2-1の布陣ながらも、守備時には5-4-1-1の形でブロックを形成し、4日前に韓国を5-0で破ったブラジルの強力攻撃陣に對抗した。攻撃でも序盤から果敢に仕掛け、前線の選手が連係してゴールに迫る。22分には堂安が右サイドを突破するが、得点にはあと一歩及ばなかった。

両チームがチャンスをつくり出す中、26分、見事な連係からパウロ・エンリケにゴールを決められ、ブラジルに先制されてしまった。日本はその6分後にも失点し、2点の

リードを許して前半を終えた。ハーフタイム、ゲームキャプテンを務めた南野が「まだこのゲームは死んでいない」とチームを鼓舞し、チーム全体で修正を図る。

後半は前線からのプレッシャーを強めて素早い攻撃を仕掛けていく。52分、前線の選手が高い位置で相手選手にプレッシャーをかけ、パスミス誘発すると、反応した南野が冷静に決めて1点を返す。その直後に伊東を投入して攻撃に変化を加えると、62分、堂

安のパスを受けた伊東が逆サイドにクロスを送り、走り込んだ中村がボレーで合わせて試合を振り出しに戻した。

逆転を期待する4万4920人の観客に後押しされ、日本の攻撃はさらに加速する。70分、伊東のクロスに上田がヘディングシュート。ボールが相手選手に当たってCKを獲得すると、そのCKを上田が頭で合わせて試合をひっくり返した。

勢いに乗る日本は、その後も相馬や望月ヘンリー海輝(町田)、田中碧(リ

ズ)ら交代出場の選手が次々とシュートを放つ。試合終盤には、巻き返しを図るブラジルに押し込まれる場面もあったが、GKの鈴木彩艶(パルマ)やディフェンス陣が最後まで集中を切らさず、1点のリードを守って勝利を手にした。

これまでブラジルと13試合を戦って2分け11敗と勝利がなかった日本は、1989年7月23日の初対戦から約36年、14試合目で初勝利を挙げた。

森保一監督 試合後コメント (要約)

パラグアイ戦後

先制点を奪いたかったが、それができず、2度のリードを許してしまった。1失点は仕方ないところもあるが、複数失点は避けたい。アグレッシブに戦いながらも堅く守らなくてはならないとあらためて感じている。「良い守備から良い攻撃」をさらに磨かなければならない結果になった。攻撃では、FWの選手が得点したことと今後の戦いで軸がしっかりすると思っている。そこからのチャンスのつくり方やバリエーションを増やしていく必要がある。

ブラジル戦後

ハーフタイムで選手は冷静に、建設的に話し合い、コーチらもより明確に選手に役割を伝えてくれた。チームが集中力を切らさず、修正して戦えたことが勝利につながった。理想通りにならない中でも結果にこだわりながら、どう現実と向き合い、自分たちが成長するためにどうすべきか、そこにトライしながら試合を進めることを今後も続けていきたい。今日の勝利で、今後、各チームからのマークが厳しくなる。警戒心を持ちながらさらに前進していきたい。

2025年10月10日 19:24
大阪/パナソニック スタジアム 吹田

日本 2-2 パラグアイ

26' 小川航基
90+4' 上田綺世

1-1
1-1

21' ミゲル・アルミロン
64' ディエゴ・ゴメス

GK ① 鈴木彩艶
DF ④ 渡辺剛
② 瀬古歩夢
⑤ 鈴木淳之介
MF/FW ⑧ 南野拓実
→ 66' ⑮ 鎌田大地
⑩ 堂安律
→ 78' ⑦ 相馬勇紀

MF/FW ⑬ 中村敬斗
→ 66' ⑭ 齊藤光毅
⑭ 伊東純也
⑮ 田中碧
→ 78' ⑨ 町野修斗
⑯ 小川航基
→ 89' ⑰ 上田綺世
⑳ 佐野海舟
→ 89' ⑥ 藤田雄輝

2025年10月14日 19:35
東京/東京スタジアム

日本 3-2 ブラジル

52' 南野拓実
62' 中村敬斗
71' 上田綺世

0-2
3-0

26' パウロ・エンリケ
32' ガブリエル・マルチネリ

GK ① 鈴木彩艶
DF ③ 谷口彰悟
④ 渡辺剛
⑤ 鈴木淳之介
MF/FW ⑧ 南野拓実
→ 74' ⑰ 田中碧
⑩ 堂安律
→ 85' ⑭ 望月ヘンリー海輝

MF/FW ⑮ 中村敬斗
→ 74' ⑦ 相馬勇紀
⑮ 鎌田大地
→ 85' ⑨ 小川航基
⑰ 上田綺世
→ 74' ⑨ 町野修斗
⑳ 久保建英
→ 54' ⑩ 伊東純也
㉑ 佐野海舟



伊東は2試合で3アシストと攻撃をけん引した

欧州遠征は1分け1敗 強豪を相手に課題を残す

来年3月に行われるAFC女子アジアカップオーストラリア2026に向けて強化を進めるなでしこジャパン（日本女子代表）は、10月に欧州遠征を行い、現地時間24日にイタリアで同国女子代表と、同28日にスペインでノルウェー女子代表と戦った。

※なでしこジャパンメンバー、公式記録は49ページに掲載
※選手は所属は試合時

長谷川の得点で追いつき イタリアと引き分ける

イタリアは、今年7月に行われたUEFA Women's EURO 2025（UEFA欧州女子選手権）で3位、ノルウェーも同大会で準々決勝進出と、いずれも欧州の強豪だ。この2チームとの対戦に向けて選出されたなでしこジャパンのメンバーは、23人のうち20人を「海外組」が占め、そのうちイングランドの女子スーパーリーグから13人が選出されるなど欧州でプレーする選手が多くなる見込みだ。けがから復帰した清水梨紗（リバプール）が約1年3カ月ぶり、遠藤純（エンジェル・シテイ）が約1年8カ月ぶりの代表選出、キャプテンの長谷川唯（マンチェスター・シテイ）も半年ぶりの復帰となった。

遠征に先立って行われたオンライン会見でニルス・ニールセン監督は「ここからは第2フェーズ。選手

を知る段階から結果を求める段階に入る」と語り、来年のAFC女子アジアカップに向けて「ある程度選手を絞っていく」と、メンバーを固める段階に移行する方針を示した。また「2トップや3バック、5バックも状況に応じて使えるように準備していく」と、戦術の幅を広げる狙いも明かした。選手は10月20日から順次イタリアに集合して3日間のトレーニングと調整を行った。

日本は初戦のイタリア戦、4バックの前にアンカーとして宮澤ひなた（マンチェスター・ユナイテッド）を据え、その前に長谷川と松窪真心（ノースカロライナ・カレッジ）が並ぶ4-3-3のフォーメーションを採用。キックオフ直後から強度の高いプレスを仕掛け、イタリアの縦に速い攻撃に対してボール奪取のタイミングを見極めながら試合を進めた。



攻守の要としてチームをけん引したキャプテンの長谷川。イタリア戦では同点ゴールを記録

一進一退の展開の中、日本は13分に藤野あおば（マンチェスター・シテイ）、16分に松窪がシュートを放つ。24分にはアーリークロスからイタリアにチャンスをつくられるが、ここはGK山下杏也加（マンチェスター・シテイ）が好セーブで防い



清水は右膝前十字靭帯断裂のけがから復帰。
2試合に出場し、右サイドからチャンスを出すなど存在感を示した



水が右サイドから攻撃機会を増やして2点目を狙ったが、スコアは動かず1-1で終了した。

最後までゴールが遠く ノルウェーに敗れる

なでしこジャパンはイタリア戦の翌日にスペインに移動し、中3日でノルウェーとの一戦に臨んだ。初戦から先発メンバー2人を変更し、右サイドバックに清水、右サイドハーフに浜野まいか(チエリシー)を起用。イタリア戦で右サイドを務めた清家がワントップに、ワントップだった田中がトップ下のポジションに移った。

試合開始早々にカウンターアタックからノルウェーがシュートを放てば、その直後に清水のパスに清家が抜け出して

ループシュートを放つなど、序盤から互いに好機をつくる。日本はボールを保持しながら攻撃の糸口を探り、守備では積極的にプレスをかけていくが、27分、相手陣内でボールを奪われると一気に攻め込まれて失点を喫する。

1点のビハインドで迎えた後半は、スタートから南萌

華(ブライトン)と長野風花(リヴァプール)を投入して修正。しかし、プレスのタイミングのずれを突かれる形で51分に追加点を奪われてしまった。追いつきたい日本は54分、右サイドの藤野から長谷川につながる、長谷川の折り返しを宮澤がワントップで合わせたが、ボールはクロスバーをたたく。

主導権を握りながらも得点が奪えない日本は、次々と攻撃的な選手をピッチに送る。65分、前線に谷川を、左サイドに遠藤を投入。遠藤は果敢に仕掛けてサイドから再三チャンスを出す。81分には白垣の(C大阪)が国際Aマッチデビュー。同じく交代出場の初木結

花(エバートン)と共に攻撃に厚みを加えたが、最後まで得点を奪うことはできず、0-2で試合を終えた。

ニールセン監督は2試合を通じて核となるメンバーを固定しつつ、複数ポジションをこなせる選手の起用を試みた。欧州の強豪との2連戦で得た経験を糧に、来年3月のAFC女子アジアアカップに向けて「第2フェーズ」を力強く進めていく。

結果的にノルウェーの方が速く、強かったといえる。(日本の選手は)相手の動きに反応する形で、自分たちから活発に動いているようには見えなかった。ボールを保持する日本の強みを常に出さなければ難しいゲームになる。来年3月のAFC女子アジアアカップまでキャンプは1回しかないで、足りない部分にしっかりとフォーカスしていきたい。全選手に勝ちたいという強い気持ちを持ってもらい、日本の強みをより追求していく。

清水は右膝前十字靭帯断裂のけがから復帰。2試合に出場し、右サイドからチャンスを出すなど存在感を示した

清水と同じく膝の前十字靭帯断裂から復帰した遠藤。ノルウェー戦で約1年8カ月ぶりに国際Aマッチのピッチに立った

清水と同じく膝の前十字靭帯断裂から復帰した遠藤。ノルウェー戦で約1年8カ月ぶりに国際Aマッチのピッチに立った

清水と同じく膝の前十字靭帯断裂から復帰した遠藤。ノルウェー戦で約1年8カ月ぶりに国際Aマッチのピッチに立った

ニルス・ニールセン監督 試合後コメント (要約)

イタリア戦後

イタリアはUEFA Women's EURO 2025で良い成績を残した素晴らしいチーム。失点は、相手の得意とする形だった。日本も前半に何度かあったチャンスを決めていれば、この試合は勝てたと思う。ハーフタイムに(選手に)ポジションをもっと高くしようと伝え、それがうまくいき、失点はしたがすぐ追いつくことができた。後半は日本が試合を支配する時間が長く、選手たちも勝つためにできることをやってくれた。

ノルウェー戦後

結果的にノルウェーの方が速く、強かったといえる。(日本の選手は)相手の動きに反応する形で、自分たちから活発に動いているようには見えなかった。ボールを保持する日本の強みを常に出さなければ難しいゲームになる。来年3月のAFC女子アジアアカップまでキャンプは1回しかないで、足りない部分にしっかりとフォーカスしていきたい。全選手に勝ちたいという強い気持ちを持ってもらい、日本の強みをより追求していく。

2025年10月24日 18:15 (現地時間)
コモ(イタリア) / Stadio Giuseppe Sinigaglia

日本 1-1 イタリア

63' 長谷川唯 0-0 52' Giada Greggi 1-1

GK ① 山下杏也加	MF ⑭ 長谷川唯
DF ④ 熊谷紗希	⑮ 藤野あおば
⑤ 高橋はな	⑯ 松窪真心
⑥ 古賀塔子	→ HT ⑩ 谷川萌々子
⑭ → 80' ② 清水梨紗	FW ⑪ 田中美南
⑮ 守屋都弥	→ 76' ⑫ 植木理子
MF ⑦ 宮澤ひなた	
⑧ 清家貴子	
→ 61' ⑬ 浜野まいか	

2025年10月28日 18:00 (現地時間)
ラ・リネア(スペイン) / Estadio Municipal de La Linea

日本 0-2 ノルウェー

27' 51' Signe Gaupset 0-1 0-2

GK ① 山下杏也加	MF ⑥ 清家貴子
DF ② 清水梨紗	→ HT ⑩ 長野風花
→ 81' ⑬ 白垣うの	⑭ 長谷川唯
⑤ 高橋はな	⑮ 藤野あおば
⑥ 古賀塔子	⑯ 浜野まいか
→ HT ③ 南萌華	FW ⑪ 田中美南
⑰ 守屋都弥	→ 65' ⑫ 遠藤純
⑱ → 65' ⑬ 遠藤純	
MF ⑦ 宮澤ひなた	
→ 81' ⑭ 初木結花	



国際Aマッチデビューを果たした20歳の白垣。試合後、「自チームでも力を発揮してもっと高みを目指したい」と話した



JAPAN NATIONAL TEAM

フットサル日本代表 国際親善試合

王者ブラジルとの2連戦で 収穫と課題を得る

フットサル日本代表の国際親善試合が10月17日と19日、静岡県の北里アリーナ富士で行われた。国内での国際親善試合は2023年12月以来およそ2年ぶりで、高橋健介監督が就任してからは初となる。昨年のFIFAフットサルワールドカップ王者であるフットサルブラジル代表を対戦相手に迎えた。

※フットサル日本代表メンバーおよび公式記録は51ページに掲載／所属は試合時



あらゆる展開を想定し、ブラジル戦に臨む

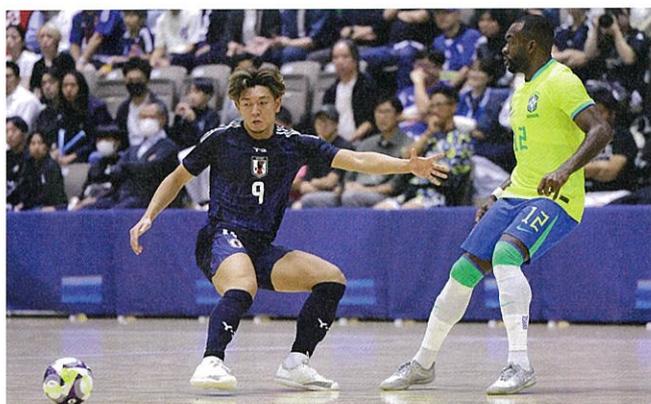
フットサル日本代表を率いる高橋健介監督は今回の国際親善試合を、来年のAFCフットサルアジアカップ（インドネシア）や2028年のFIFAフットサルワールドカップ出場への道筋の一つと位置づけ、強豪チームとのマッチメイクを希望していた。メンバーを固定することのリスクも考慮し、9月のAFCフットサルアジアカップ予選から数人の選手を変更。ベテランの吉川智貴（名古屋オーシャンズ）やスペインでのプレー経験もある山田凱斗（しながわシティ）ら16人が選出された。

日本は、これまでも主要な大会の前にブラジルと対戦し、世界レベルを体感することで好成績を収めてきた。高橋監督は「ブラジルに勝つための準備はするが、特別な何かを（チームに）取り入れるつもりはない」と話し、就任以来、積み重ねてきた規律のあるプレーに加え、相手の攻撃を受ける時間が長くなることを想定した守備や守備の時間を減らすための攻撃に力を注いだ。

入念な準備をして臨んだ初戦は、試合前に想定していた通り、ブラジルが高い攻撃力を発

揮する。日本も身を呈した守備と、GK田淵広史（名古屋オーシャンズ）の好セーブでこれを跳ね返していたが、4分にブラジルのセットプレーが日本の選手に当たると不運な形で失点。1点を追う日本は相手の攻撃に耐えながらチャンスを見いだそうとするが、カウンターアタックに出る場面でもブラジルの素早い帰陣によって決定機をつくることのできない。

17分には、かつてFリーグの名古屋オーシャンズで活躍したラファにヒールシュートを決められ、2点ビ



初戦は0-4で敗れたが、試合の半ばまでは1点ビハインドのまま相手に食らいついた



GK田淵は再三にわたる好セーブで日本の守備陣を最後尾から鼓舞。存在感を示した

試合終盤の猛攻で同点まであと一步に迫る

迎えた第2戦では吉川と内村俊太(湘南ベルマーレ)を同時に先発起用し、守備を固めながらチャンスメイクを図る。しかし、2分にセットプレーからジョアン・ビクトルにゴールを許すと、その35秒後にもセットプレーからピットに決められ、2点を追う展開となる。まずは1点を返したい日本だったが、守備時の危機察知能力に長けたブラジルを相手にチャンスをつくることできない。7分にはクレベルのミドルシュートでさらに1点を失い、早々に3点のビハインドを負った。

それでも日本の選手たちは諦めず、ピッチ内外で声をかけ合うなど闘志を見せる。17分、FKを獲得すると、清水和也(名古屋オーシャンズ)がシュートを放つ。そのこぼれ球に新井裕生(しながわシティ)が詰め、ようやくブラジルゴールをこじ開ける。

1-3で迎えた第2ピリオド、追加点を狙う日本だったが、スコアを動かすことができず、初戦に続き、内田をGKにしてパワープレーを仕掛けると、残り3分を切ったところで山中翔斗(ベスカドーラ町田)がシュートを放つ。ブラジルのGKレオ・グジエウがはじいたボールが真上になると、ゴール前に詰めていた新井がオーバーヘッドキック。これがゴールネットを揺らし、1点差に迫った。1700人を超える観客の大声援を受け、最後まで追加点を狙ったが、追撃は及ばず試合終了。

国際親善試合を2戦2敗という成績で終えた。第2戦で活躍した新井は、「観客が自分の名前を呼ぶ声援に後押しされた。(2得点は)ゴールでチームに勢いをもたらすことを意識した結果」と振り返りながらも、「立ち上がりの3失点が重かった」と悔しさをにじませた。高橋監督は「厳しい状況から巻き返すことができ、目標に向かう大きな力になったが、立ち上がりの3失点が悔やまれる。1点差ではあつたけれど、(相手との)距離を突きつけられた感覚だ」と試合を振り返った。

選手たちの多くは今回のブラジルとの連戦を通じて「個人の質を高めること」を今後の課題に挙げた。その中で吉川は「個の質も大切」と前置きをしながらも「それだけでは難しい部分もあるので、組織力でカバーしていく必要がある」と続けた。フットサル日本代表は今回の経験を経て、来年1月に開催されるAFCフットサルアジアカップでの王座奪還を目指す。

ハイインドで第1ピリオドを折り返した。第2ピリオドの立ち上がりにはピットに個人技の高さを見せられ失点。その後、GKを活用した攻撃を狙って交代カードを切るが、ブラジルのボール奪取から得点され、4点を追う展開となった。試合終盤にはFPの内田隼太(エントレリオスサラゴサ/スペイン)がGKのポジションに入ってパワープレーを仕掛けたが、得点を奪うことができず0-4で敗れた。

高橋監督は、「1対1から(ボールが)こぼれた後の失点と、ボールを効果的に持ち、ゴールに迫る回数を増やすことが改善点」と選手たちに伝えた。試合の翌日には細かい配置を確認しながらトレーニングを行い、2戦目に備えた。



一線を退くことを表明していた吉川。今回の連戦でも献身的なプレーを披露した

た。第2戦で活躍した新井は、「観客が自分の名前を呼ぶ声援に後押しされた。(2得点は)ゴールでチームに勢いをもたらすことを意識した結果」と振り返りながらも、「立ち上がりの3失点が重かった」と悔しさをにじませた。高橋監督は「厳しい状況から巻き返すことができ、目標に向かう大きな力になったが、立ち上がりの3失点が悔やまれる。1点差ではあつたけれど、(相手との)距離を突きつけられた感覚だ」と試合を振り返った。

試合結果	
第1戦	10月17日(金)
日本	0-4 ブラジル
第2戦	10月19日(日)
日本	2-3 ブラジル
得点者:	17'新井裕生
	39'新井裕生
	(日本のみ)



第2戦で2得点を挙げた新井(写真左)。シュートのこぼれ球への鋭い反応が光った

国際親善試合 ビーチサッカー日本代表

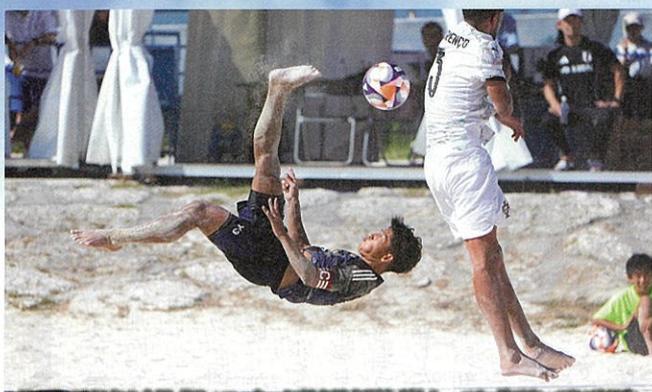
強豪。ホルトガルと2連戦

ビーチサッカー日本代表は10月4日と5日、沖縄県の西原きらきらビーチで国際親善試合を戦った。昨年5月に田畑輝樹監督が就任してから国内では初となる親善試合で、相手は、FIFAビーチサッカーワールドカップで2度の優勝経験を誇るビーチサッカーホルトガル代表。日本はこの強豪を相手に初戦で敗れたが第2戦では大金屋を挙げ、実りある2連戦となった。

※ビーチサッカー日本代表メンバーおよび公式記録は52ページに掲載／所属は試合時

コンセプトは「超攻撃的」 自分たちのミスが課題

ビーチサッカーホルトガル代表は、ワールドカップで2度の優勝経験があり、今年5月のセリエル大会では3位に入賞した強豪だ。世界ランキングでは3位につ



第1戦で2得点の大場。「フィニッシュに持ち込む形などトレーニングでやっていることを出せた部分もあった」と手応えも

ける(BSWWビーチサッカーワールドワイド/10月1日発表、日本は同8位)。日本にとっては、2019年ワールドカップ・パラグアイ大会の準決勝でPK負けを喫し、前回のセリエル大会では準々決勝で6-7と敗れている相手で、これまでの対戦成績は1勝1分け12敗(38得点69失点)。田畑輝樹監督は強豪との真剣勝負に向け、「チームとして強化を図り、さらなる進化につなげていきたい」と話した。

日本サッカー協会(JFA)は9月22日に招集メンバー12人を発表。サッカーからビーチサッカーに転向した森岡亮太(ドーサルM:FC/アシヤ)が初招集されるなど、セリエル大会から半数の選手が入れ替わった。

田畑監督が目指すのは「超攻撃的ビーチサッカー」。第1戦、立ち上がりから積極的に前に出る。GK古里健(レーヴェ横浜)が高い位置まで持ち上がるなど、リスクを負いつつも攻撃を組み立ててチャンスをつかがう。しかし、先制したのはホルトガルだった。2分、ドリブル突破からゴールを決め、その3分後にはGK古里に出されたパスを拾って追加点を挙げる。



昨年、ウィッセル神戸で現役引退した森岡(左)はビーチサッカー選手として復帰。第1戦で代表初出場を果たした(中央は伊藤、右は大場)

しかし、日本も負けていない。茂怜羅オズ(東京ヴェルディBS)のミドルシュートで1点を返すと、茂怜羅のロングシュートがはじかれたところを「何かが起きるかもしれないと思って詰めていた」という大場崇晃(東京ヴェルディBS)が逃さず同点とする。ところが、第2ピリオドではホルトガルに押され、セットプレーから失点。江黒力(ソーマブライア沖繩)のポレーシュートで再び同点に追いついたが、相手の技ありシュートや連係プレーから得点を決められる。第3ピリオドも、攻勢に出た裏を突かれて失点。さらにゴール近くで不用意に与えたFKを決められ、4-7で敗れた。

シュート本数では日本が1上回ったが、



GK古里は「ワールドカップでも日本が多く崩れていてもミスなどから負けてしまった。チャンスにしっかりと決め、守るところは守る。こういう相手との試合ではそこで差が出てくる」と敗戦を振り返った。田畑監督も「自分たちでミスしてしまう部分は前回のワールドカップでも出た課題。改善に取り組んでいたが、今日の試合でも出てしまった。実力がまだまだ足りないということ。日の丸を背負っている責任をプレーで示す必要がある」と厳しい表情。しかし、「悪いところだけではなかった」と話し、現状を見据えて第2戦に向かった。

「すごい試合をした」 好守に高い集中力で勝利

翌日の第2戦、日本は開始から高い集中力と強度の高いプレーを攻守に展開する。2分坪谷亮太（ソーマブライア沖縄）がGK古里からの浮き球をたたいて豪快に先制点を決めると、森岡が縦に突破して上げたクロスは相手のオウンゴールを誘ってリードを広げる。第1戦のポルトガルは低く構えて守りを固めていたが、この日は攻守にアグレッシブな姿勢で応戦。第2ピリオドは両者とも無得点に終わったが、その中でも日本は、茂怜羅が高い位置でボールを奪ってロングシュートを打ち、約2年ぶりの代表戦復帰となった伊藤龍之介（アヴェルダージ熊本BS）が前線からプレスを生み出すなど、積極的な守備から好プレーを生み出した。前日に悔しい思いをしたGK古里も体を張ったセーブでゴールを死守した。

第3ピリオドも集中を高めて追加点を狙いに行く。27分にFKを決められて1点差とされたが、33分には自陣の深い位置でファウルを受けて得たFKから、上里琢文が相手GKの意表を突く長いループシュートでゴールネットを揺らす。「ずっと練習していた形。ファウルをもらったら絶対に蹴ろうと決めていた（上里）という狙い通りの3点目だった。さらに1分後、坪谷が相手のブロックをうまくかわして自身2点目を蹴り込み、4-1で日本が勝利をものにした。勝利に貢献した上里は「ワールドカップの決勝に進んだくらい

の喜び」と表現。また、選手として出場した19年のワールドカップでPK負けを経験している田畑監督も「本当にすごい試合をした」と、歴史的な勝利をかみ締めた。ビーチサッカー日本代表は田畑監督の下、戦術の浸透を図っている。キャプテンを務める坪谷は「今のチームは全員がハードワークできることが強み。第2戦も良い守備からリズムをつくり、攻撃につなげられていた」と手応えを語った。

もう一度対戦したとき、そこでも勝てるようにしっかりチームをつくっていきたい」と田畑監督。第1戦での課題を踏まえてつかんだ勝利は、チームにとって大きな経験値と自信をもたらす一戦となった。



2得点の活躍を見せた坪谷。「個性的なメンバーも加わり、その良さも生かしてさらにチーム力を上げていく」とコメント



第2戦ではGK古里を中心にポルトガルの攻撃を最少失点に抑えた

試合結果

第1戦 10月4日（土）14:00
日本 4-7 (2-2, 1-3) ポルトガル
得点者：8'茂怜羅オズ、12'大場崇晃、13'江黒力、32'大場崇晃（日本のみ）

第2戦 10月5日（日）14:00
日本 4-1 (2-0, 0-0) ポルトガル
得点者：2'坪谷亮太、4'オウンゴール、33'上里琢文、34'坪谷亮太（日本のみ）

国際親善試合のアーカイブおよび
ハイライト映像はこちら（JFATV）
https://www.jfa.jp/national_team/beach_2025/20251005/tv.html



読者プレゼント

応募締切：2025年12月15日(月)当日消印有効

アディダス ジャパン(株)提供

日本サッカー協会のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「キッズ TIROシンガードMTC(Lサイズ)」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は、日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーンや目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページもご用意しました。今号では「ハンドタオル(SAMURAI BLUE) STADIUM LINE」3種セットを1名様にプレゼントします。



<https://official-store.jfa.jp/>

日本サッカー協会監修 『サッカーの子を育てる』(株式会社Pヴァイン)

2025年11月26日に発売された書籍『サッカーの子を育てる』を3名様にプレゼントします(書籍の詳細は64ページ参照)。



プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/AXoNND6s62ZvHvbFA>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル
公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見を明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。発送は2026年1月中旬から下旬の予定です。

*収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいたはがきは返却しません。

JFA公式アプリ JFA Passport

全てのサッカーファミリーのためのJFA公式アプリです。

- 会員限定で参加できるイベント情報が満載
- アプリでしか見られないオリジナル動画を配信
- お得なクーポンやプレゼント情報を紹介

<https://www.jfa.jp/jfapassport/>



[サッカークイズを毎月更新中]

11月のトピックス予定:

FIFAフットサル女子ワールドカップ、東京2025デフリンピック SAMURAI BLUEクイズも出題中

◎サッカーのルールを学べるクイズも配信中!

JFA DREAM FUND

JFAの基金窓口を開設。寄せられた寄付金はJFAの理念やビジョンに基づき、主にサッカーの普及や日本代表のさらなる強化に使用します。

<https://jfa.jp/dream-fund/>



JFAクラウドファンディング ~みんなの夢を応援しよう!

JFAがCAMPFIREと共に提供するサッカーに特化したクラウドファンディングサイトです。

<https://jfa.camp-fire.jp/>



<起案者のメリット>

- ✓ お得にクラウドファンディングを実施できる
- ✓ サッカー専用の無料セミナーがあり、初めてでも安心して始められる
- ✓ サッカーに関心がある人が集まるJFA公式サイトに掲載できる

<支援者のメリット>

- ✓ さまざまなサッカー活動の夢と挑戦を応援することができる
- ✓ サッカーに関連するリターンを得ることができる

公益財団法人日本サッカー協会機関誌

JFA news

発行人：湯川和之

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

TEL.050-2018-1990(代)

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部

編集：編集長 多田寛

JFAnews編集部/(株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2025年12月情報号は、2025年12月18日発売予定

[特集]みんなで!セーフゲーディング(仮題)

*特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

https://req.qubo.jp/jfa_coach/form/entry

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、

年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。



チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

<https://www.jfa.jp/registration/>





サッカーのチカラで、
日本中を笑顔に。



KIRIN キリンはサッカーを愛するすべての人を応援しています。

2024年11月SAMURAI BLUE招集メンバー/2024年10月なでしこジャパン招集メンバー



発行人 瀧川和之
発行所 公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004
東京都文京区後楽4丁目4-18 トヨタ東京ビル
電話03-50(2018)1990(代)



アシアズ!

定価600円(本体545円)